

i C o T o B a 年 報

愛知県立大学 iCoToBa (多言語学習センター) 年報



第 2 号

2015 (平成 27) 年 3 月

愛知県立大学

i C o T o B a 年 報

愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）年報



第 2 号

2015（平成 27）年 3 月

愛知県立大学

目次

はじめに	1
1. iCoToBa 概要	3
2. iCoToBa ガイダンス	7
2.1. iCoToBa Welcome Week	7
2.2. iCoToBa 新入生ガイダンス	8
3. iCoToBa の授業	13
3.1. 2014 年度前期開講授業	13
3.2. 2014 年度後期開講授業	43
3.3. 2014 年度サマープログラム	73
3.4. 2014 年度スプリングプログラム	79
4. iCoToBa のイベント	83
4.1. 2014 年度 iCoToBa 開催イベント	83
4.2. 留学体験発表会	89
4.3. グローバル関連イベント	91
5. 教育活動	95
6. e-Learning プログラムの概要	101
6.1. 2 年目の e-Learning と今後の展望	101
6.2. ポルトガル語学習における e-Learning の導入とその効果	104
7. アドバイジング	107
7.1. 語学学習アドバイジング	107
7.2. 留学アドバイジング	109
8. 学生活動	111
9. 教材開発・教育実践	113
9.1. 教材開発	113
9.2. 教育実践に関する報告	115
10. 広報活動	119
10.1. web による広報活動	119
10.2. manaba コミュニティ: みんな集まれ iCoToBa 広場	120
11. 資料	123
11.1. iCoToBa 学部・学科別利用者一覧	123
11.2. iCoToBa 開講授業	123
11.3. iCoToBa 授業アンケート集計結果	131
11.4. iCoToBa 施設見学者	136
11.5. 高等学校の iCoToBa 施設見学	137
11.6. マスコミ掲載記事	139
11.7. 2014 年度 iCoToBa イベントポスター・パンフレット	141
むすびにかえて	155

はじめに

宮谷 敦美(iCoToBa 委員長・国際関係学科)

iCoToBa(多言語学習センター)は、2013 年 4 月に開設され、本年度は 2 年目にあたる。2013 年度は、iCoToBa 教員と iCoToBa 委員が協力しあい、ゼロから手探りでプログラムをつくりあげた。本年度は、初年度の反省もふまえ、さまざまな改善とさらなる新たな試みにチャレンジしている。

現在、iCoToBa の一日あたり平均来室学生数は 50 人を超え、学生が気軽に集い外国語でのコミュニケーションに触れる場として認知されてきている。また、本年度は iCoToBa の授業の一環として学生が学外機関と交流する教育イベントの実施や、学生によるプロジェクトの実施が増え、iCoToBa が目指す「学生が自主的に、コミュニケーションや仲間と協働して学ぶ場」に一步近づいたと感じている。

一方で、文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(2013 年度末にグローバル人材育成推進事業から名称変更)」の助成が残り 2 年(2016 年度末まで)となった。今後の iCoToBa の運営について、さまざまな課題に直面する中で、本学のグローバル化のプラットフォームとしての機能を果たすべく、学内の他部署との連携をさらに深めている。例えば、2014 年 4 月より教養教育センターの協力を得て、教養英語担当外国人教員 4 名が iContact(iCoToBa で学生が外国人教員と自由にコミュニケーションを楽しめる時間)を週当たり 6 時間担当し、外国語学部のみならず他学部の学生も広く利用できるようにした。また、スプリングプログラムでは、他学部および大学院生を対象とした TOEIC 講座を開講するなど、全学学生への教育支援に取り組んでいる。今後もさらなる協働体制を構築していきたい。

ご高覧いただき、次年度に向けての改善点など、忌憚ないご意見をお寄せいただければ幸いである。

iCoToBa 概要

宮谷 敦美(国際関係学科)

iCoToBa(多言語学習センター)は、2013 年 4 月に本学の外国語学習支援と異文化理解および異文化交流推進を目的に開設された。iCoToBa には、英語 2 名、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語各 1 名の外国人教員がバラエティ豊かな語学授業を提供している。また、留学アドバイザー教員と語学学習アドバイザー教員による個別指導も行っており、学生の外国語能力養成と留学計画を含めた計画的な学修ができるようサポートしている。

ここでは、iCoToBa が果たしている役割を概観した上で、開講科目と施設、運営体制について述べる。

iCoToBa の役割

1) 語学授業の提供

英語 45 時間(90 分×30 コマ)、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語は、各 15 時間(90 分×10 コマ)の語学授業を開講している。語学授業は、専攻外国語と第 2 外国語の授業や外国語学部学生の必修科目の時間帯を調査し、できるだけ学生が履修しやすい時間帯に設定するように工夫している。(第 2 章、第 3 章、第 5 章参照)

2) 語学学習アドバイジングと自律学習支援

iCoToBa では、専任の語学学習アドバイザーが、TOEFL や IELTS など、英語圏の大学への留学に必要な試験準備の指導に加え、留学準備に関する個別相談にのっている。また、e-Learning を用いた語学学習に学生が自主的に取り組めるよう、e-Learning ガイダンスを立案・実施している。英語以外の e-Learning については、各学科・専攻の iCoToBa 委員が中心となり、使用方法や勉強方法について説明会を開催している。(第 6 章、第 7 章参照)

3) 留学アドバイザーによる個別指導および留学体験報告会の実施

専任の留学アドバイザーが、国際交流室との協働のもと、個別に留学準備のための相談に応じている。加えて、留学体験をした学生の体験談を聞くイベントなど、学生への留学への動機づけを目指したイベントを計画・実施している。(第 4 章、第 7 章参照)

4) 異文化理解、異文化交流を促進させるイベントの開催

外国の文化を紹介・体験するイベントや、本学留学生や近隣機関との交流イベントなどを開催している。これは、本学の学生にとって、異文化を理解し実際に外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、教員が企画運営をするのではなく、企画段階から学生も参加することで、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。(第 4 章参照)

5) 学生生活のサポート

4 の活動を契機に、学生自身が「ともに創りだす楽しさ」を発見することも多い。これを成長の機会ととらえ、iCoToBa では、学生自身が企画を作成し実施することも推奨、サポートしている。

現在では、学生の自主グループ iCoToBa supporters club (ISC) が組織化され、iCoToBa の運営に積極的に参画している。(第 8 章参照)

6) 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(旧グローバル人材育成推進事業)」の促進

2012 年 9 月に採択された上記事業の推進のため、グローバル人材育成推進室や教養教育センターと協働して事業を実施している。(第 4 章参照)

7) 情報発信

HP や manaba を活用し、外国語学習や留学に関する情報提供を行っている。また、学生の自主的な活動のサポートとして manaba コミュニティを立ち上げ、運営している。(第 10 章参照)

加えて、iCoToBa で取り組んでいる語学授業や教育手法について研究会での実践報告や教材開発も行っている。(第 9 章参照)

iCoToBa では、2013 年度より外国語学部で導入したインターネット・ポートフォリオシステム manaba を、iCoToBa の科目履修システムや学生指導などのコミュニケーションツールとして積極的に活用している。

iCoToBa 開講授業の目的

iCoToBa では、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の 5 言語とこれらの言語圏の文化について、学生のレベルに応じ 4 種類の授業を開講している。

1) 総合的な語学能力養成

「話す、聞く、読む、書く」の 4 技能に基づいた授業、および、留学生活に必要となる場面でのコミュニケーション能力養成を目指した授業

2) 言語圏の社会や文化について理解を深める

視聴覚教材やインターネット、レアーリア(実物教材)を取り入れ、ディスカッションや学生による調査を取り入れた授業

3) グループで課題を決め、外国語を用いてプロジェクトワークを行う授業

学生自身がリサーチし、外国語でまとめ、発表する、情報リテラシーについても学べる授業

4) 語学検定対策

外国語学部「グローバル人材プログラム」で指定されている語学検定対策授業、および英語圏への留学に必要となる TOEFL、IELTS の授業

なお、iCoToBa で開講されている各言語の「日本紹介」、「比較文化セミナー」、「リサーチ発信プロジェクト①」「リサーチ発信プロジェクト②」、「学生共同プロジェクト」は、「グローバル人材プログラム」の指定科目である。

施設の特徴

iCoToBa は、交流スペースである「i Lounge」、パソコンを利用し e-Learning コンテンツなどを学習できる「Self Study Space」、語学授業やミーティングに活用できる「Activity Space」からなる。

1) i Lounge

学生が自由に会話を楽しめるスペースで、昼休みにはいつも多言語が飛び交っている。
Visual-Study スペースでは、海外のテレビ番組を視聴したり、海外映画を楽しむことができる。
また、語学学習や留学のための雑誌や書籍なども自由に閲覧できる。

2) Self Study Space

Self Study Space には、パソコンが 14 台設置され、自由に使うことができる。すべてのパソコンには、ロゼッタストーンソフトがインストールされており、e-Learning システムなども活用して自分のペースで語学学習に取り組むこともできる(受付でヘッドホンの貸し出しも行っている)。
また、場に縛られない自由な学習のために、貸出用の iPad を 10 台、ノートパソコンを 5 台設置している。

3) Activity Space

可動式のテーブルと椅子が配置され、特大サイズのホワイトボードとインターネット対応電子ホワイトボードを完備している。このスペースでは、プロジェクト型の授業やピア学習など、さまざまな形態の授業を行うことができる。

iCoToBa 運営体制

2014 年度の iCoToBa は、以下のスタッフにより運営された。

[iCoToBa(多言語学習センター)]

専任講師	英語担当	Fern Sakamoto
専任講師	英語担当	Brett Hack
専任講師	フランス語担当	Morgan Dalin
准教授	スペイン語担当	Sergio Neri
准教授	ドイツ語担当	Morten Hunke
准教授	中国語担当	顧 令儀
准教授	留学アドバイザー	大山 守雄
専任講師	語学学習アドバイザー	寺澤 君江
事務職員	iCoToBa 受付	岡崎まどか

[iCoToBa 委員会]

委員長	宮谷 敦美 (グローバル人材育成推進室副室長 国際関係学科)
委員	石原 覚 (英米学科)
委員	佐藤 久美子 (ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)
委員	糸魚川 美樹 (ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)
委員	四ツ谷 亮子 (ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)
委員	中西 千香 (中国学科)
委員	高橋 慶治 (国際関係学科)
委員	大山 守雄 (iCoToBa 留学アドバイザー)
委員	寺澤 君江 (iCoToBa 学習アドバイザー)
担当事務職員	水野 淑子 (グローバル人材育成推進室、2014 年 9 月まで)
	岡崎まどか (グローバル人材育成推進室、2014 年 10 月から)

2 iCoToBa ガイダンス

iCoToBa では、新年度に 2 種類のガイダンスを実施している。iCoToBa の存在を知り、身近に感じてもらうことを目的とした iCoToBa Welcome Week と、外国語学習の動機づけと主体的な学びを促すことを主眼に置いた iCoToBa 新入生ガイダンスである。iCoToBa 新入生ガイダンスは、グローバル人材育成推進室と協働で実施している。以下、ガイダンスの実施内容について紹介する。

2.1. iCoToBa Welcome Week

2014 年度の iCoToBa Welcome Week は、4 月 9 日（水曜日）から 4 月 15 日（火曜日）にかけて開催された。Welcome Week 期間中は、1) 各言語の授業説明会と体験授業、2) 異文化理解イベント、3) 自由会話を楽しむ時間が毎日設定され、多くの学生が参加した。（スケジュールは pp.11～12 参照）昨年度は、同じ時間帯に学生が集中し混乱したため、本年度は、より多くの学生が参加できるよう言語ごとにスケジュールを調整した。

英語のガイダンスは期間中毎日開催し、授業説明だけでなく、英語が話されている国や地域に関する豆知識大会、オーストラリア文化体験など、英語でのコミュニケーションを楽しめる企画とした。他の言語も、初学者および上級学年の学生も参加できるよう、開催回数を増やすなどの工夫をしたり、文化をトピックに話し合うイベント（例：映画、サッカー）を開催したりした。中国語のガイダンスでは、iCoToBa 教員が毎回中国茶を用意し、中国茶のデモンストレーションを行った。



Welcome Week 最終日には、国際料理体験 (International Cooking Event) を開催した。アメリカのパンケーキ、フランスのクレープ、ドイツのピカートを参加者自身で調理し、好みのトッピングで試食した。1 年生を中心に 125 名の学生が参加し、多くの学生に実際に iCoToBa を利用してもらう機会となった（詳細は、第 4 章報告をご覧ください）。

Welcome Week 期間中に iCoToBa に来室した学生数はのべ 677 名（1 日平均 135 名）であり、学年では 1 年生が最も多く全体の 62%（421 名）であった。Welcome week の開催により、新入生に iCoToBa の施設や授業内容等について十分周知できたと考えられる。その結果、2014 年前期の iCoToBa 授業履修者は、のべ 1,072 名であった。（宮谷敦美）

2.2. iCoToBa 新入生ガイダンス

新入生を対象とした iCoToBa ガイダンスは、目的別に iCoToBa ガイダンス I と iCoToBa ガイダンス II として、各学科・専攻ごとに 2 回実施された。iCoToBa ガイダンス I については、昨年同様に合同で開催した学科・専攻もあった。それぞれのガイダンスの目的は下記のとおりである。

iCoToBa ガイダンス I : iCoToBa の説明、グローバル人材プログラムの説明・履修方法、
外国語学習の動機づけ
iCoToBa ガイダンス II : e-Learning、manaba の使い方の理解

以下は、各学科・専攻が行ったガイダンス内容に関する報告である。

[英米学科・国際関係学科]

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 9 日)

本ガイダンスでは、学生は自分の周囲の席の者と小グループに分かれ、「英語についてどんなイメージをもっているか」「英語をどうして勉強しようと思ったか。英語を身につけて何をしてみたいか。英語で何ができるようになったらうれしいか」「今までしてきた英語学習で効果的だと思った方法、うまくいかなかった方法、効果的だと思われたがいつの間にかやめてしまった方法」「他の学生が紹介した英語学習で自分が使ってみてみたいと思った方法があるか」等のテーマをグループ内で議論した。司会者はそれぞれのテーマごとに学生を複数指名して、グループ内の意見を発表させ、場合によってはそれについて質問し、また適宜参加教員からコメントを求めた。発表された意見は板書された。以上の議論の後、グローバル人材プログラムの内容について資料に基づいて説明がなされた。なお司会者は iCoToBa ガイダンス II の開催日時・場所等について学生に注意を促した。



第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 16 日 英米、4 月 17 日 国際関係)

iCoToBa ガイダンス II では 2 室に分かれて開催され、それぞれの教室で交互に manaba と e-Learning についてガイダンスがなされた。manaba のガイダンスにおいては、基本的な操作方法、構成、iCoToBa の授業登録方法、レポート提出方法等が説明され、学生は実際にレポート提出のタスクを行った。e-Learning のガイダンスにおいては、新入生全員に割り当てられた英語教材である ALC NetAcademy 2 の内容が部分的に紹介されたのち、学生はその「スーパースタANDARDコース」の「レベル診断テスト」のうち「語彙診断テスト」のみを実際に受験した。学生には複数回予定されている e-Learning の講習会のうちのどれかへの参加が勧められた。なお ID は大切に保管し、紛失しないようにとの注意が学生に与えられた。(石原寛)

[ヨーロッパ学科フランス語圏専攻・中国学科]

2013 年度と同様、4 月に、二度にわたり新入生ガイダンスを行った。

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 9 日)

初回は、フランス語、中国語と、学ぶ言語はそれぞれ違うが、それぞれの言語が話されている国に対する印象を述べたり、それぞれの言語を 4 年間学んだ後の自分をイメージしたりするには、専攻が違う学生が集うのもよい刺激になるということで、フランス語圏専攻と中国学科が合同でおこなった。

外国語学習のそれぞれのテーマについて、グループディスカッションを行いながら、それぞれの考えを発表した。まだ入学して間もない彼らにとって、仲間と議論しながら何らかの答えを導くということは、それほど容易ではない。しかし、それぞれのグループで話し合った内容を、自分たちで考えて、ことばを選びながらまじめに取り組んでいた。



第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 15 日)

2 回目のガイダンスでは、それぞれの学科、専攻に分かれて、グローバル人材育成プログラムの修了までの履修方法や、iCoToBa、manaba、e-Leaning の活用方法、学習方法などについて、実際にパソコンを触りながら説明をした。本学の iCoToBa、manaba、e-Leaning は、それぞれ活用の頻度を上げることで、自分のスキルアップや視野を広げられる。日々の外国語学習の中で、これらをフルに活用して、さらなるスキルアップに努めてもらいたい。(中西千香)

[ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻]

昨年度は、ドイツ語圏専攻と共同開催したが、2014 年度は、iCoToBa 教員とともに、専攻独自のガイダンスをおこなった。スペイン語圏専攻では、毎年 5 月に 1 泊 2 日で新入生研修合宿を実施しており、iCoToBa ガイダンスの目的および内容について、研修合宿と重複する部分が多いことが単独開催の理由である。

第 1 回新入生対象ガイダンス(4 月 10 日)

スペイン語についてどんなイメージをもっているか、またスペイン語圏の文化についての知識について議論したのち、スペイン語を使ってどのようなことをしたいか、そのために何をすべきかを話し合い、全体で発表討論をおこなった。なお、留学やスペイン語学習法については、新入生研修合宿で上級生をまじえたガイダンスを行っている。



第 2 回新入生対象ガイダンス(4 月 11 日)

e-ポートフォリオ manaba の利用法についてのオリエンテーションを目的とし、ログイン方法から始め、各自これまでの外国語学習を振り返るレポートを作成し、担当教員に提出するところまでをおこなった。スペイン語オンラインコースについては、5 月中旬からの使用となるため、語学検定試験 DELE との対応を説明し、簡単なデモンストレーションでの紹介のみにとどめ、別

日程でガイダンスをおこなった。

なお、スペイン語圏専攻は、新規教員着任、および新たな取り組みも始めたため、在学生対象のガイダンスを4月9日に開催した。内容は次のとおりである。

- 1) スペイン語圏協定大学の増加により、留学に行く学生が増えたため、留学先での授業履修を考慮した授業の実施に関する説明:「スペイン語圏のグローバリティ」、「リサーチ発信プロジェクト」、5月 DELE 受験のための「DELE 対策」
- 2) 2～4年生対象の正課授業科目と連携し、内容理解をサポートする科目の設置:「時事スペイン語」
(糸魚川美樹)

[ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻]

前年度はスペイン語圏専攻との共同開催で、グローバル人材の理念や iCoToBa の役割についての基礎知識をもってもらおうべく、新入生との共同討議の形態をとったが、2014 年度は iCoToBa 教員、国際交流推進委員の協力を得て、専攻単独のガイダンスを行った。

第1回新入生対象ガイダンス(4月9日)

第1回目のガイダンスでは、iCoToBa の授業プログラムの具体的な内容を紹介し、協定大学留学について具体的なイメージを掴んでもらうよう心がけた。開講第1週目に、iCoToBa 教員自身の企画したタイアップ行事が多かったので、やや抽象的な感じのした前年度に比べて、専攻のカラーは打ち出しやすくなった。

第2回新入生対象ガイダンス(4月16日)

第2回目は、e-ポートフォリオ manaba のガイダンスとし、前年度同様ログインから始め、これまでの外国語学習を振り返るレポート提出までを義務づけた。なお、前年度同時期に行ったロゼッタストーンのガイダンスは、新学期の学生の負担を考慮し、授業で同プログラムが関連付けられる後期の開講直後に行った。
(四ツ谷亮子)

iCoToBa Welcome Week Schedule

	4月9日 (水)	4月10日 (木)	4月11日 (金)	4月14日 (月)	4月15日 (火)
1 階					
2 階				iCoToBaスペイン語の カジュアル説明会 (11:00-11:30)	ファーン先生とプレット先生の コーヒータイム (英語) (11:00-11:30)
休 み	ファーン先生とプレット先生の コーヒータイム (英語) (12:10-12:40)	ランチチャット: モーガン先生 (フランス語)	英語開 登壇大会	ランチチャット: ファーン先生 (英語)	スペイン語でゲーム (12:10-12:40)
	サッカー: 世界と人々を結ぶ (ドイツ語) (12:10-12:40)	iCoToBa歓迎説明会: 中国語と中国語			サッカー: 世界と人々を結ぶ (ドイツ語) (12:10-12:40)
3 階			iCoToBaフランス語の カジュアル説明会 (3・4年生対象) (12:50-13:50)	iCoToBaドイツ語の カジュアル説明会	
4 階	iCoToBaフランス語の カジュアル説明会 (1年生対象) (14:30-15:30)	ファーン先生とプレット先生の コーヒータイム (英語) (15:00-15:30)	スペイン語短編映画 (途中入室可)	iCoToBa歓迎説明会: 中国語と中国語	iCoToBaスペイン語の カジュアル説明会 (14:30-15:00)
5 階		iCoToBaフランス語の カジュアル説明会 (2年生対象) (16:10-17:10)	iCoToBa歓迎説明会: 中国語と中国語	オーストラリア体験 (16:00-17:30、途中入室可) チャージ: ¥100 (オーストラリアの おやつとドリンク) 事前申込不要	iCoToBaフランス語 のカジュアル説明会 (全学年対象) (16:10-17:10)
6 階					国際料理体験: パンケーキ(米)、 クレープ(仏)、ピカート(独) (17:30〜、途中入室可) チャージ: ¥300 (パンケーキ3種類とドリンク) 要申込 (11日まで)

イベントの詳細は裏面を見てください。質問はiCoToBa 受付(E棟2階)まで。

iCoToBa Welcome Week

グローバルな文化に触れながら自分の言語スキルをアップできるって知ってた?
4月9日〜15日、iCoToBa(多言語学習センター)のウェルカムウィークで
面白いイベントがたくさん開催されます。
是非参加してiCoToBaの良さを体験してください!

iCoToBaの授業が分かるイベント

ファーン先生とプレット先生のコーヒータイム
コーヒー・お茶を飲みながら、あなたのニーズにぴったりのiCoToBaの
英語授業について相談できます。
9日(水) 12:10-12:40、10日(木) 15:00-15:30、15日(火) 11:00-11:30

iCoToBa歓迎説明会: 中国語と中国語
数種類の中国茶を飲みながら、iCoToBaの中国語授業について話しましょう。
10日(木) 12:00-12:50、11日(金) 16:10-17:40、14日(月) 14:30-16:00
(途中入室可)

iCoToBaフランス語のカジュアル説明会
モーガン先生とiCoToBaのフランス語授業について話しましょう。
1年生: 9日(水) 14:30-15:30 2年生: 10日(木) 16:10-17:10
3・4年生: 11日(金) 12:50-13:50 全学年: 15日(火) 16:10-17:10

iCoToBaスペイン語のカジュアル説明会
セルヒオ先生とiCoToBaのスペイン語授業についておしゃべりしましょう。
14日(月) 11:00-11:30、15日(火) 14:30-15:00

iCoToBaドイツ語のカジュアル説明会
モーゲン先生とiCoToBaのドイツ語授業について話しましょう。
14日(月) 12:50-14:20

全てiCoToBa iLounge で開催します。

ランチチャット

誰とでも食べながら外国語で話しましょう。

ファーン先生・英語: 14日(月) 12:00-12:50

モーガン先生・フランス語など: 10日(木) 12:00-12:50

iCoToBaの雰囲気が体験できるイベント

国際料理体験: パンケーキ(米)、クレープ(仏)、ピカート(独)
3ヶ国を代表するパンケーキを自分で作って、食べくらべをしましょう!
15日(火) 17:30〜 (途中入室可) 場所: F棟調理室 ¥300 (ドリンク代込み)
***参加希望者はiCoToBa 受付で申し込んでください。 (11日まで) ***
人数制限あり。早めにこのチャンスを得よう!

オーストラリア体験
オージー英語を学ぶ! オーストラリア名物を試食する!
14日(月) 16:00-17:30 (途中入室可) 場所: iCoToBa iLounge ¥100

英語圏豆知識大会
英語圏のクイズに答えて、アメリカンキャンディーをGETしよう!
11日(金) 12:00-12:50 場所: iCoToBa iLounge 無料

スペイン語短編映画祭
いろんなスペイン語の映画を見て、感想を話し合おう!
11日(金) 14:30-16:00 (途中入室可)
場所: iCoToBa Activity Space 無料

サッカー、世界と人々を結ぶ
サッカーに興味のある人集まれ! ドイツ語でサッカーに関する単語を学ぼう!
ドイツ語学習経験がある人もない人も大歓迎!
9日(水)・15日(火) 12:10-12:40
場所: iCoToBa Activity Space 無料

スペイン語でゲーム
超初心者も大歓迎! 一緒に楽しみましょう!
15日(火) 12:10-12:40 場所: iCoToBa iLounge 無料

iCoToBa(多言語学習センター E棟2階)の語学授業

英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語

→授業開始 4月16日(水)、受講受付 4月9日(水)～23日(水)締切厳守

授業内容をチェックするには？

①iCoToBa前掲示板&iCoToBa受付でプリントを手に入れる

②インターネットポータルシステムmanabaの「iCoToBa」コース掲示板を見る
※iCoToBaガイダンスⅡで説明

③iCoToBa HP「新着情報」から「2014前期iCoToBa授業一覧」へアクセス
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/index.html> (県大HPにバナーあり)

授業登録するには？ →manabaの「iCoToBa」コース「レポート」から申し込む
※iCoToBaガイダンスⅡで説明

どの授業を選べばいい？

①iCoToBa Welcome Week [4月9日(水)～15日(火)]のイベントに参加しよう

②新入生iCoToBaガイダンスⅠで説明を聞く

③iCoToBaランタイムで先生&先輩に訊く

忘れちゃいけないガイダンス

① 新入生対象グローバル人材育成事業ガイダンス
4月7日(月)16:00-17:30 場所:講堂

② iCoToBaガイダンスⅠ
英米・国際 4月9日(水)16:10-17:40 場所:H004
フランス・中国 4月9日(水)12:50-14:20 場所:H203
スペイン: 4月10日(木)14:30-16:00 場所:B101
ドイツ 4月9日(水)昼休み→3限 場所:iCoToBa→H201

③ iCoToBaガイダンスⅡ e-LearningとmanabaのID忘れずに
英 4月16日(水)16:10-17:40 フランス 4月15日(火)14:30-16:00
スペイン 4月11日(金)10:30-12:00 ドイツ 4月16日(水)昼休み-3限
中国 4月15日(火)10:30-12:00 国際 4月17日(木)14:30-16:00

快適なネット環境のためのTo Do

①アルクのe-LearningIDとmanabaのIDは入学式でもらった資料に入っています。
→iCoToBaガイダンスⅡに必ず持ってきてください。
→承諾書に保護者サインをもらって4月25日(金)までに提出

②GW明け(予定)の情報リテラシー講習に必ず出席
→出席しないと、学内のパソコンからネットが使えなくなるよ！

e-Learning

せっかくのチャンス最大限に活かさないや

① ALCネットアカデミー2(＋ロゼッタストーン)ガイダンス
4月23日(水) 5月8日(木) 16日(金) 19日(月) 27日(火)
すべて 12:10-12:40 場所:H205

②マンツーマンで質問できるランタイムセッション
4月16日から5月30日の水、木、金昼休み 場所:iCoToBa
いつでも寺澤先生に質問しよう！

※第2外国語(対象言語のみ)のIDとマニュアルは、5月に授業で配布

International Cultural Events

大学生だから、いろんなコしようよ！

①iCoToBaの異文化交流イベント
iCoToBa前掲示板、iCoToBaHP新着情報、manabaコミュニティ「みんな集まれ iCoToBa広場」で、まめにチェックしよう

②iCoToBa Supporters Club(ISC)に参加しませんか？
学生のiCoToBaサークル活動！企画イベント大募集

まずは、Welcome Week のイベントに参加して、楽しさを実感してください！

よくわからない・まとめて誰かに相談したい

①「グローバル人材プログラム」履修ガイダンスで相談
4月8日(火)13:30-17:00 ※同時に学部の履修相談あり
場所:iCoToBa (E棟2階)Activity Space

②iCoToBaの寺澤先生(語学学習アドバイザー)、大山先生(留学アドバイザー)に相談する

③学科・専攻のグローバル人材育成推進室委員に訊く
委員 英米:久田、フランス:中田、スペイン:小池、ドイツ:杉原、中国:月田、国際:宮谷

一目でわかる 外国語学部「グローバル人材プログラム」&iCoToBa(多言語学習センター)情報 (新入生)

留学情報にも目配りを！

留学ガイダンス 5月21日(水:午後)にまず出席→GW明けにiCoToBa掲示板和HPで確認
協定大学への留学、奨学金情報→国際交流室で相談(E棟1階)
留学ってどんな感じ？ゼロから相談したい→iCoToBa留学アドバイザー大山先生に相談
カウンセリング時間をiCoToBa Time Table でチェック
経験者の意見を聞きたい！→iCoToBaの「留学体験発表会」に参加(毎週木曜ランタイム)

iCoToBa(多言語学習センター E棟2階)の語学授業

英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語

→授業開始 4月16日(水)、受講受付 4月9日(水)～23日(水)締切厳守

授業内容をチェックするには？

①iCoToBa前掲示板&iCoToBa受付でプリントを手に入れる

②インターネットポータルシステムmanabaの「iCoToBa」コース掲示板を見る
※iCoToBaガイダンスⅡで説明

③iCoToBa HP「新着情報」から「2014前期iCoToBa授業一覧」へアクセス
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/index.html> (県大HPにバナーあり)

授業登録するには？ →manabaの「iCoToBa」コース「レポート」から申し込む
※manabaの使い方が分からない！→iCoToBaの受付で声をかけてください！

どの授業を選べばいい？

①iCoToBa Welcome Week [4月9日(水)～15日(火)]のイベントに参加しよう

②iCoToBaランタイムで先生&学生に訊く

グローバル人材プログラムガイダンス

履修ルールがよくわからない人
今年のiCoToBa科目、どれをとればいい？ ここで解決！

4月8日(火)13:00-13:30 このあと履修相談もあります。
場所:iCoToBa (E棟2階)Activity Space

4月16日(水)12:30-13:30 場所:H201

注意！ グローバル人材プログラム「インターンシップ」のシステムが変わります！

本年度の「グローバル人材プログラム」の「インターンシップ」は教養教育科目「インターンシップ」のみです！
今年チャレンジしようと思っている人、必ず履修登録を！
インターンシップ説明会 4月9日(水)12:50～ S棟201

e-Learning

まだやってないの？
せっかくのチャンス最大限に活かさないや！

① ALCネットアカデミー2(＋ロゼッタストーン)ガイダンス
4月23日(水) 5月8日(木) 16日(金) 19日(月) 27日(火)
すべて 12:10-12:40 場所:H205

②マンツーマンで質問できるランタイムセッション
4月16日から5月30日の水、木、金昼休み 場所:iCoToBa
いつでも寺澤先生に質問しよう！

※第2外国語(対象言語のみ)のIDとマニュアルは、5月に授業で配布

International Cultural Events

大学生なんだから、いろんなコしようよ！

①iCoToBaの異文化交流イベント
iCoToBa前掲示板、iCoToBaHP新着情報、manabaコミュニティ「みんな集まれ iCoToBa広場」で、まめにチェックしよう

②iCoToBa Supporters Club(ISC)に参加しませんか？
学生のiCoToBaサークル活動！企画イベント大募集

まずは、Welcome Week のイベントに参加して、楽しさを実感してください！

よくわからない・まとめて誰かに相談したい

①「グローバル人材プログラム」履修ガイダンスで相談
4月8日(火)13:30-17:00 ※同時に学部の履修相談あり
場所:iCoToBa (E棟2階)Activity Space

②iCoToBaの寺澤先生(語学学習アドバイザー)、大山先生(留学アドバイザー)に相談する

③学科・専攻のグローバル人材育成推進室委員に訊く
委員 英米:久田、フランス:中田、スペイン:小池、ドイツ:杉原、中国:月田、国際:宮谷

一目でわかる 外国語学部「グローバル人材プログラム」&iCoToBa(多言語学習センター)情報 (2年以上)

留学情報にも目配りを！

留学ガイダンス 5月21日(水:午後)にまず出席→GW明けにiCoToBa掲示板和HPで確認
協定大学への留学、奨学金情報→国際交流室で相談(E棟1階)
留学ってどんな感じ？ゼロから相談したい→iCoToBa留学アドバイザー大山先生に相談
カウンセリング時間をiCoToBa Time Table でチェック
経験者の意見を聞きたい！→iCoToBaの「留学体験発表会」に参加(毎週木曜ランタイム)

3 iCoToBa の授業

iCoToBa では、5 言語(英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語)の語学授業を開講している。授業はレベル別(CEFR 基準 A1~C1)、目的別(4 技能別、留学準備、外国語学部グローバル人材プログラム対象科目)に設定している。そして、正課の授業で身につけた言語知識をもとに、運用能力を身につけることと、学習言語が話されている地域の文化や社会について、学習言語を使って調べ発信することを目指した授業設計をしている。

以下では、2014 年度に開講した授業について報告する。開講授業一覧と各受講者数は、「11. 資料(pp.123-131)」を参照いただきたい。

3.1. 2014 年度前期開講授業

【英語】

Academic Listening & Note-taking (Fern Sakamoto, Monday 3rd period)

Objective: To learn techniques to prepare for more successful listening.

To be able to identify important information within a speech.

To begin developing an effective personal note-taking style.

Course contents: Each week students studied a different audio-text. Class began with discussion, then students learned pre-listening techniques to improve their chances of understanding, practiced listening for the main message, and discussed their own note-taking styles. Students also practiced summarising lectures concisely in preparation for TOEFL and IELTS-type tasks.

General Overview and agenda: The small class size facilitated a close relationship between class members and a comfortable environment. Both students were keen to share their ideas and practice speaking in English, and it was easy to tailor the class to best meet their goals and needs. Survey responses indicate that students enjoyed a good relationship with the teacher and were able to improve their listening skills through the course. One area of concern is the limited time students dedicated to class preparation. This is an ongoing challenge in non-credit iCoToBa classes, however students did complete the minimum set preparation tasks, so designating specific tasks as homework seems to be one way to encourage sufficient preparation to help student best benefit from class activities.

Short Essay Writing (Fern Sakamoto , Monday 6th period (& online))

Objective: To gain an understanding of appropriate composition structure.

To acquire set phrases and vocabulary used in academic writing.

To develop critical thinking skills and be able to write in a logical, well-argued

manner.

Course contents: Students studied appropriate structure, flow and language to use in simple academic writing. They developed writing and editing skills and practiced using academic register. Students completed numerous long and short timed and untimed essays.

General Overview and agenda: In an attempt to raise enrolment in the writing class, this course was offered as an “online” class. Holding the course online did result in raised enrolment, but also made it difficult to ascertain student progress and tailor the course to their needs. Survey responses show that students are aware that they did not apply themselves enough, which perhaps impacted on their perceived success in the class. That said, students reported high levels of motivation through the class and indicated that they felt they had achieved the course aims. The online nature of the class seems to have resulted in some feeling of distance between teacher and students, but many students said that they would not take the course were they required to attend each week. A system of alternate in-class/on-line classes will be trialed in future courses.

J-Ambassador (UEA) (Fern Sakamoto, Tuesday 1st period)

Objective: To reflect upon Japanese truths and stereotypes, and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and things.

To be able to communicate information about Japan clearly.

To prepare to lead a cultural exchange session in the UK.

Course contents: Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. Topics focused on were different to those in the regular J-Ambassador course, as some students were repeaters. Students formed groups and came up with themes for cultural exchange sessions, which were then worked into the schedule for their UEA trip. The course culminated in a “dress-rehearsal” displaying how students plan to orchestrate the sessions they are in charge of. Post-workshop communication from UEA staff reported well-prepared, thoughtful and enjoyable workshops.

General Overview and agenda: There were issues with attendance in this course, resulting in some “fail” grades. In class however, students were positive and active in planning for their own study-abroad experience. Students coordinated well with the Wednesday class to help each other prepare enjoyable and smooth UK sessions. Student surveys indicated that students felt they made appropriate effort in this class, and were able to improve their language skills and achieve the aims of the course.

Debate (Fern Sakamoto, Tuesday 4th period)

Objective: To learn persuasive speaking techniques.

To become familiar with Asian-style parliamentary debate.

To be able to formulate and express opinions clearly.

Course contents: Each class introduced a new debating technique. Students practiced persuasive

speaking and critical thinking as they analysed a range of issues to identify possible merits and demerits. Students spent time each class discussing and debating current controversial issues, leading up to a final full-length modified Asian Parliamentary debate.

General Overview and agenda: The formal Asian Parliamentary Debate style was the basis of this course, and students improved greatly in their ability to consider an issue from both sides and discuss it objectively. All students indicated that they found the course helped them to improve their language skills and language learning methods significantly. Discussion with students however, revealed that they would have liked a less rigid adherence to the rules of this particular debate style, and in future debate classes more opportunity for casual opinion exchange will be incorporated.

J-Ambassador (UEA) (Fern Sakamoto, Wednesday 3rd period)

Objective: To reflect upon Japanese truths and stereotypes, and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and things.

To be able to communicate information about Japan clearly.

To prepare to lead a cultural exchange session in the UK.

Course contents: Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. Topics focused on were different to those in the regular J-Ambassador course, as some students were repeaters. Students formed groups and came up with themes for cultural exchange sessions, which were then worked into the schedule for their UEA trip. The course culminated in a “dress-rehearsal” displaying how students plan to orchestrate the sessions they are in charge of. Post-workshop communication from UEA staff reported well-prepared, thoughtful and enjoyable workshops.

General Overview and agenda: Guidance sessions seriously impacted on the ability of students to regularly attend this class. It was difficult to achieve a cohesive group atmosphere and it is perhaps as a result of this that this group shows a less positive response to the question of how much their language skills have improved than the Tuesday morning group. That said, student survey responses indicate that this group felt they put in significant effort and were able to achieve the aims of the course.

J-Ambassador (Fern Sakamoto, Wednesday 4th period)

Objective: To reflect upon Japanese truths and stereotypes, and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and things.

To be able to communicate information about Japan clearly.

Course contents: Each class addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a student-lead workshop in cooperation with JICA Chubu.

General Overview and agenda: Students in this class achieved an excellent group atmosphere.

Survey results indicate that students felt that they were able to achieve the course aims to a high degree, and enjoy a good relationship with the teacher. Students also indicated their appreciation of the chance to speak with Mexican trainees in the final JICA workshop. Hopefully a similarly rewarding final project can be organised in future courses. An area of some concern is that students did not feel a significant improvement to their language skills. The course aims to help students improve their critical analysis and communication skills rather than targeting specific language, but some overt language teaching may be useful if it leads to increased student motivation.

Survival English (Fern Sakamoto, Thursday 1st period)

Objective: To develop effective strategies for dealing with new situations.

To acquire useful situation-specific English expressions.

To enhance natural communication skills.

Course contents: Each lesson looked at a different social situation that students might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups. Emphasis was on extended conversation using only English. Students were also asked to complete a brief written reflection at the end of each class.

General Overview and agenda: This was a highly successful class in that students felt a great connection with the teacher and showed a great increase in motivation for language learning through the course. Preparation for the class was limited, which probably helped the “fun” feel of the class, however it may have lowered students perceived language improvement somewhat. As a first-year motivational course however, the course aimed to increase confidence and communicative ability more than specific language skills and students agreed that they had achieved this goal through the course.

One Minute Speech (Fern Sakamoto, Thursday 4th period)

Objective: To gain confidence speaking in front of an audience.

To be able to deliver clear, interesting, effective speeches.

Course contents: Each class focused on a speech writing/presentation skill (structure, body language, eye contact, etc.) with students completing short tasks to practice the skill. Students were then assigned a simple topic and given ten minutes to prepare a brief speech. Each student presented a speech while other students listened actively and provided feedback after the speech. The course culminated in students composing and delivering a longer original speech.

General Overview and agenda: Students were quiet and not inclined to discussion, and homework completion was not reliable. Student surveys showed that students were aware of the inadequacy of their preparation despite specific homework tasks. This unfortunately resulted in significant in-class time having to be devoted to speech-writing tasks, which

made achieving a cohesive group atmosphere challenging. Students showed ambivalence about the degree of language improvement they attained through the class. This is unsurprising, as class-time activities aim to improve presentation skills, while homework writing tasks help students improve their speech-writing and language skills. More effort perhaps needs to be given to increase student motivation to complete preparation tasks, in order to allow class-time to be used effectively.

Conversation Strategies (Fern Sakamoto, Thursday 5th period)

Objective: To develop effective strategies for dealing with new situations.

To acquire useful situation-specific English expressions.

To enhance natural communication skills.

Course contents: This class was initially devised as a follow-up to Survival English, focusing more on specific conversation techniques. It transpired in the first class however, that student expectations and hopes for the course were more closely aligned with those of the Survival English course and as none of the students had previously completed that course, course content was altered to resemble the Survival English syllabus. Thus each class looked at a new situation in daily life abroad, and students practiced talking about the topics, and roleplaying scenarios.

General Overview and agenda: Student attendance in this class was very unpredictable. A huge range in ability levels also made it difficult to adjust material to suit everyone's needs. As lower grades showed greater diligence in attending, the level of the class was adjusted down to suit their needs. Despite this, students indicated that they felt their language skills had improved through the course. Preparation and language-learning methods did not score highly, as little specific homework was assigned, and focus was on confidence building and communicative ability. This appears to have paid dividends in increasing student motivation for learning, as shown in the survey results.

Global Leader (Fern Sakamoto, Friday 4th period)

Objective: To learn vocabulary related to world issues.

To further understanding and ability to think critically about global issues.

To be able to express ideas clearly and participate actively in a discussion.

Course contents: This class was student-focused, with students taking turns to prepare and lead class learning and discussion related to a topic or problem of their choice. Students composed handouts and provided supplementary information (videos, newspaper articles etc.) to stimulate discussion. Plans were submitted and checked by the teacher prior to each class.

General Overview and agenda: This course saw a larger number of students than expected, which led to increased pair and group-work in order to ensure that students were able to speak a lot. Student surveys indicate that students felt they achieved good relationship with the teacher, and achieved the aims of the course. Preparation effort scores however were lower

than desirable, and correlate with teacher opinion. This also can be linked to the ambivalent score for learning-method improvement. A more rigid set of requirements will be instilled in this course in future, to ensure that students put sufficient effort into preparing to lead a seminar, and also into preparing to participate.

Pronunciation Profiles 1 (Brett Hack, Monday 2nd period)

Objective: To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds.

To apply learned pronunciation to natural listening and speaking.

To look at how personality and emotion can affect pronunciation.

Course contents: Students listened to a talk by a famous person and isolated a pronunciation point. After practicing the pronunciation point through drills and games, students returned to the featured person's talk and reproduced the day's point in a larger text.

General Overview and agenda: As before, the classes attracted a large number of first-year students. Participation in this class was excellent. The survey indicated that the audiovisual format of the class was helpful to the students. I changed the format of the final assessment to a pair activity, which was also successful. I will continue offering this class during the spring semester.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1

(Brett Hack, Monday 4th period)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: The level of involvement in this class varied. Some first-year students needed more support, while older students wanted more independence. Some survey answers indicated that more time was needed to prepare the final presentation. I will try to work that into the next semester's class.

Today's Top News (Brett Hack, Monday 5th period)

Objective: To improve comprehension of news in English.

To form and express opinions about current events.

To be able to summarize events and opinions in the news.

Course contents: Each week presented a current story in the news using written and audiovisual samples. Each lesson included vocabulary study, listening and reading comprehension exercises, and discussion.

General Overview and agenda: Attendance and involvement varied from week to week, seemingly based on the day's topic. The survey results indicated that some students felt a

lack of connection with some topics. If I teach this class again I will try to make it so that students can choose their own topics each week. However, I still think it is important to bring students into contact with serious world issues.

Research Project and Presentation 3 (Brett Hack, Tuesday 3rd period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: All the groups worked hard and gave excellent presentations that showcased each group's unique interests and skills. The survey results indicated that students felt the class structure encouraged them to think for themselves. They also liked the freedom the class allowed them.

Real-Life English Expressions (Brett Hack, Tuesday 5th period)

Objective: To acquire new vocabulary and expressions used in daily life.

To shift understanding of vocabulary towards real-life application.

To develop the ability and motivation to learn new words by oneself.

Course contents: This class focused on practical vocabulary acquisition, particularly on figurative expressions, idioms, and other "natural" phrases that are difficult for beginners to learn. The class also taught beginners how to "be their own teachers" when it comes to acquiring new vocabulary.

General Overview and agenda: This was a new class, and I was pleased with the positive response. Survey results indicated that students felt their vocabulary had improved, and that they enjoyed learning the "real" English of daily life. One interesting answer noted that my random pair structure allowed students to interact with other grades and majors. I realized that this is an important side benefit of iCoToBa.

Conversation Coach 1 (Brett Hack, Wednesday 3rd period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This was a chance for students to practice speaking in English on a range of familiar topics. Each week I prepared some speaking topics and conversation cues, which the students used to conduct free talk sessions. Emphasis was placed on spontaneity and freedom.

General Overview and agenda: This was meant to be a casual, "no-pressure" conversation class, and it fulfilled that goal. The large student number and various majors and grades was

sometimes difficult, but the survey responses indicated that students enjoyed the chance to converse in English. Many students wrote that they needed to “be more active” so next semester I will include this as a primary goal.

Conversation Coach 2 (Brett Hack, Wednesday 4th period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This was a chance for students to practice speaking in English on a range of familiar topics. Each week I prepared some speaking topics and conversation cues, which the students used to conduct free talk sessions. Emphasis was placed on spontaneity and freedom.

General Overview and agenda: Student ability was very evenly balanced in this class, so activities went very smoothly. The mix of high English ability and high motivation in all students made for a fun atmosphere, which survey responses reflected. Some students wrote that they would like this class to be expanded into a 90-minutes session. Times are set for next semester, but I will consider this for the future.

Research Project and Presentation 1 (Brett Hack, Wednesday 5th period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: This class has first-year first-semester students and other beginner students. Consequently, the class activities were somewhat difficult for them. However, all groups worked hard and completed excellent presentations that were appropriate for their skill levels. Many students wrote that the time slot was not ideal, which I felt was a fair observation.

Pronunciation Profiles 2 (Brett Hack, Thursday 1st period)

Objective: To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds.

To apply learned pronunciation to natural listening and speaking.

To look at how personality and emotion can affect pronunciation.

Course contents: Students listened to a talk by a famous person and isolated a pronunciation point. After practicing the pronunciation point through drills and games, students returned to the featured person's talk and reproduced the day's point in a larger text.

General Overview and agenda: As before, the classes attracted a large number of first-year students. Participation in this class was good even considering the early time slot. Many

students in this class wrote that they felt their pronunciation had improved. However, an equally large number felt they needed to practice more. I believe that this shows how the class provided a stimulus for their motivation to study.

Research Project and Presentation 2 (Brett Hack, Thursday 4th period)

Objective: To be able to work effectively in a group.

To learn how to manage large tasks and set schedules.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: This was the largest RPP class, and the students had the highest English competence. They worked independently and produced nuanced and interesting presentations. Student comments on their improvements were in line with the course goals. One student suggested that I be stricter about making students use English during group work; I will apply this advice to future classes.

Society through Film (Brett Hack, Friday 2nd period)

Objective: To develop a critical awareness of the cultural products that we experience daily.

To be able to form opinions on and discuss contemporary global issues.

To learn how to write an academic argument paper in English.

Course contents: This class investigated social issues in the English-speaking world such as race relations, tradition vs. modernity, etc., by looking at how they are represented in popular films. Students learned how to analyze visual images and wrote an argumentative essay in English.

General Overview and agenda: Student diversity made this advanced class a productive discussion. Students' survey responses indicated that they understood the issues which were the primary goals. Some students also wrote positively about how the class allowed them to train all four English skills. This was positive feedback for me, as I hope to continue developing content courses in the future.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2

(Brett Hack, Friday 3rd period)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: The large number of students put a bit of a strain on the classroom

size. Some students noted this in their survey comments. However, they responded positively to the course content. Responses also indicated that students felt their speaking skills improved. Students wrote that they were unsatisfied with their Power Point skills, which means we may need more time for presentations.

アカデミックセッション 1、2、3、4

(寺澤君江、水曜日 10:30～11:15、11:15～12:00、木曜日 10:30～11:15、11:15～12:00)

授業目的: 学生の英語学習のゴールを設定し、その達成を目指す。学生の英語学習におけるニーズに応じたカリキュラムを個々に作成し、授業を展開する。

授業内容: チュートリアル形式の授業として1コマ45分、4系統の内容(1コマ全13回)を提供した。水曜2時間目前半は、海外生活で必要とされるリスニング力の強化とクリティカルシンキングをベースにしたスピーキング力強化である。水曜2時間目後半は、海外大学院(オーストラリア)留学を見通した英語力強化演習として、TOEFL 受験対策に焦点をあてた。木曜2時間目前半は、時事問題やニュース、演説を用いたリスニング強化およびインタビュー練習によるスピーキング力強化である。木曜2時間目後半は外資系企業への就職活動に備えて英文履歴書作成や面接練習、ディスカッション練習に焦点をおいた。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数クラスであり、個々の弱点をカバーできるような指導・助言が可能であった。学生も自由に質問して学習を進めることができた。学生のスピーキングに対する抵抗が少なくなったようである。

TOEIC Intensive 1, 2, 3, 4

(寺澤君江、月曜日 12:50～14:20、17:50～19:20、火曜日 10:30～12:00、17:50～19:20)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。重点としては、試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていった。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート4に焦点をあて、過去問題を用いてシャドウイングやQ&Aにより内容理解に努めた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: 問題の傾向を理解し、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。本学の学生が苦手とするリーディングパートの時間配分に関しては、実践することにより感覚的に理解したように思われる。また、解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生の集中力を持続させることができた。ボキャブラリーチェックを授業の中に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まったように見受けられた。

Strategic TOEFL (寺澤君江、火曜日 12:50～14:20)

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応できる英語力の基礎として、リスニング力の強化に重点を置いた。試験の 4 つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)における攻略方法を身につけることができるようにアドバイスした。スピーキングセクションおよびライティングセクションではリスニング力も必要とされるため、特に、ノートテイキングの方法の説明と演習に時間を割いた。授業全体を通して毎回過去問題によるミニ模擬試験を実施した。スピーキング力強化に関しては、iCoToBa の iContact(外国人教員との会話練習)を利用することを奨励し、そのための課題も個々に対して提供した。

アンケート結果分析・来期の課題: 問題の解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。この講座が、リスニングにおけるノートテイキングやスピーキングにおける内容構成を理解するきっかけとなったように思われる。少人数であり、個々の弱点に焦点を合わせながら進めることができ、学生は学習スタイルに関しては満足しているように感じられた。しかしながら、全 13 コマ(1 コマ 90 分)という限られた時間で 4 つのパート全てをカバーするには時間が足りないと感じた。

Successful IELTS (寺澤君江、水曜日 12:50～14:20)

授業目的: イギリス留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4 つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)を全てカバーできるように授業を展開した。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツに触れながら、演習を位置づけた。学生の苦手とするライティングは重点的に指導にあたった。スピーキングセクションに関しては、テーマを提供し、iCoToBa の iContact を利用することを提案した。

アンケート結果分析・来期の課題: リスニングパートの演習を授業で位置づけたことにより、スコアアップが見られたようである。学生が苦手とするライティングパートに関しては、クリティカルシンキングの練習を通して、ライティングに対する苦手意識が薄くなったのではないだろうか。留学を見通し、講座終了後も個人で継続的に努力することが望ましい。

Vocabulary for Exams I (寺澤君江、月曜日 16:10～16:55、火曜日 14:30～15:15)

授業目的: 検定試験(TOEIC/TOEFL/IELTS)受験対策のための語彙力強化

授業内容: 1 コマ 45 分(全 13 回)の授業として設定し、様々な方法で単語の学習を展開した。上記の 3 種類の検定試験で出題される傾向の強い重要単語を、毎回 200～300 語程度を復習・確認した。文脈の中で単語をとらえ、ディクテーションすることにより、視覚的にも定着するようにした。さらに、単語を正確に把握することを目的とし、コロケーション・同義語・反意語・単語の定義づけなど、多面的に単語の学習を進めるようにした。

アンケート結果分析・来期の課題: 単語力強化という点においては、効果があったように思われる。しかしながら、会話やプレゼンテーションなどの実践的な英語力をアップさせるということに関して、即効性があるわけではないため、知識の定着のみの授業とならざるを得なかった。iCoToBa 外国人教員による他の授業または検定対策講座との同時受講を積極的

に進めていきたい。

Vocabulary for Exams II

(寺澤君江、月曜日 16:55～17:40、火曜日 15:15～16:00)

授業目的: 検定試験(TOEIC/TOEFL/IELTS)受験対策のための語彙力強化

授業内容: 1コマ45分(全13回)の授業として設定し、様々な方法で単語の学習を展開した。

上記の3種類の検定試験で出題される傾向の強い重要単語を、毎回200～300語程度の割合で、テーマ別に学習した。復習・確認というよりは、初めて目にする単語が多かったようである。従って、難易度の高いものとなった。アプローチの方法として、リスニングによる単語の理解を定着させることにより、実践的な英語力に結びつくような授業展開を試みた。

アンケート結果分析・来期の課題: 大学受験レベルの英語単語からの脱却を図ったため、学生にとっては難しく感じたようである。理解するので精一杯となり、定着させるところまでたどり着かなかったようである。学生の知的好奇心を刺激するためにも、このような学習の機会を提供していきたい。レベル1と同様に、会話やプレゼンテーションなどの実践的な英語力をアップさせるということに関して、即効性があるわけではないため、知識の定着のみの授業とならざるを得なかった。iCoToBaの外国人教員による他の授業または検定対策講座との同時受講を学生に勧めていきたい。

【フランス語】

フランス語圏なう。(ダレン モルガン、月曜日 8:50～10:20)

授業目的: 自分の留学経験から、フランスでの滞在について分析をし、具体的なフランスについての知識を共有する。グループワークの知識を得る。フランス語で情報を検索する。フランス語で話すと書く力を向上させる。

授業内容: 留学やフランスの生活について有益なこと、例えば、通貨、気候、緊急の場合などの話題について会話とインターネットで検索して、グループワークとしてバイリンガル海外生活ガイドを作成した。フランスへの留学後のため、具体的にイメージができたと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: アンケートでは、「教員の話し方、説明は分かりやすかったか」「教員は学生の反応や理解度・到達度に留意して授業を進めていたか」「教員は学生の積極的な参加を促していたか」という点で、それぞれ平均4.8点であった。「事前に授業の概要を知ろうと努めたか」では平均2.8点、「この授業に関して、授業外での学習・実践など自主的な努力をしているか」では平均3.8点、であり、学生の授業中以外のモチベーションが気になった。授業で、ガイドを作成している時、学生同士でもフランス語で話し合いをして欲しかったが、どんなに注意しても日本語で話していたのは残念だった。初めは恥ずかしがっていた学生がよく話すようになったり、上達がはっきりと目に見えた学生もいたのは、教える側にとって非常に嬉しいことであった。今後も、学生独自のお気に入りのガイド作成を継続して行いたい。

ニッポンなう。 (ダレン モルガン、火曜日 8:50～10:20)

授業目的: 日本の文化、観光スポットなど、自分の国のことについて、留学先で正しいフランス語で上手に説明できるように学ぶ。総合的に発表力とフランス語のレベルを向上させる。

授業内容: 日本の習慣、宗教、考え方、音楽、社会、労働や文化など、様々な事柄について、質問し合ったり会話をしたりして、学生が自分の意見を言葉にする能力を向上することを目指した。また、学生自身が選んだ話題について、その情報についてメモを見ずに皆の前でミニ授業のようにプレゼンテーションをしたことで、単語力と皆の前で話す力がついたと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 昨年度と違い、受講した学生のレベルが大体同じ、皆 3 年生であったので、割とスムーズに会話をし、単語、文法や話す力を上達する事ができたと思う。ただ、欠席も目立ち、残念であった。また、授業に出てきた学生の中には、全くやる気のない学生がいたため、時々授業の雰囲気が悪くなった時もあった。アンケートでは、やはり、「この授業に関して、授業外での学習・実践など自主的な努力をしているか」という質問には、平均 3.3 点と低い、「この授業によって、もっと上達したい、もっと学びたい」という気持ちになったか」という質問には、平均 4.3 点とこれから学習の意欲がうかがえる。

アトリエ・ドゥ・フランセ初級 (ダレン モルガン、火曜日 16:10～17:40)

授業目的: 「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような雰囲気にし、「フランス語を楽しむ」ということを意識して行った。授業の内容については、学生主体で決めていき、学生が望む活動を外国人教員と一緒に行うことで、語学を学ぶことは楽しいということを再認識してもらえるように努めた。

授業内容: 授業の内容はフランス語学科の宿題、会話、ゲーム、料理イベントとフランス語で映画鑑賞であった。学生がフランス語を楽しみ、難しい言語ではないと感じてもらえるように努めた。一人、二人またはグループになり、学生がこの時間をどう過ごしたいかを決めていたので、とても主体的に参加していた。学生からマンツーマンで相談を受けることもあり、これが iCoToBa に来るきっかけになればよいと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 毎週来る学生が違ったり、毎回学生がやりたいことが多岐にわたっていたため、全員が納得できるようにすることは難しかったが、学生の観点からみると楽しい時間帯だったと思う。アンケートでは、「教材は有用であったか」という質問に対し、平均 2.7 点と低かったが、授業の特性上、配布物はなかなか難しいと思う。また料理イベントは、準備が大変であったが、学生には好評だったので、数回料理イベントを開催しようと思う。

リサーチ・発信プロジェクト (ダレン モルガン、水曜日 8:50～10:20)

授業目的: フランスの地方や町とその遺産等について知識を得る。海外生活の目的・計画を組み立てる。フランス語で情報を検索して、フランス語で発表する。いろんな側面から総合的にフランス語を上達させる。

授業内容: まずはインターネットを利用して情報収集し、学生が興味のある町を決め、調査した。その結果を、ペアや 3 人グループになり、パワーポイントで発表用のスライドを作成し、フランス語によるプレゼンテーションとクイズを通して、ほかの学生に紹介した。正しいフランス語のみならず、パワーポイントの作り方と人の前での発表の仕方を学んだ。

アンケート結果分析・来期の課題: 受講人数は多かったが、フランス語のレベルとモチベーションはかなり低かった。プレゼンテーションの準備の進み具合もグループによってかなり違っていたので、教員として気を配った。アンケート結果にもあるように欠席率も高く、1 回目の授業から欠席する学生がいて、グループワークを進める上で問題であった。発言が少ない学生には、プレゼンテーションによって単語や文法の知識が増えたと思うが、「話す力」はまだまだ足りないと感じるので、今後は、もっとはっきりと目標・目的を説明し、書く練習だけでなく、もっとフランス語で発言する練習をしていきたい。アンケートでは、「この授業によって、もっと上達したい、もっと学びたいという気持ちになったか」という質問に対し、平均 4.8 点であったのは、受身の授業ではなく、準備から発表まで一貫してやり遂げたことによって、まだまだ上達しなければ思うように書けない、話せないと思ってもらえた結果だと思う。

めざせ仏検準2級 (ダレン モルガン、水曜日 10:30～12:00)

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 授業内容: 聞き取り、書き取り、または会話を通して、徹底的な練習のプログラムを行った。試験に出る単語と文法のルールをしっかりと学び、日常生活で使うフランス語(熟語、ことわざ等)も勉強した。仏検二次試験の面接の準備、練習も行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数の授業であった。最初はフランス語のレベルが少し低かったが、学生のモチベーションがとても高かったので、活気ある授業になったと思う。あくまでもフランス語だけを使う事を意識する事で、言語能力の上達が感じられた。13 週間の授業で、必ずしも学生が十分準備をして授業に望んだとは思わないが、皆がしっかり発言し、一生懸命頑張ったので上達もしていたし、楽しい授業になったと思う。アンケートでは、「教員の話し方・説明の仕方は分かりやすかったか」という質問に対して、回答は平均 5 点であり、教える側としてとても嬉しい結果である。仏検対策をしっかりできる授業が必要であったし、大切だったので、後期もまたこのような仏検集中授業を行いたいと思う。

めざせ仏検準1級 (ダレン モルガン、木曜日 12:50～14:20)

授業目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 上記の「めざせ仏検2級」の授業と同じように、試験に必要な語彙と文法の練習を重ねて行った。学生が既に上手に学ぶ方法を知っていたので、優先的に会話を通して言語の構造を習得できるようにした。とっさにフランス語が口から出る力を向上するために、聞き取り、言葉遊び、論文や即興等の練習を多く行った。また、写真の描写と分析を行い、

世界観について会話し、大人らしい意見ができたと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数のグループであったが、受講した学生のモチベーションが高かったため、非常に中身の濃い授業になった。仏検のためのフランス語だけでなく、日常会話で使う単語と文法も教えた。今後は、もう少し人数が多ければよいと思う。学生のレベルに違いがあったので、ごく稀に日本語で伝えることがあったが、できる限りフランス語のみで話したいと思う。アンケート結果については、授業の内容、教え方、教員の意欲などは、5点であったが、「授業外での学習・実践など自主的な努力をしているか」という質問に対して、平均2.5点という残念な結果であった。今後も、様々な練習をさせたいと思う。

とっさのフランス語・基礎 (ダレン モルガン、木曜日 14:30～16:00)

授業目的: 基礎の語彙と文法の知識を得る。フランス語は意外と難しくなく楽しい言語だと知ってもらおうための授業。

授業内容: 練習と遊びを通して、正しい言い方と発音を学んだ。発音の基本的な構造を習得した上で、いくつかのミニプロジェクトを行った。例えば、ペアや3人でビデオゲームの登場人物を作って、簡単なフランス語で描写したり、パリの観光名所を回る見学コースを作成したり、行きたい場所に行く方法と聞き方を学んだ。また、フランスの料理を調べて、メニューリストを作成して、レストランで注文するための言葉を学んだ。様々なゲームをしながら、フランス語を楽しめたと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 受講者が多く、毎回、全員を発言させる機会を作ることは難しかったので、ペアで練習する機会を多く設けた。ただ、グループ数も多かったので、練習やミニプロジェクトを行うのも時間がかかり過ぎたと思う。今後はもっとフランス語での会話や練習を行いたいと思う。また基本的な発音の練習も反復練習するべきだと感じた。ほとんどの学生はモチベーションが高く、面白くできた授業だと思う。アンケート結果では、「教員の授業への意欲・熱意は感じられたか」という質問に対して、平均5点であったのは良かったと思う。今後は、もっと学生のフランス語レベルが上がるよう外国人教員としてできることをする。

アトリエ・ドウ・フランセ中・上級 (ダレン モルガン、火曜日 16:10～17:40)

授業目的: 「語学の授業」というより、「フランス語クラブ」のような雰囲気にし、「フランス語を楽しむ」という事を意識して行った。授業の内容については、学生主体で決めていき、学生が望む活動を外国人教員と一緒に行うことで、語学を学ぶことは楽しいと再認識してもらえるように努めた。

授業内容: 授業の内容はフランス語学科の宿題、会話、ゲーム、料理イベントとフランス語で映画鑑賞であった。学生がフランス語を楽しみ、難しい言語ではないことを感じてもらえるように努めた。1人、2人またはグループになり、学生がこの時間をどう過ごしたいかを決めていたので、とても主体的に参加していた。学生からマンツーマンで相談を受けることもあり、これが iCoToBa に来るきっかけになればよいと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 受講人数が少なすぎて、気軽にフランス語を勉強することができたが、グループワークができなかった。受講者のレベルも違ったので、レベルが高い学生には少し物足りなかったかもしれない。ただ、このクラブのような授業は意義があると思うので、受講者数が増えるよう広報にも力を入れ、今後も続けて行きたい。アンケートでは、「この授業を受講して、あなたの語学学習の方法はよくなったと思うか」という質問に対して、平均 4.5 点であり、フランス語を学びたいと思えば、何でも教材になるということを知ってもらえたと思う。

ちょっとチャット フランス語 II (ダレン モルガン、金曜日 12:50~14:20)

授業目的: 日常的な出来事について、受講者全員で議論することにより、フランス語の知識と話す楽しさを身に付ける。インターネットを活用し、フランスのメディアに対して、身近に感じてもらおう。

授業内容: フランスの主なニュース記事や、1 分程度のニュース動画を見てもらい、その話題について皆で議論した。また、授業に参加した学生が積極的に発言できるように促し、分からない単語や、関係する事柄、背景など、それにまつわること全てについて自由に発言した。

アンケート結果分析・来期の課題: 授業の中で、学生が発言する機会を多く設けた結果、フランス語の上達が目に見えてわかった。また、楽しみながら、フランス語を使って意見を言えるようになったと思う。単にフランス語を話すのではなく、自分の考えを表現したり、他の人の意見を聞いてから、自分の意見を主張したり、議論することができた。主に使用したのはフランスのニュースだが、使えそうな素材があれば、幅広い分野の情報を学生に紹介したい。発言を恥ずかしがる生徒には、その殻を破ってもらえるよう、議論を重ねて、そういう場面に早めに慣れてもらいたい。アンケートでは、「授業外での学習・実践など自主的な努力をしているか」という質問に対して、平均 3.3 点と低いのは残念だったが、「教員の授業への意欲・熱意は感じられたか」「教員は、一方的な説明だけでなく、質問、発言、発表など学生の積極的な参加を促したか」等、教員については、平均 4.8~5.0 点であったのは良かったと思う。

ちょっとチャット フランス語 II (ダレン モルガン、金曜日 14:30~16:00)

授業目的: 参加者全員がフランス語初心者だったので、前期で学んだ言葉を使いながら話す楽しさを知り、フランス語を上達させる。

授業内容: フランスについて興味を持つようにフランスのメディアを使用し、発音の練習、ゲーム等をした。学生同士が相手を知るために、グループでロールプレイをした。少しずつ、一体感が生まれたと思う。会話を通して、フランス人の習慣、フランス語母語話者の言い方、答え方を学んだ。

アンケート結果分析・来期の課題: 参加者全員がフランス語初心者だったので、授業名であるチャットはできなかったため、フランス語で話す楽しさを感じてもらうことを優先した。初心者であるので、フランス語での説明が全く通じないことが多々あり、日本語で説明すること

が度々あった。ネイティブ教員として、本来であればフランス語のみで授業を行いたいと思うが、学生から理解しているかどうか意思表示も反応も何もない時に、日本語を使って先に進みたいと思うことがある。アンケートでは、「この授業に関して、授業外での学習・実践など自主的な努力をしていますか」という質問に対し、平均 3.9 点と高くなく、少なくとも、授業で使った単語や表現については復習をしてもらいたいと思う。教員に対しての評価点は、平均 4.8～5.0 点と高い評価をもらったので、今後も継続してフランス語を楽しく教えていきたいと思う。

【スペイン語】

スペイン語圏世界とグローバリティ 1 / El Mundo Hispánico y la

Globalidad-Grupo 1 (Sergio Neri, Monday 2nd period)

Objective: To understand the formation of the Hispanic world in 3 phases of Globalization:

Phase 1, the fusion of different languages and cultures of the Iberian peninsula with foreign cultures such as Arabic. Phase 2, expansion of the Spanish culture and language to America, Africa, Asia and its fusion with local cultures. Phase 3, the formation of a pan-Hispanic culture, scenarios and challenges of the present and the future. We'll learn accessible academic vocabulary used in universities of Hispanic countries.

Course contents: The course content was based on a brief description of phenomena and processes that have given rise to cultural, political, economic and social systems that are shaping the Hispanic world. These factors were analyzed from the theoretical perspective of Globality of Peter Sloterdijk and other authors' theories.

General Overview and agenda: Topics were covered in a general but solid manner, with simple, easy to understand terms for students who have completed the level B1 and above. These terms, despite being simple, are used in university education in Spanish-speaking countries. This can be useful for the students aiming to study in Hispanic countries and for those who will make a research in Spanish.

スペイン語圏世界とグローバリティ 2 / El Mundo Hispánico y la

Globalidad-Grupo 2 (Sergio Neri, Wednesday 4th Period)

Objective: To understand the formation of the Hispanic world in 3 phases of Globalization:

Phase 1, the fusion of different languages and cultures of the Iberian peninsula with foreign cultures such as Arabic. Phase 2, expansion of the Spanish culture and language to America, Africa, Asia and its fusion with local cultures. Phase 3, the formation of a pan-Hispanic culture, scenarios and challenges of the present and the future. We'll learn accessible academic vocabulary used in universities of Hispanic countries.

Course contents: The course content was based on a brief description of phenomena and

processes that have given rise to cultural, political, economic and social systems that are shaping the Hispanic world. These factors were analyzed from the theoretical perspective of Globality of Peter Sloterdijk and other authors' theories.

General Overview and agenda: Topics were covered in a general but solid manner, with simple, easy to understand terms for students who have completed the level B1 and above. These terms, despite being simple, are used in university education in Spanish-speaking countries. This can be useful for the students aiming to study in Hispanic countries and for those who will make a research in Spanish.

比較文化研究（比較文化セミナー） / Estudios Culturales

Comparativos (Sergio Neri, Friday 5th period)

Objective: To try to understand what culture is, how a person relates to its own culture, how cultures relate with other cultures and how they interact

Course contents: We analyzed the influence of the culture on its products such as films, music, food, etc. We used theories of culture, and Post-colonial studies to try to explain cultural phenomena such as Interculturalism, Transculturation, Acculturation, Pluriculturalism, Cultural Semiotics, etc. We have compared the cultures of the Hispanic countries and Japan in aspects such as thinking, beliefs, attitudes and activities of daily life. We learned easy academic vocabulary used in Spanish-speaking universities.

General Overview and agenda: Students had very active discussions and showed a high sense of respect and understanding for the culture of the other. That will certainly produce good results when students confront multicultural issues in their future careers.

リサーチ発信プロジェクト: グローバル科目 / Metodología y Léxico

para Proyectos de Investigación (Sergio Neri, Tuesday 5th period)

Objective: To better understand some research methods, to manage a research project and to acquire certain vocabulary in academic Spanish related to the subject. That will help students to join regular courses in Spanish speaking universities and to conduct research in those countries for their assignments or for their graduation papers.

Course contents: Strategies for choosing a subject of research and how to delimitate it. Types of research approach. Research methods. Research design. Research management. How to design and conduct interviews and surveys, discourse and vocabulary. Data analysis. Discussion. Each topic includes academic vocabulary and discourse analysis.

General Overview and agenda: Students learned some strategies that help choosing a subject for research and delimitating it into feasible objectives, they chose a research method that suited their objectives and made a group research that included interviews and a survey. This proved to be useful because most students did not have a clear idea of what they wanted to research during their study abroad, which was going to start the next semester.

Then they learned how to analyze the results of the interviews and how to design a survey accordingly in order to find out if the opinions expressed in the interviews were shared by other Japanese. The students commented that they had lots of fun in these last two steps of the research. Finally, we learned how to analyze and discuss the results of the surveys.

日本文化をプレゼン / Habilidades de Presentación sobre la Cultura

Japonesa (Sergio Neri, Thursday 5th period)

Objective: The aim of the course is to help students develop a project in which they make a presentation of a certain topic related to the Japanese culture in order to promote a better understanding of Japanese culture when students go abroad in exchange programs with universities of Spanish-speaking countries.

Course contents: We learned how to select topics of Japanese culture in order to make a presentation of them. We will see how to find information on the selected topic and how to organize ideas in a text to be used as a guide for the presentation. We moved into planning and conducting presentations, dividing them into sections in a logical sequence, using interesting graphics, how to handle the interaction with the public, create interest and participation, handle questions and answers, etc. The course included easy-to-learn academic vocabulary used in universities from Spanish-speaking countries.

General Overview and agenda: Students were very active, they did not hesitate practicing in every class the different skills we learnt. At the beginning, they found it difficult to select the information that was essential for their presentation and to discard the information that was not pertinent. We learned strategies for reading and for searching information. With this and a lot of practice they managed to evaluate text content and discern useful information.

時事問題読解 / Comprensión Lectora de Noticias de Actualidad

(Sergio Neri, Thursday 4th period)

Objective: The aim of this course was to help students discern different types of text used in news. Students learn reading strategies and practice them thoroughly. They get awareness of discourse and use it to better understand the author's intention and the opinion of people, institutions, etc. who play a role in today's context of Spanish and Latin American societies.

Course contents: We analyzed the discourse and its different types in the text, what is Pragmatics and its use in different kinds of text. We studied strategies to read and understand texts. We learned academic vocabulary used in universities in Spanish speaking countries. We reviewed different styles and the use of metaphor, irony, idioms, etc. in news about the current situation of Spain and Latin America.

General Overview and agenda: When students were presented actual pieces of news from

authentic media, they thought they could not read such big texts, containing many idioms and academic words, but they got a pleasant surprise when they actually did it after analyzing the text by smaller sections and applying the different strategies we saw in class.

DELE B1 対策 / Preparación para el examen DELE B1

(Sergio Neri, Wednesday 3rd period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeed in the DELE B1 test to be conducted in May and in November.

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts such as articles, news, interviews, etc. Also we learned how to write short texts such as letters, comments, etc. We developed strategies to understand short dialogues and other examples orally. We worked on strategies for expressing and interacting orally. We used many practice tests for DELE B1. To be certified in DELE a big amount of vocabulary is required, therefore we studied vocabulary dividing it into semantic clusters and study as much at home as in class.

General Overview and agenda: Step by step, students developed the necessary skills required in this test, nevertheless there the dates of the application of the test do not coincide with the completion of the course, creating as a result, great pressure for the students and professor in order to work enough to improve the skills in time for the may test. Therefore, it was necessary to employ extra time to work with the students who were going to do the test in May. That extra time was dedicated from the iContact time, so that we were able to work two sessions of half a koma per week. A lot of extra homework was necessary as well.

DELE A2 対策 / Preparación para el examen DELE A2

(Sergio Neri, Tuesday 4th period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeed in the DELE A2 test to be conducted in May and in November.

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts such as articles, news, interviews, etc. Also we learned how to write short texts such as letters, comments, etc. We developed strategies to understand short dialogues and other examples orally. We worked on strategies for expressing and interacting orally. We used many practice tests for DELE A2. To be certified in DELE a big amount of vocabulary is required, therefore we studied vocabulary dividing it into semantic clusters and study as much at home as in class.

General Overview and agenda: Step by step, students developed the necessary skills required in this test, nevertheless there the dates of the application of the test do not coincide with the completion of the course, creating as a result, great pressure for the students and professor in order to work enough to improve the skills in time for the may test. Therefore, it was necessary to employ extra time to work with the students who were going to do the test in May. That extra time was dedicated from the iContact time, so that we were able to work

two sessions of half a koma per week. A lot of extra homework was necessary as well.

初級スペイン語 A1 / Español Básico Nivel A1 (Sergio Neri, Friday 2nd period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their first year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: Because of the large number of students, the quality of time dedicated to each student was going to decrease considerably. As a solution to solve this the class was divided into two groups of 24 and 25 students and half a koma was dedicated to each group. Although the class time was reduced to half the time, it was considered better to give attention to every one of the students because this was their 1st year and they needed more contact with Spanish language. Reducing the number of students in order to have a full 1 koma class, would let half the students without any class at all. The result was that many students got very good motivation for Spanish language and for iCoToBa courses.

第 2 外国語としてのスペイン語 1 / Español como Segunda Lengua

Extranjera A1 alto (Sergio Neri, Monday 5th period)

Objective: This course is for Kendai students who are not specializing in Spanish but are taking this as a second language as part of their program. The aim of this course is to help students develop a level of Spanish that enables them to join other courses of iCoToBa addressed to students of the Spanish specialty. Since the former have less time of Spanish instruction, more practice is needed for them in order to communicate with the students of Spanish department.

Course contents: The contents of the course were coordinated according to the contents of the language classes they already had as part of their curriculum, so that it covers the same subjects for practice and developing a good performance as well as new topics considered necessary to improve their communication.

General Overview and agenda: The level of the students were very different on person to person basis, as consequence of this the results were mixed. Some students were motivated enough that they were frequently found in iCoToBa talking in Spanish with students of the Spanish department, their communication was effective. But the results on other students were more

limited and they were not able to sustain conversation in Spanish with other students. More work needs to be done in order to find possible answers to this disparity.

【ドイツ語】

ドイツ日常語と実践会話Ⅰ - Deutsche Alltagssprache und

SprachpraktischesⅠ (Morten Hunke, Tuesday 1st period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication – even for students at beginner level? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. This class was largely based upon: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*

Course contents: Every lesson started off with games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. An emphasis was placed upon mastering certain fields of simple communication well: colours, appearance, character, and food items etc. Students regularly engaged in speaking tasks in pairs, small groups. Regular writing tasks were also set.

General Overview and agenda: The agenda was to build as much as possible on last year's (positive) experiences. This wholly succeeded. The student speaking ratio was even improved upon. Teacher talking time was regularly below 25% (as measured by an external observer). Students regularly engaged each other speaking for almost 50% of the time. Again regular haiku/tanka (homework) tasks were set – on average 2 short writing tasks per week. According to the survey, student's motivation was increased for virtually all (4.9) participants. This is a very encouraging figure. The only two complaints uttered in the survey were the 1st period slot for the class and occasional illegible handwriting. However, since all iCoToBa classes need to be scheduled around regular classes there is very little that can be done on the former issue. The latter issue will be addressed at once.

ドイツ日常語と実践会話Ⅱ - Deutsche Alltagssprache und

SprachpraktischesⅡ (Morten Hunke, Wednesday 1st period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication – even for students at beginner level? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. This class was largely based upon: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*

Course contents: Every lesson started off with games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. An emphasis was placed upon mastering certain fields of simple communication well: colours, appearance, character, and food items etc. Students regularly engaged in speaking tasks in pairs, small groups. Regular writing tasks were also

set.

General Overview and agenda: The agenda was to build as much as possible on last year's (positive) experiences. This wholly succeeded. The student speaking ratio was even improved upon. Teacher talking time was regularly below 25% (as measured by an external observer). Students regularly engaged each other speaking for almost 50% of the time. Again regular haiku/tanka (homework) tasks were set – on average 2 short writing tasks per week. According to the survey, student's motivation was increased for all 5.0) participants. This is a very encouraging figure. The textbook was seen as useful by almost all (4.9) students. Some students voiced the wish for the instruction to also be in English as well as German. Also, more useful phrases for stays abroad were requested. Both aspects above can be implemented without any further difficulty. However, the latter will always be easier in semester 2 when students already have a relatively solid language base. Additionally, further efforts will be made to include more aspects of culture and everyday life into the semester 1 and 2 content.

ドイツ日常語と実践会話Ⅲ - Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches III (Morten Hunke, Tuesday 3rd period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? There will be a strong focus on spoken language in German.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises. Throughout, the course of the class students gave prepared and impromptu presentations, performed reading out aloud scenarios – after having identified pauses and major phrasal stress - wrote their own dialogues, engaged in role play and drama exercises. An emphasis was placed on aspects of popular culture (football, food and music).

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the regular classes of the second and/or third academic years as accurately as possible. It was seen as positive in the survey that a number of outside materials and games were used by the teacher (an agreement of 4.9). Students also felt largely motivated to engage further with the target language (4.7). Because the class was somewhat larger for a communication class, some students voiced the desire for a smaller size class. Since students choose their own extracurricular iCoToBa classes on top of regular classes, little can be done to influence such factors from an administrative perspective.

ドイツ日常語と実践会話Ⅳ - Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches IV (Morten Hunke, Tuesday 4th period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? There will be a strong focus on spoken language in German.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises. Throughout the course of the class students gave prepared and impromptu presentations, performed reading out aloud scenarios – after having identified pauses and major phrasal stress - wrote their own dialogues, engaged in role play and drama exercises. An emphasis was placed on aspects of popular culture (football, food and music).

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the regular classes of the second and/or third academic years as accurately as possible. It was seen as positive in the survey that a number of outside materials and games were used by the teacher (an agreement of 4.8). Students also felt largely motivated to engage further with the target language (4.4). Because the class was fairly small there was more perceived pressure on students to speak and perform. An ideal class size would be between 8 and 15 students. Since students choose their own extracurricular iCoToBa classes on top of regular classes, little can be done to influence such factors from an administrative perspective.

ドイツ日常語と実践会話 V - Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches V (Morten Hunke, Thursday 3rd period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? Or even how to express my thoughts? There will be a strong focus on spoken language in German.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises and games. Throughout the course of the class students gave short prepared and impromptu presentations, or were reading out aloud existing or self-produced scenarios. Topics were selected according to usefulness for everyday scenarios rather than level of language difficulty. Thus, a certain tolerance level on behalf of the learner to produce language material without understanding the entire vocab and/or grammar was an important factor.

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the iCoToBa and regular classes of the first academic year as accurately as possible. Thus, for this class no textbook materials were used. No writing or homework tasks were set either. This class was first and foremost about wanting to do more with the target language. Students were overwhelmingly satisfied with the class. 4.9 recorded their level of motivation had increased. The request by students to include more audio visual material and to put an emphasis on popular culture (football in particular) will be heeded in semester 2. In

semester 2 the class will morph into an “after care” class for attendees of intensive summer courses in Germany. It is envisaged to up the ante even further and potentially even cover second year structures and material, drawing upon students’ increased abilities and exposure to target language culture situations.

検定試験対策 - Testvorbereitung (Morten Hunke, Thursday 4th period)

Objective: Preparation for German language tests on levels A1 through to B2. A particular focus will be on understanding and preparing for the differences in format. The course requires students to practise and study individually. This class aims at preparation for the Goethe Institut/Österreichisches Sprachdiplom exams rather than the Japanese format 独検.

Course contents: Every lesson focus entirely on the student’s own needs and requirements for study. Students produce their own count down timetable for test prep – with help, assistance, and feedback from the teacher. They then engage in the weekly prep activities they set themselves. In class they mostly report and their progress and on difficulties encountered. Principles for tactics in approaching test tasks were discussed and practised on mock test materials.

General Overview and agenda: The language ability levels of students differed considerably. Despite the low (A1) entrance level criteria, students in first year cannot attend this class in semester 1. Their language abilities are simply too basic. Also, since the university sponsors participation in 独検 only – a test format that is not recognized in Europe at all – more thought has been given to how to design a test preparation class that best meets students’ needs and expectations. The number of students attending regularly unfortunately dropped very quickly to 1-2 students. These students expressed the desire for having more fellow travellers. A desire highly understandable in itself. Sadly, this is not easily influenced from an administrative vantage point in the institutional setup of iCoToBa classes; students choose their own classes and also when to attend or not. It appeared to be the case that not all students were comfortable with having to take charge of their own learning, albeit in a guided fashion. This is, however, a very important feature of test prep, since it won’t be the teacher taking the test but the students themselves. No significant changes to the course format are envisaged for semester 2.

発音、パフォーマンス - Aussprache und Performance

(Morten Hunke, Thursday 5th period)

Objective: This class specifically addresses pronunciation from a performance vantage point. Students are introduced to a method to improve their own speaking and performing abilities using an intensive approach making productive use of drama pedagogy and (canonical) poetry. To give a poetry performance at a semester final event in front of a public audience.

Course contents: Every lesson started off with activities taking from drama pedagogy. These

were aiming to improve the students' ability to control voice projection, facial expressions, gestures, and body posture in relation to an audience. The safe non-intimidating environment within the group and the classroom were of vital importance here. Students, furthermore, picked a poem with which they thenceforth engaged with for a large part of the semester.

General Overview and agenda: Having started with 13 students and having 11 students actually perform in the semester final Gedicht+Performance event has been a success in itself. An encouraging majority (4.0) commented they had improved their language skills using the newly introduced method. There was one comment asking for speaking materials above the realm of poetry. This something that could be considered. As things stand currently, however, a repeat with minor alterations to the existing concept of an encouraging first run are all the changes planned.

日本紹介 - Japanbotschafter (Morten Hunke, Monday 5th period)

Objective: This class will feature a number of highly practical activities to make you more prepared for your student life in Germany. There will be input from current German students and Japanese Kendai returnee students. Students will (re-)discover Japan and Japanese culture from the vantage point of a foreigner. This outlook will be added onto with their own view and understanding of things. The class will be aiming at providing practical skills wherever possible.

Course contents: The most important lesson to take away from this class is the difference in perception about things Japanese from individual to individual and from outside and inside Japan. Stereotyping ought to be avoided wherever possible. Students actively learned how to introduce their own country and aspects of its culture in the target language German. Multimedia resources were used as well as a number of presentation and discussion formats in order to liven up the cross cultural content of the class. Aspects of popular culture and student life in both countries were emphasised in terms of topics. Some of the posters produced contributed actively to showcasing the German partner universities at Open Campus and Germany study events.

General Overview and agenda: The class make up represented students from year 2 through to 4. The two 2nd year students integrated well into the large group, as did 3rd and 4th years of varying abilities. The atmosphere in class was very good. A lot of time could be spent on preparing students actively for study abroad experiences – with input from returning students and German exchange students. Students overall liked the class and their motivation to study further was largely increased (4.6). However, some students felt their language skills didn't improve as much as they had expected prior to the class (3.8). In this context it needs to be reiterated, though, that the primary focus of the class is content and to some degree skills, not language primarily. Students wished for more practical language and ways of using it to be implemented. Something that has been duly noted and taken on

board for the design of the next course in semester 2. Communication and communicative scenarios will feature more prominently in next semester's course.

ドイツの文化、サブカルチャー - Kultur, Subkultur, Esskultur

(Morten Hunke, Wednesday 3rd period)

Objective: This class is taking a closer look at German food culture and the sphere of cross cultural issues between speakers of German and Japanese. It is aimed at both returnee students and students who have not (yet) been abroad. Practical speaking and presentation as well as research skills are the focal aspects of attention.

Course contents: The Deutsche Welle/Goethe Institut collaborative cultural studies journey/game *Ticket nach Berlin* was always the starting point in the class. The project comprised of 2 teams of 3 learners of German each travelling through the country completing tasks to do with language and aspects of German culture. This happened live alongside the course. Thus, students could follow the progress in real time. Particular focus was placed on everything to do with food in the video blog episodes. A variety of German dishes was discovered. In presentations and simulations these were acted out

General Overview and agenda: The language ability levels of students differed to a fair degree. to This led to occasional obstacles to executing planned class activities. Also, the time slot appeared to be not ideal for many students. Attendance numbers dropped vastly towards the end of the semester. A semester final cooking event was held together with students from other classes.

リサーチ発信プロジェクト - Forschungs- und Präsentationsprojekt

(Morten Hunke, Monday 3rd period)

Objective: Doing research in the target language German is an important aspect of preparation for studying abroad in a German speaking country. Academic practices vary considerably to those in Japan. This is something students will be led to practically embrace throughout the course of the class. In three stages: group presentation, pair presentation, the level of responsibility for the individual student gradually rises.

Course contents: For the group presentations, the students again chose to engage with presenting the 3 German cities with whose universities the Aichi Prefectural University has standing exchange partnerships: Köln (Cologne), Leipzig, and Tübingen. In the pair presentations students reported on their language learning and study abroad aspirations. Each time the students presenting the case of their partner. For the individual presentations a number of German (popular) cultural topics were chosen. The presentations took place on one day. They were video recorded.

General Overview and agenda: In the class tuition was effectively provided only by Morten Hunke. Morio Ohyama never showed up even once – allegedly not deeming this a

necessity. The atmosphere in class was very good. All students bar 1 performed in the final presentation event. The blend of students from year 2 and 4 made it occasionally difficult to ensure cohesion and a maximally beneficial learning environment for all involved. Almost all participants felt their motivation to study the target language and culture further to have increased through participating in the course (4.4).

【中国語】

発音特訓講座 A、B、C、D、E、F

(顧令儀、火曜日 14:30～15:15、15:15～16:00、水曜日 9:35～10:20、12:50～13:35、金曜日 10:30～11:15、11:15～12:00)

授業目的: 中国語発音の基礎となる声調や、日本人にとっての発音の難点をクリアし、安定した正しい発音を身につけることを目的とする。

授業内容: 基本的な発音注意点を教えてから、ゲームをして、学生が気楽に発音できる環境を作る。その後、一人一人に発音させ、それぞれの問題点を直す。またピンインで中国語の短文や詩を読ませることで、中国語の発音を馴染ませた。

アンケート結果分析・来期の課題: 「発音の苦手意識がなくなった」、「少人数で十分練習できた」と学生の満足した声が見られる一方で、「時間が短すぎる」、「ゲームがもっとしたい」、「もっとやりたい」という意見もあった。確かに45分は十分とは言えず、学生の興味を引き出すためのちょっとしたゲームをして授業が終わるというパターンに陥ることがあった。今後は1時間の設定で講義を設計する必要がある。また、レベルほぼ同じで少人数のクラスだったので、学生も積極的に参加できたと思う。今後は少人数のままで、もっと種類の異なるゲームを用意する努力が必要である。

リサーチ・発信プロジェクト (顧令儀、月曜日 10:30～12:00)

授業目的: グループプロジェクト(ブレインストーミングを行い、スケジュールを作り、仲間と一緒に問題を解決する)に必要な能力や方略を学ぶ。

授業内容: 学生たちに先ずブレインストーミングにより関心のテーマを決めてもらい、そのテーマに対してどのような調査をすれば良いということを討論させ、実際に調査を行ってから、学期末に調査結果の発表をする。受講者は7人だったため、2つのチームに分かれ、ひとつは「中国の娯楽と流行語」をテーマにし、もう1組は「中国大学生の恋愛観」をテーマにした。どちらも真剣に取り組み、興味深い発表を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 「学生が主体となり進める」「発想が自由」等の点で学生から高い評価を受けている。また、調べる能力や、問題提起能力などの面で学生は力が付いたと感じているので、講義の目的はほぼ達成したと思われる。ただ計画的に日程を管理するところはやや弱いので、今後の講義でこの点においてもう少し力を入れたいと思う。

中国と日本の比較文化 (顧令儀、月曜日 12:50～14:20)

授業目的: 学生たちの興味がある分野を選んで、スライドを使いながら、中国の文化を紹介し、日中文化を比較しながら、異文化理解を身に付けることが目的である。

授業内容: 中国の南北文化の違いや食文化および年中行事などの写真や説明図をスライドで見せながら、中国語で説明を行い、日本との違いを学生に話してもらい、両国の文化を比較することによって学生の理解を深めた。

アンケート結果分析・来期の課題: 授業の内容は学生と相談した上で決めたもので、学生たちは興味を持ち、積極的な姿勢を示してくれて、「中国文化と比較して日本文化への理解も深まった」や「留学前に受けていれば良かった」などの評価から、講義の目的をほぼ達成したと思われる。しかし、参加した学生には 2 年生もいれば、留学帰りの学生もいたので、完全に中国語で講義することはやはり無理なところはあったと思うので、今後はレベル分けをしっかりとする必要があると思われる。また学生に日本の文化を調べさせ、発言する機会を与える必要があると思う。

実践中国語上級編 (顧令儀、月曜日 16:10～17:40)

授業目的: 聞く、喋る、読む、書くことを総合的に行うことによって、学生の語学力を鍛えることが目的である。

授業内容: 授業中では中検に出た文法を説明し、スピーチやゲームを取り込みながら、聴解や会話の総合的な練習を繰り返した。少々語彙力が足りなくても、前向きに話そうとする姿勢を学生の身につけたと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生から「中国語の文法力、会話力、リスニング力、語彙力」が進歩したという評価があり、この授業の目的はほぼ達成したと思われる。しかも少数ということで、学生が発言する機会が多く、教員として学生一人一人に気を配ることができた。学生に残された課題としては語彙力が足りないことがあげられているので、今後の授業の中で、語彙に関係する内容をもっと取り入れたい。また、レベルの異なる学生を一人一人対応していくには効率が悪いので、今後はレベル分けをしっかりとする必要があると思われる。

複文トレーニング (顧令儀、火曜日 10:30～12:00)

授業目的: 複文に関わる接続詞を勉強し、より複雑な中国語を使える能力を身に付け、苦手な表現を克服することを目的とする。

授業内容: 日常生活に使われる中国語の接続詞の意味と使い方、そして注意点を紹介し、似たような接続詞と比較しながら、様々な練習を繰り返す。学期末には習ったすべての接続詞を使って作文を行うことによって、接続詞の復習と整理を一層強化した。

アンケート結果分析・来期の課題: 受講者は 1 人だったので、学生と相談しながら、学生の苦手なところを徹底的に説明し、トレーニングをした。学生からも「今まで苦手で使いこなせ

なかった関連詞を使えるようになった」という評判から、この授業は目的をほぼ達成したと言える。ただ中国語を上達させるには、複文は避けて通れないところで、今後はより多くの学生が受けられるように時間の調整を考えて授業を設定する必要がある。

慣用句でリアルフレーズ（顧令儀、木曜日 10:30～12:00）

授業目的: 日常生活によく使われている慣用句を理解し、使えることを目的とする。

授業内容: 日常生活によく使われている慣用句の意味や使い方を説明し、その慣用句にまつわる物語や歴史背景を紹介することによって、学生の記憶を深めた。また、毎回は必ず復習の時間を設け、状況や場面を出して、学生に慣用句を使わせて、練習を繰り返した。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数のクラスで、慣用句は留学帰りの学生にとっても挑戦的な内容だった。また、多くの物語や風習などの文化的な要素が含まれていたため、学生たちは積極的に取り組み、楽しい授業となった。問題点としては、会話の中で慣用句を使う練習がやや不足していたと思われる。慣用句は場面によって使われるものが多く、1つや2つの場面だけでは、練習としては不十分であり、今後はより多くの場面や状況を想定し、場合によってゲームや演劇をも取り入れて、学生に練習の機会をもっと与えることが必要だと思う。

中国語で日本を紹介する（顧令儀、木曜日 12:50～14:20）

授業目的: 日本の生活や文化を中国語で紹介することによって、中国語学力のアップを目指すことが本授業の目的とする。

授業内容: 受講者は6人であり、2つのチームに分かれ、それぞれのテーマについて調べ、中国語で報告書を作り、学期末に中国語で発表した。テーマは学生と相談した上で決め、ひとつは中国人向けの日本旅行案内で、もうひとつは中国留学生が愛知県立大学に留学して来た際の生活案内である。日本の魅力を中国人に知ってもらい、実際に役に立ちたいという学生の要望から、この2テーマに決定した。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生たちは目標を持っているので、積極的に授業に取り組んでいた。学生からは「大学の授業では習わない単語が学べる」や「中検に iCoToBa で勉強した単語が出て、役に立った」という評価があった。しかも、文法、作文力や語彙力がアップしただけでなく、iCoToBa のラウンジで展示できるような立派な報告書も作った。しかし、この授業にも課題が残されている、それは実践的会話があまり多くなかったという点である。今後はできれば中国人の留学生に協力し、実際に授業の内容を留学生に話し機会を作る必要があると思われる。

3.2. 2014 年度後期開講授業

【英語】

Survival English (Fern Sakamoto, Thursday 1st period)

Objective: To develop effective strategies for dealing with new situations.

To acquire useful situation-specific English expressions.

To enhance natural communication skills.

Course contents: This class had a heavy casual speaking emphasis, with more than half of all class time involving students in English conversations. Each unit introduced a different social situation, and students considered possible strategies and useful expressions, then practiced using them in small group conversations and roleplays. Several “giant” roleplays were carried out to allow students to revise and practice all skills covered in the course. Students completed weekly reflections on their own progress and participation.

General Overview and agenda: This class was very popular with first year students. Maximum enrolment of 25 students was achieved, and attendance was consistent, in spite of the first period timing. Students reported high motivational benefit and satisfaction with the course materials and methods, though explicit language skill improvement was not ranked highly. The aims of the course are to encourage students to use their skills more fluently and naturally, and to build confidence in speaking, so high scores for motivation and students comments about the enjoyable and useful nature of realistic conversation tasks indicate that this goal was achieved. This class will continue to be developed and implemented in the new academic year, again with an emphasis on attracting first grade students.

News English (Fern Sakamoto, Wednesday 3rd period)

Objective: To deepen understanding of current affairs through the media.

To acquire vocabulary necessary in understanding and talking about current news issues.

To practice formulating and expressing personal opinions on current events in English.

Course contents: Students learned about current domestic and international issues through print, TV and internet media. Each class introduced relevant vocabulary which students then used to comprehend written, audio and visual media texts. Students took part in discussions about that week’s domestic or international issue, expressing their own opinions, experiences and reactions related to the topic.

General Overview and agenda: As with any class in the Wednesday afternoon time slot, there were issues with continued attendance in this class. A core group of students did however manage to attend most classes and formed a strong group connection. Students reported high levels of language skill improvement, but provided little in the way of detailed comments on class content. Teacher reflection suggests that increasing the burden on

students to prepare their own news topics to discuss in the class could ensure materials that appeals to a greater range of students.

Word Power (Fern Sakamoto, Tuesday 4th period)

Objective: To extend usable vocabulary.

To gain increased vocabulary range and confidence in conversation.

To develop personal study techniques.

Course contents: Students encounter 150 new vocabulary items (chosen by teacher and individual) related to a range of different fields and topics. Class time encouraged students to utilize newly acquired vocabulary in a variety of communicative tasks (including conversation activities, roleplays and word games), to enhance their understanding and recollection of the words.

General Overview and agenda: Students showed fairly consistent attendance in this class, and indicated a high degree of satisfaction with the teaching of the course. Students specifically stated that the high percentage of class time spent in conversation tasks was beneficial and enjoyable. Student opinions revealed room for improvement in the degree to which their language skills improved through the course, however comments revealed that students spent little time on preparation for class or revision after it, and the majority of students expressed the view that more personal effort was necessary in order to retain words learned in class. To address this issue, the lecturer is planning to incorporate more computer-based tasks for student completion between lessons. Some degree of uncertainty about the contents and purpose of the class in the initial guidelines was indicated, which can be addressed in designing an updated course next year.

J-Ambassador 1 (Fern Sakamoto, Thursday 5th period)

Objective: To reflect upon Japanese culture; identifying stereotypes, reality and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.

To be able to communicate information about Japan clearly and naturally, without compromising content or resorting to unnecessary dictionary use.

Course contents: Each class addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a presentation project, with all students preparing and delivering pair-presentations introducing an aspect of Japanese culture.

General Overview and agenda: Many students reported that more than increasing their explicit language ability, they learned how to utilise their current skills to talk about Japan in a clear effective way. This tied exactly with the goals of the course. A high number of students expressed enjoyment of the final presentation task and a desire to have more such tasks throughout the class. This response was surprising. The instructor had hoped for a

more interactive final project opportunity, yet students seemed happy with the in-class task. Future implementations of the course will hopefully allow for incorporation of both class project types, with greater focus on student project work.

J-Ambassador 2 (Fern Sakamoto, Friday 1st period)

Objective: To reflect upon Japanese culture; identifying stereotypes, reality and possible foreign perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.

To be able to communicate information about Japan clearly and naturally, without compromising content or resorting to unnecessary dictionary use.

Course contents: Each class addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a presentation project, with all students preparing and delivering pair-presentations introducing an aspect of Japanese culture.

General Overview and agenda: Comments on this class were largely similar to those for the Thursday J-Ambassador group and recommendations are the same. This group did however demonstrate a more positive group dynamic, perhaps attributable to the high number of students planning to study abroad in the near future, and thus increased relevance of the course material.

Global Leader (Fern Sakamoto, Wednesday 4th period)

Objective: To learn vocabulary related to world issues.

To further understanding of and ability to think critically about global issues.

To be able to express ideas clearly and participate actively in a discussion.

To gain leadership confidence and experience.

Course contents: This class was heavily student-focused, with students taking turns to prepare and lead class learning and discussions related to world issues of their choice. Students were required to choose an information source, and develop and submit a lesson plan and handout. After teacher feedback and corrections, students then lead the class in an 80-minute discussion.

General Overview and agenda: This was a student-focused class, and all students expressed enjoyment of this class style. Students were diligent in attending and preparing for class, and reported self-effort levels higher than for many other iCoToBa classes. Students considered both their language skills and their motivation for learning to have improved significantly through the course. This makes a good case for placing increased responsibility for learning with the students in other classes.

Academic Listening (Fern Sakamoto, Tuesday 1st period)

Objective: To learn techniques to prepare for more successful listening.

To be able to identify important information within a speech.

To begin developing an effective personal note-taking style.

Course contents: Students developed a range of listening and preparation strategies for use before, during and after a lecture to enhance their understanding. Each week students listened to a different audio-text and practiced recognising important information and identifying what to include in their notes. Students also examined genuine scripts to familiarise themselves with the academic speaking genre.

General Overview and agenda: Survey results indicated high levels of student satisfaction with classroom teaching and materials used in this course, and with the improvement of their language skills. Attendance in this class showed serious attrition however, which students attributed to the first period time slot, but could perhaps also be affected by perceived difficulty of the class. An area to consider in future classes is that of more direct teaching of language learning methods, as students showed mixed feelings about the degree to which they had acquired these metalinguistic skills through the course.

Discussion & Debate (Fern Sakamoto, Tuesday 5th period)

Objective: To consider topical issues from all angles and be able to identify pros and cons.

To become familiar with Asian-style parliamentary debate.

To be able to formulate and express opinions clearly and persuasively in English.

Course contents: Each class students discuss and identify arguments for both sides of a debate.

Topics covered a range of local and global issues, and students practiced both impromptu informal discussions and formal prepared debates. The course culminated in a full-length student debate in the Asian Parliamentary style.

General Overview and agenda: This class attracted a number of students who had overseas study experience, and their comments indicated that students felt they had improved their problem-solving skills and ability to consider multiple perspectives through the course. High satisfaction was expressed in terms of understanding and meeting the goals of the class, improving language skills, and with the overall teaching of the class. The amount of student time devoted to class preparation was indicated to be low, and this was felt by the instructor to be the case too, with repercussions for student learning. The second semester class removed focus from strict debate styles to allow more flexible discussion as per comments on the first semester course, but pushing the students with more difficult tasks and more explicit homework may be necessary in order to help them gain maximum benefit from the class.

Short Essay Writing (Fern Sakamoto, Monday 1st period)

Objective: To gain an understanding of appropriate composition structure.

To acquire set phrases and vocabulary used in academic writing.

To develop critical thinking skills and be able to write in a logical, well-argued manner.

Course contents: Students studied appropriate structure, flow and language to use in simple academic writing. They developed critical thinking, writing and editing skills and extended their academic vocabulary. Students had the chance to draft and finally submit one longer essay at the culmination of the course.

General Overview and agenda: This class again demonstrated that writing classes are not in high demand, with a low number of student participants. Those who persevered with the class expressed a high degree of satisfaction with the class however, with the small class size being a significant advantage. It is true that this did enable extensive tailoring of the course to meet the needs of the students, however it is perhaps difficult to justify running classes with such small numbers. Interestingly, a large number of students (not enrolled in the class) approached the instructor for writing assistance in iCoToBa time, indicating that there is actually a demand in this area. Marketing of the course and student recruitment must be considered to facilitate more effective implementation of this class.

One-minute Speech (Fern Sakamoto, Monday 3rd period)

Objective: To gain confidence speaking in front of an audience.

To be able to deliver clear, interesting, effective speeches.

Course contents: Each class focused on a speech writing/presentation skill (structure, body language, eye contact, etc.). Students practiced short tasks related to the skill, and then prepared and delivered a one-minute speech each class. Finally students drew all their skills together to prepare and deliver a longer final speech.

General Overview and agenda: This class suffered a great deal of disruption due to typhoons and other unavoidable class cancellations, making continuity a challenge. Students expressed high levels of satisfaction with the teaching of the class and were unanimous in agreeing that their motivation was increased as a result of this class. The final speech task showed that students who applied themselves succeeded in noticeably improving their public speaking skills, however there were a large number of absences over the semester. Informal student feedback suggests that a presentation-skills class may be more popular than a speech class, and could be worth considering for implementation in the upcoming year.

English on the Net (Brett Hack, Monday 5th period)

Objective: To improve comprehension of internet content in English.

To develop a deeper and more natural English vocabulary.

To be able converse casually on a wide variety of topics.

Course contents: Each week, students sent in articles from English websites. One article per week was chosen by the teacher for the lesson. Students practiced useful words and phrases taken from the article, followed by casual discussion of the social, cultural, and personal issues surrounding the topic.

General Overview and agenda: Student enrollment for this class was rather small. This was at least partially due to the late Monday time slot. However, the five participating students

maintain excellent attendance and participated actively in the class. Survey results indicated that student felt that their English abilities, in particular their active vocabulary, had improved through the class.

Conversation Coach: Start Off! 1 (Brett Hack, Wednesday 4th period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This was a chance for students to practice speaking in English on a range of familiar topics. Each week I prepared some speaking topics and conversation cues, which the students used to conduct free talk sessions. Emphasis was placed on spontaneity and freedom.

General Overview and agenda: This was the beginner version of the class. Student ability was very evenly balanced in this class, so activities went very smoothly. Many students wrote on the survey that they became able to answer questions in English more quickly, and that their fear of English had decreased. I encouraged the students to join a more advanced class next semester.

Conversation Coach: Start Off! 2 (Brett Hack, Friday 4th period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This was a chance for students to practice speaking in English on a range of familiar topics. Each week I prepared some speaking topics and conversation cues, which the students used to conduct free talk sessions. Emphasis was placed on spontaneity and freedom.

General Overview and agenda: The student number for this class was small, but the students were especially motivated to improve their fluency. They particularly wanted to learn how to participate in serious discussions in English. We practiced giving opinions, offering examples, and agreeing/disagreeing. Students wrote on the survey that they no longer felt ashamed of making mistakes, and could speak more freely.

Conversation Coach: Move On! 1 (Brett Hack, Wednesday 3rd period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This was a chance for students to practice speaking in English on a range of familiar topics. Each week I prepared some speaking topics and conversation cues, which the students used to conduct free talk sessions. Emphasis was placed on spontaneity and freedom.

General Overview and agenda: This was meant to be a casual, “no-pressure” conversation class, and it fulfilled that goal. Many students who enrolled did not actually attend. However, survey responses indicated that active students enjoyed the chance to converse in English. Some students wrote that they would like this class to be expanded into a 90-minute session.

Conversation Coach: Move On! 2 (Brett Hack, Friday 5th period)

Objective: To put into practice language and skills studied in other classes.

To extend vocabulary related to a range of topic areas.

To gain confidence and fluency in spoken English.

Course contents: This was a chance for students to practice speaking in English on a range of familiar topics. Each week I prepared some speaking topics and conversation cues, which the students used to conduct free talk sessions. Emphasis was placed on spontaneity and freedom.

General Overview and agenda: This session of Conversation Coach had a wide disparity of skill levels, making free conversation difficult. Very structured discussion and scaffolding was needed for beginners, which was limiting to more advanced students. For this kind of class to be successful, it is necessary to strictly enforce level requirements so that all participants can feel satisfied.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1

(Brett Hack, Monday 4th period)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: This class had a nice mixture of older and younger students. Changing groups every week allowed the students to interact with classmates of different levels, which encouraged younger students to participate. The survey results indicated that students felt they benefited from the course format, which focused on active participation. The high student number made logistics slightly difficult. Offering the course in three time slots next semester might be beneficial.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2

(Brett Hack, Friday 3rd period)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each week focused on a different country or region. Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: This was the quieter class of the semester; I had to work hard to inculcate students with the values of active participation. However, students wrote on the survey that they felt more knowledgeable about the English speaking world. Also, the presentations for this class were particularly good. Students put forth a lot of effort to find unique information and to design attractive slides.

Research Project and Presentation 1 (Brett Hack, Tuesday 5th period)

Objective: To be able to work effectively in a group.
To learn how to manage large tasks and set schedules.
To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: All the groups worked hard and gave excellent presentations, displaying tremendous effort and inspiration. Survey results were also positive; several students noted how this course was the first opportunity they had to actually practice presentation techniques. I will focus more on these skills next semester as well, particularly towards overcoming shyness and introversion.

Research Project and Presentation 2 (Brett Hack, Wednesday 2nd period)

Objective: To be able to work effectively in a group.
To learn how to manage large tasks and set schedules.
To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Students completed long-term group projects of their choice, while learning the skills and tactics needed to manage a group project. Later units showed how to design and organize a successful presentation. Projects were presented during the final week of class.

General Overview and agenda: This smaller class included two project groups, which allowed the instructor to focus on their individual needs and goals. Both groups worked hard and gave excellent presentations here as well. Survey results indicated that students felt their thinking skills had improved. Next semester will devise a system that encourages more English use in the group work sessions.

Real-Life English Expressions (Brett Hack, Tuesday 3rd period)

Objective: To acquire new vocabulary and expressions used in daily life.
To shift understanding of vocabulary towards real-life application.

To develop the ability and motivation to learn new words by oneself.

Course contents: This class focused on practical vocabulary acquisition, particularly on figurative expressions, idioms, and other "natural" phrases that are difficult for beginners to learn. The class also taught beginners how to "be their own teachers" when it comes to acquiring new vocabulary.

General Overview and agenda: Student ability in this class was much lower than in the previous semester. Consequently, attendance dropped from the original 27 members to 18 active members. However, survey results indicated that these active students felt a strong increase in their language ability. Next semester, I will adjust this class to fit a wider range of skill levels, so that fewer beginners feel intimidated.

English Theory Workshop (Brett Hack, Tuesday 4th period)

Objective: To understand the concepts and language of critical theory written in English.

To be able to express complex ideas in speech and in writing.

To prepare to write a graduation thesis in English.

Course contents: This small workshop-style class catered to 4th-year students in the British and American Studies department. Theories discussed came from many disciplines, including psychoanalysis, political science, and postcolonial studies. Students also practiced academic writing and editing.

General Overview and agenda: The survey results for this class were overwhelmingly positive. The small number allowed the instructor to focus on each student's individual academic needs. Consequently, students felt this class was instrumental in preparing them to write their graduation theses. I would like to teach this class in the following fall semester as well.

What is "Global," Anyway? (Brett Hack, Friday 2nd period)

Objective: To develop a critical awareness of the global forces at work in our daily lives.

To be able to form opinions on and discuss contemporary global issues.

To learn how to write an academic argument paper in English.

Course contents: This class was for advanced learners, especially those who have completed a study-abroad program. It was an immersion course using real theoretical texts. We examined how language, politics, economy, culture, and identity are changing as they enter a global frame of reference. Students wrote theoretical case studies and participated in a conference in iCoToBa.

General Overview and agenda: At first intimidated by the level of difficulty and work involved with the course, all the students rose to the challenge and performed excellently. They participated actively in their discussions and greatly improved their critical abilities. The final papers and conference were also great successes for the center. Surveys also indicated that students understood the benefits of the course. I am now fully convinced of the benefits of CLIL instruction.

TOEIC Early Bird 1、2、3、4

(寺澤君江、火曜日 8:50～10:20、木曜日 8:50～10:20)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: TOEIC Intensive(基礎編)を終了し、スコア 800 を目標にする学生を対象として展開した。公式問題のリスニングパート、リーディングパート、それぞれの演習を繰り返すことにより、本番の試験に慣れることができると考えた。問題演習を通し、時間配分の感覚を身につけ、学生が自ら TOEIC における弱点を見つけ、それを克服するような解説を心がけた。

アンケート結果分析・来期の課題: 講座名の通り、朝早い時間帯での演習が学生には好評であった。隙間の時間を有効活用する授業時間の設定が、学生の want を満たしたと思われる。毎週、コンスタントに多くの問題をこなすことが、達成感につながったようである。また、それぞれの問題におけるピンポイントの解説を聞くことにより、学習の蓄積を確認することができた。授業を通して、検定試験のスコアアップだけでなく、TOEIC 学習に向かう姿勢および動機付けにつながったことが大きな成果であったように思われる。

TOEIC Intensive 1、2、3、4

(寺澤君江、月曜日 12:50～14:20、月曜日 16:10～17:40、火曜日 10:30～12:00、火曜日 16:10～17:40)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアアップを目標に授業を展開した。試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させることに重点を置いた。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート4に焦点をあて、過去問題を用いてシャドウイングや Q&A によるリスニングコンプリヘンションに努めた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、時間内に効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: 問題の傾向を理解し、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。特に、ボキャブラリーチェックとシャドウイングが学生には好評であった。本学の学生が苦手とするリーディングパートの時間配分に関しては、パートごとに実践することにより感覚がつかめたように思われる。また、解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生は集中力を持続させることができた。ボキャブラリーチェックを授業に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まったように見受けられた。学生からは本番と同じような形式で問題演習に取り組みたいという希望があるが、時間的に難しい。

Strategic TOEFL (寺澤君江、火曜日 10:30～12:00、水曜日 10:30～12:00)

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応できる英語力の基礎として、リスニング力の強化に重点を置いた。試験

の4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)における、それぞれの出題傾向および問題分析を授業で位置づけ、攻略方法を身につけることができるようにアドバイスした。スピーキングセクションおよびライティングセクションではリスニング力も必要とされるため、特にノートテイキングの方法の説明と演習に時間を割いた。授業全体を通して毎回、過去問題によるミニ模擬試験を実施した。スピーキング力強化に関しては、iCoToBa の iContact(外国人教員との会話練習)を利用することを奨励し、そのための課題も個々に対して提供した。

アンケート結果分析・来期の課題: 問題の解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。

この講座が、リスニングにおけるノートテイキングやスピーキングにおける内容構成を理解するきっかけとなったように思われる。少人数であり、個々の弱点に焦点を合わせながら進めることができ、学生は学習スタイルに関しては満足しているように感じられた。しかしながら、全13コマ(1コマ90分)という限られた時間で4つのパート全てをカバーするには時間が十分ではなかった。特に、スピーキングやライティングにおいて、スコアアップは授業外での本人の努力によるところが大きいと思われた。

Successful IELTS (寺澤君江、水曜日 12:50~14:20、木曜日 10:30~12:00)

授業目的: イギリス留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)を全てカバーできるように授業を展開していった。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツにふれながら、演習を位置づけた。学生の苦手とするライティングはブレインストーミングに重点を置きながら指導にあたった。スピーキングセクションに関しては、授業時の練習に加えて、iCoToBa の iContact での、外国人教員との実践的練習を提案した。

アンケート結果分析・来期の課題: 4つのパートを全てカバーすることにより、テストの形式を理解することができたように思われた。リスニングやリーディングは繰り返し練習することにより、成果が出やすかった。スコアアップのためには、講座終了後も個人で継続的に努力することが望ましい。スピーキング対策として、iCoToBa の iContact の利用が定着してきた。今後は、そのサポートのあり方を工夫したい。

Vocabulary for Exams I (寺澤君江、月曜日 16:10~16:55、火曜日 14:30~15:15)

授業目的: 検定試験(TOEIC/TOEFL/IELTS)受験対策のための語彙力強化

授業内容: 1コマ45分(全13回)の授業として設定し、様々な方法で単語の学習を展開した。

上記の3種類の検定試験で出題される傾向の強い重要単語を、毎回、200~300語程度を復習・確認した。文脈の中で単語をとらえ、ディクテーションすることにより、視覚的および聴覚的にも定着するようにした。単語力強化と共に、リスニング力およびリーディング力強化も図った。さらに、単語の実用性に焦点をあて、コロケーション・同義語・反意語・単語の定義づけなど、多面的に単語の学習を進めるようにした。

アンケート結果分析・来期の課題: 公式問題に使われていた単語に焦点をあて、題材として扱ったため、検定試験対策につながったと思われる。語彙力強化という点においては、効果があった。しかしながら、会話やプレゼンテーションなどの実践的な英語力をアップ

させるということに関して、即効性があるわけではないため、結果として、知識の定着のみの授業とならざるを得なかった。総合的な語学力の定着のためにも、iCoToBa 外国人教員による他の授業または検定対策講座との同時受講を積極的に勧めていきたい。

Vocabulary for Exams II (寺澤君江、月曜日 16:55～17:40、火曜日 15:15～16:00)

授業目的: 検定試験(TOEIC/TOEFL/IELTS)受験対策のための語彙力強化

授業内容: 1コマ45分(全13回)の授業として設定し、様々な方法で単語の学習を展開した。

上記の3種類の検定試験で出題される傾向の強い重要単語を、毎回、200～300語のペースでテーマ別に学習した。復習・確認というよりは、初めて目にする単語が多かったようである。従って、難易度の高いものとなった。アプローチの方法として、リスニングによる単語の理解を定着させることにより、実用的な英語力に結びつくような授業展開を試みた。

アンケート結果分析・来期の課題: 大学受験レベルの英語単語からの脱却を図ったため、学生にとっては難しく感じたようであった。リスニング教材を取り入れ、語彙力を強化する学習方法は学生には新鮮であったように思う。リスニング力強化を目標としながら単語を学ぶスタイルは、ニーズがあると思われるので、学生の知的好奇心を刺激するためにも、このような学習の機会を提供していきたい。Vocabulary for Exam Iと同様に、会話やプレゼンテーションなどの実践的な英語力をアップさせるということに関して、即効性があるわけではないため、知識の定着のみの授業とならざるを得なかった。Vocabulary for Exams Iと同様、iCoToBaの外国人教員による他の授業または検定対策講座との同時受講を学生に勧めていきたい。

【フランス語】

とっさのフランス語・基礎 (ダレン モルガン、木曜日 14:30～16:00)

授業目的: 基礎の語彙と文法の知識を得る。フランス語は難しくなくて楽しい言語だと知ってもらうための授業。

授業内容: フランス語を使ったゲームを通して、正しい言い方と発音を学んだ。ゲームは、フランス語での指示に従って絵を書いたり、天使チームと悪魔チームに分かれて、いろいろな事柄に対して、天使のアドバイスと悪魔からのアドバイスを言い合ったりした。様々なゲームをしながら、フランス語を楽しんだ。また、フランス旅行に必要なレストランや観光での会話を練習した。

アンケート結果分析・来期の課題: 18人が受講したが、回を重ねるごとに人数が少なくなった。1年生ばかりだったからか、授業に遅れてくる学生、寝てしまう学生が目立った。学生を見ていて感じたことは、なんとなくフランス語を選択していたり、フランスについて何も知らないなど、全体的にフランス語を学ぶモチベーションが低いと感じた。ただ、元気はよい学生が多かったので、授業の雰囲気は非常によかった。アンケートでは、必修の授業と関連しているところが多く、復習になったという意見があった。来期もフランス語学科の授業に関連した内容を選択して授業を進めていきたいと思う。簡単な単語やフレーズが使える

が、長い文章や会話のやり取りはできない学生が多かったので、ゲームは非常に役にたった。

フランス語圏なう。（ダレン モルガン、月曜日 8:50～10:20）

授業目的: 留学する前の準備として具体的なフランスについての知識を共有する。グループワークの知識を得る。フランス語で情報を検索する。フランス語で話すと書く力を向上させる。

授業内容: 留学やフランスの生活について有益なこと、例えば、通貨、気候、緊急の場合などの会話や、色々な情報をインターネットで検索して、グループワークとしてバイリンガル海外生活ガイドを作成した。フランスへの留学前に、具体的にイメージができたと思う。

アンケート結果分析・来期の課題: 1 限の授業だったことも関係していると思うが、出席する学生数がいつも少なく残念だった。できれば、1 限ではなく、フランス語学科の必修の科目授業の後に時間割を組んでいただければと思う。そうすれば、既に大学構内にいるので参加する学生も増えると思う。6 人が登録したが、毎回全員は出席しなかった。アンケートでは、「分からない単語や表現を気軽に教えてくれて良いと思う」や「少人数だったため、たくさん教員と会話できた」という意見があった。初めは、恥ずかしがっていたが、少しずつ慣れて、自然に話せるようになっていたので、これからも、積極的に発言することを続けてほしい。

ニッポンなう。（ダレン モルガン、火曜日 8:50～10:20）

授業目的: 日本の文化、習慣など、自分の国のことについて、留学先で正しいフランス語で上手に説明できるように学ぶ。総合的に発表力とフランス語のレベルを向上させる。

授業内容: 日本の習慣、考え方、音楽、社会や文化など、様々な事柄について、質問し合ったり会話をしたりして、学生が自分の意見を言葉にする能力の向上を目指した。一般的な話題ではなく、学生が興味を持った話題を通して、フランス語を道具として楽しみながら授業を進めていくことを優先し、皆の前で発表をした。

アンケート結果分析・来期の課題: 「フランス語圏なう。」同様、1 限だと、どうしても出席率が低くなってしまうので、1 限以外の時間帯に授業を行いたい。学生は皆、真面目だが、おとなしすぎて、コミュニケーションを取ろうとする意欲がないように見えた。皆の前での発表では、単に紙に書いてあることを読むだけという学生ばかりで驚いた。授業以外でも、もう少しフランス語に触れて欲しい。アンケートでは、「欠席 5 回まで可」にして欲しいという要望があったが、現状のまま 3 回までとする予定である。クラスが和気あいあいとしている点、日本語をあまり使わない点が良いと書いた学生がいるので、雰囲気も大切にしつつ、できる限りフランス語のみを使って授業を進めていきたい。

リサーチ・発信プロジェクト①（ダレン モルガン、水曜日 8:50～10:20）

授業目的: 授業の目的: フランスの地方や町とその遺産等について知識を得る。海外生活の

目的・計画を組み立てる。フランス語で情報を検索して、フランス語で発表する。いろんな側面から総合的にフランス語を上達する。留学したい学生は、行きたいフランスの町、または地方とその名物の知識を得ること。

授業内容: 後期の受講者は、前期に不合格となった学生1名だけであった。1名だけであったので、毎週、学生が情報収集をして、その結果をレポートにまとめて提出してもらった。

アンケート結果分析・来期の課題: マンツーマンだったので、レポートについて会話したり、相談を受けたりして、話す機会を多く持つ事ができた。前期受講した学生が多すぎたと思う。バランスよく、前期と後期で受講者数を調整できると良いと思う。

めざせ仏検準2級 (ダレン モルガン、水曜日 10:30～12:00)

授業目的: 授業の目的: 仏検に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 聞き取り、書き取り、または会話を通して、試験に出る単語と文法のルールをしかりと学び、日常生活で使うフランス語(熟語、ことわざ等)も勉強した。二次試験に出題される、写真や動画を見て描写する練習、また、面接の準備、練習も行った。

アンケート結果分析・来期の課題: アンケートでは、人数が少ないので積極的に発言できて良かったという意見がある一方、もう少し人数がいると良かったという意見がある。90分の授業だと、もう少し人数がいるとよいと思う。3名の学生は、フランス語のレベルがあまり高くなかったが、レベルがおおよそ同じだったので、授業は進めやすかった。皆がしっかり発言し、頑張ったので上達していたし、楽しい授業になったと思う。準2級をすでに合格した学生から、iCoToBaの授業で仏検2級の対策授業を取り上げてほしいという意見もあった。

めざせ仏検準1級 (ダレン モルガン、木曜 12:50～14:20)

授業目的: 授業の目的: 仏検準1級に合格するための授業。試験に出る問題を繰り返し解き、書く練習をし、二次試験での面接の準備をした。

授業内容: 上記の「めざせ仏検準2級」の授業と同じように、試験に必要な語彙と文法の練習を重ねて行った。学生が既にフランス語の学び方を知っていたので、優先的に会話を通して言語の構造を習得できるようにした。フランスのメディアを使用し、その話題について会話したり議論した。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生のレベルが高く、モチベーションも高かったため、教える側としては、非常に楽しく授業を進める事ができた。さまざまな話題について、賛成派・反対派に分かれて議論したり、いろいろなシチュエーションを想定し、ロールプレイをした。仏検のためのフランス語だけでなく、日常会話で使う単語と文法も学んだ。アンケートでは、一つの話から、いろんな話題に派生して単語や熟語を学べてよかったという意見があった。関連づけて語彙を増やしていくことは大切だと考えているので、単語の語源についてもできるだけ説明しながら、続けていこうと思う。また、iCoToBaへの要望として、学科の授業と重なっているため、受講したくても受講できないという意見があったので、時間

割を調整して欲しいと思う。

ちょっとチャット フランス語Ⅰ (ダレン モルガン、金曜日 14:30～16:00)

授業目的: 授業の目的:参加者全員がフランス語初心者だったので、前期で学んだ言葉を使いながら話す楽しさを知り、フランス語を上達させる。

授業内容: フランスについて興味を持つようにフランスのメディアを使用し、発音の練習、ゲーム等をした。学生同士が相手を知るために、グループでロールプレイをした。会話を通して、フランス人の習慣、フランス語母語話者の言い方、答え方を学んだ。また、フランスのインターネットサイトでの職業適性テストをして、たくさんの単語を学んだ。

アンケート結果分析・来期の課題: 恥ずかしがらずに発言できる学生たちだったので、非常によい雰囲気では会話のキャッチボールができた。フランスのインターネットサイトにある職業適性テストでは、数十ある質問に答えていくと、どんな職業が自分に合っているか結果が出るもので、学生達は興味を持ってやっていた。アンケートでは、授業の時間がとりづらい時限のため、取りたくても取れない学生がいる。他の時限に移せば受講者が増えると思うとの記載があった。教員としても、もっと参加者数が増えればよいと思っているので、時間割の調整が必要だと感じた。

ちょっとチャット フランス語Ⅱ (ダレン モルガン、金曜 12:50～14:20)

授業目的: 授業の目的:日常的な出来事について、受講者全員で議論する事により、フランス語の知識と話す楽しさを身に付ける。インターネットを活用し、フランスのメディアに対して、身近に感じてもらう。

授業内容: フランスの主なニュース記事や、1分程度のニュース動画を見てもらい、その話題について皆で議論した。また、授業に参加した学生が積極的に発言できるように促し、分からない単語や、関係する事柄、背景など、それにまつわる事について自由に発言した。

アンケート結果分析・来期の課題: 6人が登録していたが、学生それぞれのレベルが違ったので、みんなに合う話題を探すのは難しかった。ただ、モチベーションが高い学生達だったので、発言する機会を多く設け、グループワークでは記事を書いた。はっきりとフランス語が上達していると感じた。また、楽しみながら、フランス語を使って意見を言えるようになったと思う。単にフランス語を話すのではなく、自分の考えを表現したり、他の人の意見を聞いてから、自分の意見を主張したり、議論することができた。

アトリエ・ドゥ・フランセ初級 (ダレン モルガン、火曜日 16:10～17:40)

授業目的: 授業の目的:「語学の授業」というより、「フランス語サークル」のような雰囲気では、「フランス語を楽しむ」ということを意識して行った。授業の内容については、学生主体で決めていき、学生が望む活動を外国人教員と一緒に行うことで、語学を学ぶことは楽しいと再認識してもらえるように努めた。

授業内容: 授業内容:授業の内容はフランス語学科の宿題、会話、ゲーム、フランス語で映画鑑賞であった。学生がフランス語を楽しみ、難しい言語ではないことを感じてもらえるように努めた。学生がこの時間をどう過ごしたいかを決めた。

アンケート結果分析・来期の課題: 料理イベントの開催を予定していたので、学生たちに話し合いをするよう依頼したが、話し合いをしても、結局何も決まらず、開催できず残念だった。毎回、学生達がやりたいことを行ってきたが、授業のたびに何をやりたいか決めるまで時間がかかり、無駄な時間があった。来期は、授業を2本立てで進めたいと考えている。一方は、フランス語での映画鑑賞とし、もう一方では、教員があらかじめ決めた内容(料理、ゲーム、宿題、会話など)を行い、無駄な時間を省きたい。学生は、当日、好きなほうを選べるようにする。アンケートでは、3名中2名が、「グローバル人材プログラム」のメリットが分からない、どんな風に有利なのか分からないという意見があったので、年度の初めごとに、「グローバル人材プログラム」について日本人教員から学生に説明してほしいと思う。

アトリエ・ドゥ・フランス中・上級 (ダレン モルガン、木曜日 16:10~17:40)

授業目的: 授業の目的:「語学の授業」というより、「フランス語サークル」のような雰囲気で、「フランス語を楽しむ」ということを意識して行った。授業の内容については、学生主体で決めていき、学生が望む活動を外国人教員と一緒に行うことで、語学を学ぶことは楽しいと再認識してもらえるように努めた。

授業内容: 授業内容:授業の内容は、学生が希望した「会話の練習」を行った。毎回、教員が学生がテーマを決め、フランス語の会話をした。

アンケート結果分析・来期の課題: 授業を iCoToBa で行ったので、フォーマルな雰囲気ではなく、気楽な明るい雰囲気で行うことができた。たいてい2名の学生が出席していたので、教員1名と学生2名の3人で会話練習をした。2名ともレベルが高かったので、集中的に会話練習をしたことで、かなり上達につながる授業になったと思う。学生2名で集中的に会話の練習を90分やることは、学生にとっても大変だと思うので、来期は、もう少し学生が増えればよいと思う。

【スペイン語】

スペイン語圏世界とグローバリティ / El Mundo Hispánico y la Globalidad (Sergio Neri, Monday 2nd period)

Objective: To understand the formation of the Hispanic world in 3 phases of Globalization: Phase 1, the fusion of different languages and cultures of the Iberian peninsula with foreign cultures such as Arabic. Phase 2, expansion of the Spanish culture and language to America, Africa, Asia and its fusion with local cultures. Phase 3, the formation of a pan-Hispanic culture, scenarios and challenges of the present and the future. We'll learn accessible academic vocabulary used in universities of Hispanic countries.

Course contents: The course content was based on a brief but solid description of phenomena and processes that have given rise to cultural, political, economic and social systems that are shaping the Hispanic world. These factors were analyzed from the theoretical perspective of Globality of Peter Sloterdijk and other authors' theories.

General Overview and agenda: The number of students attending this course was 5, much lower than the previous semester. All the 5 students were in their 4th year and had come back from the one year program for studying abroad. The course was pompously addressed to this kind of students. But maybe the 2nd period on Monday was not the best to suit 4th year students. This should be taken into consideration for this course next year, second semester. Nevertheless the 5 students were highly engaged with the activities of the course and almost never missed a class, they participated actively in the discussions and seemed to have easily grasped the contents and its aims.

比較文化研究 2 / Estudios Culturales Comparativos Grupo 1

(Sergio Neri, Monday 3rd period)

Objective: To try to understand what culture is, how a person relates to its own culture, how cultures relate with other cultures and how they interact

Course contents: We analyzed the influence of the culture on its products such as films, music, food, etc. We used theories of culture, and Post-colonial studies to try to explain cultural phenomena such as Interculturalism, Transculturation, Acculturation, Pluriculturalism, Cultural Semiotics, etc. We have compared the cultures of the Hispanic countries and Japan in aspects such as thinking, beliefs, attitudes and activities of daily life. We learned easy academic vocabulary used in Spanish-speaking universities.

General Overview and agenda: Students had very active discussions and showed a high sense of respect and understanding for the culture of the other. That will certainly produce good results when students confront multicultural issues in their future careers.

比較文化研究 2 (スペイン語圏の学生と合同授業) / Estudios Culturales Comparativos con estudiantes hispanos grupo2

(Sergio Neri, Tuesday 5th period)

Objective: To try to understand what culture is, how a person relates to its own culture, how cultures relate with other cultures and how they interact

Course contents: We analyzed the influence of the culture on its products such as films, music, food, etc. We used theories of culture, and Post-colonial studies to try to explain cultural phenomena such as Interculturalism, Transculturation, Acculturation, Pluriculturalism, Cultural Semiotics, etc. We have compared the cultures of the Hispanic countries and Japan in aspects such as thinking, beliefs, attitudes and activities of daily life. We learned easy academic vocabulary used in Spanish-speaking universities.

General Overview and agenda: This group had the same contents than the group 1. We encouraged the Spanish speaking students to register this course and 5 Mexican students did so. This allowed a direct exchange of ideas between Japanese and Mexican students, the discussions were more in depth and the examples provided by the Mexican students were enriching. With that purpose in mind, the Japanese students selected for this course were the ones who had already come back from study-abroad programs students with higher level while the group 1 was thought for 2nd year students with a lower level but very high interest on the class. This allowed to give the necessary attention to all interested students.

リサーチ発信プロジェクト: グローバル科目 / Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación (Sergio Neri, Thursday 5th period)

Objective: To better understand some research methods, to manage a research project and to acquire certain vocabulary in academic Spanish related to the subject. That will help students to join regular courses in Spanish speaking universities and to conduct research in those countries for their assignments or for their graduation papers.

Course contents: Strategies for choosing a subject of research and how to delimitate it. Types of research approach. Research methods. Research design. Research management. How to design and conduct interviews and surveys, discourse and vocabulary. Data analysis. Discussion. Each topic includes academic vocabulary and discourse analysis.

General Overview and agenda: Unfortunately, this class had only one student registered, she was a 4th year student who came back from studying in Mexico for one year. She was highly interested but she was disappointed when she knew she was the only one registered. She expected to have opportunity of engage in discussions with other students, and as a matter of fact discussions are a very important component of this course. Therefore she decided not to take the class in this semester but in the spring one. In the spring semester there were many more students registered and some of them told her that the discussions were very interesting. The students registered in spring semester were going to study abroad in the following semester, so this class was interesting for them because it can help them make their research abroad. For next year, we have to take this into consideration in order to avoid this problem.

日本文化をプレゼン / Habilidades de Presentación sobre la Cultura Japonesa (Sergio Neri, Wednesday 4th period)

Objective: The aim of the course is to help students develop a project in which they make a presentation of a certain topic related to the Japanese culture in order to promote a better understanding of Japanese culture when students go abroad in exchange programs with universities of Spanish-speaking countries.

Course contents: We learned how to select topics of Japanese culture in order to make a presentation of them. We will see how to find information on the selected topic and how to organize ideas in a text to be used as a guide for the presentation. We moved into planning and conducting presentations, dividing them into sections in a logical sequence, using interesting graphics, how to handle the interaction with the public, create interest and participation, handle questions and answers, etc. The course included easy-to-learn academic vocabulary used in universities from Spanish-speaking countries.

General Overview and agenda: Students were very active, they did not hesitate practicing in every class the different skills we learnt. Students advanced very smoothly in the steps of designing their presentation. Nevertheless, students presented difficulties at the time of rehearsal for their presentations. Most of them were trying to memorize line by line of the guides they wrote for their presentations. Therefore it was necessary to avoid this practice by working on strategies to organize the information in their memory and describe the contents of their guides using different words each time but respecting the original ideas. As a result, students overcame the need to memorize everything by heart which could lead to problems during the real presentation if they encounter an unexpected event.

時事スペイン語 / Comprensión Lectora de Noticias de Actualidad

(Sergio Neri, Wednesday 3rd period)

Objective: The aim of this course was to help students discern different types of text used in news. Students learn reading strategies and practice them thoroughly. They get awareness of discourse and use it to better understand the author's intention and the opinion of people, institutions, etc. who play a role in today's context of Spanish and Latin American societies.

Course contents: We analyzed the discourse and its different types in the text, what is Pragmatics and its use in different kinds of text. We studied strategies to read and understand texts. We learned academic vocabulary used in universities in Spanish speaking countries. We reviewed different styles and the use of metaphor, irony, idioms, etc. in news about the current situation of Spain and Latin America.

General Overview and agenda: When students were presented actual pieces of news from authentic media, they thought they could not read such big texts, containing many idioms and academic words, but they got a pleasant surprise when they actually did it after analyzing the text by smaller sections and applying the different strategies we saw in class.

スペイン語会話 / Conversación (Sergio Neri, Tuesday 4th period)

Objective: This course is intended to allow students to have more opportunities to develop their oral skills acquired in other classes. This is to be done by giving them more time for speaking per student on an individual basis. This also allows the professor to work

individually with every student on the pronunciation, vocabulary, grammar, etc. Students should also have plenty of opportunities to interact with other students in oral communication.

Course contents: The contents were intended to reinforce the ones from the courses in the Spanish Department for second year students. Therefore it was essential to have a good coordination with the professors of the Spanish department in order to have coherency in the contents.

General Overview and agenda: A lot of students registered this course very quickly. They showed great interest and motivation to engage in the different activities. This kind of course should be considered for coming semesters.

DELE A2 対策 / Preparación para el examen DELE A2

(Sergio Neri, Tuesday 2nd period)

Objective: The aim of this course is to help students acquire the necessary strategies for succeed in the DELE A2 test to be conducted in May and in November.

Course contents: We learned strategies to comprehend medium sized texts such as articles, news, interviews, etc. Also we learned how to write short texts such as letters, comments, etc. We developed strategies to understand short dialogues and other examples orally. We worked on strategies for expressing and interacting orally. We used many practice tests for DELE A2. To be certified in DELE a big amount of vocabulary is required, therefore we studied vocabulary dividing it into semantic clusters and study as much at home as in class.

General Overview and agenda: This course was a little different than the one in the previous semester because there were much fewer students registered and that allowed us to have more time for every individual in the class. Specially while working the on the oral part of the test. Nevertheless, there was present the same problem of the course in the previous semester, the dates of the application of the test do not coincide with the completion of the course, this originated great pressure for the students and professor in order to work enough to cover all the aspects of the test in shorter time. I've found that a lot of students from the previous semester made the actual test in November instead of May, this allowed them to complete the course of preparation before the actual test but it also could lead to forgetting part of the course and diminish their preparedness. The students registered in the second semester did the actual test also in November and obtained the certification despite the rush to cover the contents in a shorter time.

初級スペイン語 1 / Español Básico 1 (Sergio Neri, Friday 2nd period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their their1rst year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be

included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: This course is intended for 1st year students of the Spanish Department and for students of other departments with a higher level. This time they could be accepted in the same class because the 1st year students of the Spanish department had had already a course in the previous semester.

This was not possible during the previous term because they started learning Spanish from Zero and the students from other departments had had already a course of Spanish.

初級スペイン語 2 / Español Básico 2 (Sergio Neri, Friday 2nd period)

Objective: The aim of this course was to help students get the skills of a language that had never studied before. During their first year, students need more support in getting the founding of a foreign language. Cultural aspects of the target language should also be included in the course in order to help them communicate more effectively in Spanish.

Course contents: The contents of this course were selected in order to correspond with the contents of the courses of Spanish from the regular curricula. This way students were able to see the same contents from more than one approach, which can help students who had difficulties with a determined topic. Additionally they had more opportunity to practice the knowledge already acquired in their regular courses.

General Overview and agenda: This course had the same contents than the course for group 1 and was addressed to the same kind of students. The great number of 1st-year students has lead to splitting them into two. This has been done the previous semester with the same students, the difference is that this time each group has a full 90 minutes class while the previous semester they had a 45 minutes class each.

Another difference is that the courses were offered at different period of different days in order to give more opportunities to join it because students have different schedules.

【ドイツ語】

ドイツ日常語と実践会話 I – Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I (Morten Hunke, Tuesday 1st period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication – even for students at beginner level? How to apply the language learned from regular classes

more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. This class was largely based upon: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*

Course contents: Every lesson started off with casual conversations, games, or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. An emphasis was placed upon mastering certain fields of simple communication well: colours, appearance, character, and food items etc. Students regularly engaged in speaking tasks in pairs, small groups. Regular writing tasks were also set.

General Overview and agenda: The agenda was to build as much as possible on last year's (positive) experiences. This wholly succeeded. Although, the number of students attending in semester 2 has been disappointing for the second year in a row. This is largely due to the elective nature of all iCoToBa classes. Unless students are super motivated, elective courses bearing no credit will come last in their considerations, after regular courses, circle activities, and part time jobs.

Teacher talking time was regularly below 25% (as measured by an external observer). Students regularly engaged each other speaking for almost 50% of the time. Again regular haiku/tanka (homework) tasks were set – on average 2 short writing tasks per week. According to the survey, student's motivation was increased for virtually all (4.7) participants. In the survey, some students asked for yet more conversation practice. This is a very encouraging figure. Students participated in a haiku writing competition and one student – an English major – one a small prize. This special haiku writing task was much appreciated, as were frequent German Christmas carol practices running up the Christmas party.

ドイツ日常語と実践会話Ⅱ – Deutsche Alltagssprache und SprachpraktischesⅡ (Morten Hunke, Wednesday 1st period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication – even for students at beginner level? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. This class was largely based upon: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*

Course contents: Every lesson started off with casual conversations, games, or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. An emphasis was placed upon mastering certain fields of simple communication well: colours, appearance, character, and food items etc. Students regularly engaged in speaking tasks in pairs, small groups. Regular writing tasks were also set.

General Overview and agenda: The agenda was to build as much as possible on last year's (positive) experiences. This wholly succeeded. Although, the number of students attending in semester 2 has been disappointing for the second year in a row. This is largely due to the elective nature of all iCoToBa classes. Unless students are super motivated, elective courses bearing no credit will come last in their considerations, after regular courses, circle

activities, and part time jobs.

Teacher talking time was regularly below 25% (as measured by an external observer). Students regularly engaged each other speaking for almost 50% of the time. Again regular haiku/tanka (homework) tasks were set – on average 2 short writing tasks per week. According to the survey, student's motivation was increased for all 5.0) participants. This is a very encouraging figure. Regarding the instruction language, 3 students voiced the wish for more Japanese explanations while 1 would like to hear more German. This is never easy to reconcile, but a distinct effort will be made to cater to students' needs and expectations next year. Students participated in a haiku writing competition and one student – an English major – one a small prize. This special haiku writing task was much appreciated, as were frequent German Christmas carol practices running up the Christmas party.

ドイツ日常語と実践会話Ⅲ – Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches III (Morten Hunke, Tuesday 3rd period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? There will be a strong focus on spoken language in German.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises. Throughout, the course of the class students gave prepared and impromptu presentations, performed reading out aloud scenarios – after having identified pauses and major phrasal stress - wrote their own dialogues, engaged in role play and drama exercises. An emphasis was placed on aspects of popular culture (football, food and music).

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the regular classes of the second and/or third academic years as accurately as possible. It was seen as positive in the survey that the teacher provided extra materials and gave the chance to ask questions outside the box (an agreement of 5). Students also felt largely more motivated to engage further with the target language (4.9). Students asked for more opportunities to have planned and spontaneous conversations. A wish we very happily will heed in next year's classes.

In this semester's course a trial of the *Learning Through Teaching* method was piloted: with mixed results. While the students performed very well indeed, the skills involved in preparing material in the TL in order to instruct others – not to present and talk an audience, but to engage them – were no easy thing to master for the students. Preparations took them much longer than expected. After careful consideration, it has been decided to abandon this format for classes at this level and attempt the implementation at B1+ level next year.

ドイツ日常語と実践会話Ⅳ – Deutsche Alltagssprache und

Sprachpraktisches IV (Morten Hunke, Tuesday 4th period)

Objective: How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? There will be a strong focus on spoken language in German.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises. Throughout, the course of the class students gave prepared and impromptu presentations, performed reading out aloud scenarios – after having identified pauses and major phrasal stress - wrote their own dialogues, engaged in role play and drama exercises. An emphasis was placed on aspects of popular culture (football, food and music).

General Overview and agenda: The agenda was to compliment the regular classes of the second and/or third academic years as accurately as possible. It was seen as positive in the survey that the teacher provided extra materials and gave the chance to ask questions outside the box (an agreement of 5). Students also agreed fully (5) that they felt more motivated after attending the class and that they could strongly feel the teacher's passion towards the subject and the class.

ミュンスター・アフターケア – Müsternachbereitung

(Morten Hunke, Thursday 3rd period)

Objective: How to translate your experiences at summer courses or volunteer activities in German speaking countries to a higher level of engagement with and motivation for studying the German language. How do I build upon the extra confidence I gained through my stay abroad? How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? Or even how to express my thoughts? There will be a strong focus on spoken language in German.

Course contents: Every lesson started off with specially designed speaking exercises and games. Throughout the course of the class students gave short prepared and impromptu presentations, or were reading out aloud existing or self-produced scenarios. Topics were selected according to usefulness for everyday scenarios rather than level of language difficulty. The students' experiences abroad were a crucial factor in the classes that were drawn upon regularly. The language level of the students was generally somewhat higher than that of students who had not had the opportunity for a stay abroad.

General Overview and agenda: The agenda was to cater for returnee students' needs (first and second year) as accurately as possible. Thus, for this class no textbook materials were used. No writing or homework tasks were set either. This class was first and foremost about

wanting to do more with the target language. Unfortunately, second year students stopped coming to the class after a few weeks. They seemed not too pleased with being mixed with first year students. This will need to be addressed, should there be a continuation of the class format in semester 2 next year.

Students were overwhelmingly satisfied with the class. 5 out of 5 recorded their level of motivation had increased. Audio visual materials and popular culture – especially music – were a focus in semester 2 – as requested in last semester’s survey. Also, 5 out of 5 felt their language level had improved through attending the class.

発音、パフォーマンス – Aussprache und Performance

(Morten Hunke, Thursday 5th period)

Objective: This class specifically addresses pronunciation from a performance vantage point.

Students are introduced to a method to improve their own speaking and performing abilities using an intensive approach making productive use of drama pedagogy and (canonical) poetry. To give a poetry performance at a semester final event in front of a public audience.

Course contents: Every lesson started off with activities taking from drama pedagogy. These were aiming to improve the students’ ability to control voice projection, facial expressions, gestures, and body posture in relation to an audience. The safe non-intimidating environment within the group and the classroom were of vital importance here. Students, furthermore, picked a poem with which they thenceforth engaged with for a large part of the semester.

General Overview and agenda: Having started with 4 students and having 3 students actually perform in the semester final Gedicht+Performance II event has been a success in itself. An encouraging majority (4.3) commented they had improved their language skills using the newly introduced method. Students felt generally more motivated after attending the class (4.8). However, they expressed the wish for a quicker pace and/or practice from the realm of drama performance. Work and planning for a more versatile repeat of the course next year has also been started. Drama performance and/or humorous pieces will feature in the latter half of the course.

検定試験対策 – Testvorbereitung (Morten Hunke, Thursday 4th period)

Objective: Preparation for German language tests on levels A1 through to B2. A particular focus will be on understanding and preparing for the differences in format. The course requires students to practise and study individually. This class aims at preparation for the Goethe Institut/Österreichisches Sprachdiplom exams rather than the Japanese format 独検.

Course contents: Every lesson focuses entirely on the student’s own needs and requirements for study. Students produce their own count down timetable for test prep – with help,

assistance, and feedback from the teacher. They then engage in the weekly prep activities they set themselves. In class they mostly report on their progress and on difficulties encountered. Principles for tactics in approaching test tasks were discussed and practised on mock test materials.

General Overview and agenda: The language ability levels of students differed considerably.

Despite the low (A1) entrance level criteria, students in first year cannot attend this class in semester 1. Their language abilities are simply too basic. Also, since the university sponsors participation in 独検 only – a test format that is not recognized in Europe at all – more thought has been given to how to design a test preparation class that best meets students' needs and expectations. The number of students attending regularly unfortunately dropped very quickly to 2 students. Students were very happy with the preparation they received. They felt all more motivated (5) after attending the class and felt well looked after (5).

日本紹介 – Japanbotschafter (Morten Hunke, Monday 5th period)

Objective: This class will feature a number of highly practical activities to make you more prepared for your student life in Germany. There will be input from current German students and Japanese Kendai returnee students. Students will (re-)discover Japan and Japanese culture from the vantage point of a foreigner. This outlook will be added onto with their own view and understanding of things. The class will be aiming at providing practical skills wherever possible.

Course contents: The most important lesson to take away from this class is the difference in perception about things Japanese from individual to individual and from outside and inside Japan. Stereotyping ought to be avoided wherever possible. Students actively learned how to introduce their own country and aspects of its culture in the target language German. Multimedia resources were used as well as a number of presentation and discussion formats in order to liven up the cross cultural content of the class. Aspects of popular culture and student life in both countries were emphasised in terms of topics. Some of the posters produced contributed actively to showcasing the German partner universities at Open Campus and Germany study events.

General Overview and agenda: This time around only students from year 2 attended the class.

This made planning for the class easier. However, since a number of 3 participants is below the critical mass of around 6-8 students, fostering conversations and keeping the class versatile and not too teacher centred was not always easy. Student engaged in a number of live and video recorded presentation activities and they conducted a survey among Japanese and German exchange students about the perception of typical every day Japanese phrases. Students were entirely satisfied with the class and felt all more motivated (5). They were also happy the teacher provided outside information and additional insights into how Germans (Europeans) see certain aspects of Japanese society and culture.

ドイツの文化：留学アフターケア – Deutsche Kultur: nach dem

Auslandsstudium (Morten Hunke, Wednesday 3rd period)

Objective: This class is taking a closer look at German culture and the sphere of cross cultural issues between speakers of German and Japanese. It is aimed at mainly returnee students. Practical speaking and presentation as well as research skills are the focal aspects of attention.

Course contents: Audio visual materials as well as textual resources and students' own experience were the starting point of every the class. A particular focus was placed on popular culture and every day expressions in the German language. The atmosphere is meant to be casual and inclusive.

General Overview and agenda: For the first time in four semesters we succeeded in attracting a fair number of returnee students to a class at a fairly high language level B1+. The students were very enthusiastic and had a lot of good ideas for topics to be covered and materials to be used. Attendance was at times a little bit of an issue, but there were never fewer than 5 students present. The course made an extra special effort in planning and organising the German Christmas party in cooperation with the teacher. Students felt more motivated after attending the class (4.8). But they generally wished for yet more opportunities to speak. For the next course careful consideration will be given to devising a blend of activities in every session. It is never easy to reconcile content heavy classes and hands on classes.

リサーチ発信プロジェクト – Forschungs- und Präsentationsprojekt

(Morten Hunke, Monday 3rd period)

Objective: Doing research in the target language German is an important aspect of preparation for studying abroad in a German speaking country. Academic practices vary considerably to those in Japan. This is something students will be led to practically embrace throughout the course of the class. In three stages: group presentation, pair presentation, the level of responsibility for the individual student gradually rises.

Course contents: For the group presentations, the students again chose to engage with presenting the 3 German cities with whose universities the Aichi Prefectural University has standing exchange partnerships: Köln (Cologne), Leipzig, and Tübingen. In the pair presentations students reported on their language learning and study abroad aspirations. Each time the students presenting the case of their partner. For the individual presentations a number of German (popular) cultural topics were chosen. The presentations took place on one day. They were video recorded.

General Overview and agenda: In the class tuition was again provided only by Morten Hunke. Morio Ohyama was a no show once more – allegedly not deeming this a necessity. The atmosphere in class was very good. The student performed very well in the final presentation event. The student was extremely motivated and felt even more motivated

after attending the class (5). She also succeeded in securing herself a place on Kendai's new partnership agreement with the Universität Tübingen from spring 2015 onwards.

【中国語】

リサーチ・発信プロジェクト（顧令儀、月曜日 16:10～17:40）

授業目的: グループプロジェクト(ブレインストーミングを行い、スケジュールを作り、仲間と一緒に問題を解決すること)に必要な能力や方略を学ぶ。

授業内容: 学生たちにまずブレインストーミングにより関心のあるテーマを決めてもらい、そのテーマに対していかなる調査をすればいいということを討論させた。実際に調査を行ってから、学期末に調査結果の発表をした。2つのチームに分かれ、ひとつは「現代中国人の職業観」、もうひとつは「中国人の婚姻観」をテーマにした。どちらも真剣に取り組み、興味深い発表を行った。

アンケート結果分析・来期の課題: 「主体性が必要」「自分の興味があることを調べられる」などの点で学生からよい評価を受けている。また、中国に関する情報を調べる能力や問題の提起能力などの面で、学生は力が付いたと思われる。ただ、2年生の語学力は選ばれたテーマを調べるにはやや物足りないので、次年度は学生の興味以外に、語学力も考慮に入れて慎重にテーマを選ぶ必要がある。

日中文化比較（顧令儀、月曜日 12:50～14:20）

授業目的: 学生たちの興味がある分野を選んで、スライドを使いながら中国の文化を紹介した。日中文化を比較しながら異文化理解を身に付けると同時に、学生の語学力を高めることを目的とする。

授業内容: 中国人と付き合う時の人間関係や、服装の歴史および神話・伝説など中国文化の写真や説明図をスライドで見せながら、中国語で説明を行った。留学帰りの学生に話の内容を日本語に訳させ、2年生に中国文化と日本文化との違いを比較し、発表させることによって、語学力を鍛えながら異文化理解を深めた。

アンケート結果分析・来期の課題: 「中国人の考え方、文化について深い理解ができた」「中国語を聞く習慣ができた」と授業アンケート結果からは、授業の目的がほぼ達成されたと考えられる。また、スライドや先輩の助けて、分かりやすいという評価もあった。前期の授業では、学生のレベルの違いが教室運営上課題となっていたが、今期は、役割分担をすることでレベル差をメリットに変えた。また、前期と比べ、学生の発言機会を増やしたので、学生からは「みんなの前で発表すること」がこの授業の良い点だと評価を受けた。

実践中国語上級編(作文)（顧令儀、月曜日 12:50～14:20）

授業目的: メールや手紙、伝言をはじめとした文章を書くことによって、文法を強化し、豊かで

適切な表現を身に付けることを目的とする。

授業内容: 各種類の文章の模範例を学生に見せ、その特徴を説明する。その後学生に文章を書かせてから、添削を行いながら、その理由を説明した。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数の授業だったので、細かな指導ができた。また学生からも「作文能力が上がった」との評価を受けた。しかし、いかにして学生の語彙を増やし、より豊かな表現を引き出すかは課題として残されている。また、今回の学生は語学力が高かったため、説明を受けて文章を書けたが、2年生のレベルも考えて、次年度以降は読解と作文を合わせた教室活動のほうがより効果的かもしれないので検討する。

慣用句でリアルフレーズ (顧令儀、火曜日 12:50～14:20)

授業目的: 中国語の日常生活でよく使われている慣用句の意味や使い方を説明し、例をあげることによって、学生が活用できるようになることを目的とする。

授業内容: 日常生活でよく使われている慣用句の意味や使い方を説明し、その慣用句にまつわる物語や歴史背景を中国語で紹介することによって、学生が記憶にのこるようにした。また、復習の時間を設け、状況や場面を提示し慣用句を使う練習を繰り返した。

アンケート結果分析・来期の課題: 聴講のみを希望した学生が2名いて、実際にはたいい4人ほどの学生が授業に参加していた。慣用句は留学帰りの学生にとってもよい挑戦となる内容であり、また多くの物語や風習などの文化的な要素が含まれていたため、学生は積極的に取り組み、楽しい授業となった。課題としてこの授業の時間設定が挙げられる。学生から「前期でもこの授業が取れるようにしてほしい」「今後もこの授業を続けて欲しい」という声があり、もっと学生の空いている時間を探して設定すれば、より多くの学生の受講が期待できる。

発音と朗読 (顧令儀、火曜日 16:10～17:40)

授業目的: 中国語のきれいな響きを感じながら、文献を声に出して読んでみる。朗読を通じて、よりきれいな発音と中国語の語感をつかむことを目的とする。

授業内容: まず朗読に必要な中国語の語調、ポーズ、アクセントを理論的に紹介し、学生の発音を指導しながら、多くの中国語の文学作品を感情を込めて読む練習をした。

アンケート結果分析・来期の課題: 少人数のクラスだったので、個人の能力に合わせて進められるというメリットがあり、学生たちは真剣に練習に取り組んだ。受講者全員から「発音が以前に比べてはるかに良くなった」という評価を受け、授業の目的を達成したと思われる。また、この授業を受けた学生が京都外国語大学の日本全国中国語スピーチコンテストで賞を獲得した。課題としては受講生の少なさが挙げられる。開講時間の問題か、それとも学生に十分周知されていないか検討し、次年度以降より多くの学生が受講できるようにしたい。もうひとつの課題として、学生が朗読練習に取り組んでいたのは授業中だけだったので、効率があまりよくないことである。これからの授業では学生が家でも練習できるよう工夫する必要がある。

聴解と会話（顧令儀、水曜日 12:50～14:20）

授業目的：中国のテレビ番組を学生と一緒に見て、その内容を学生に確認し、学生に各自の感想を発表したり全員で討論したりすることによって聴解力と会話力を高めることを目的とする。

授業内容：学生の要望に応じて、中国での人気番組「非诚勿扰」を見ることにした。実際の生活の中の中国語を学生に聞かせ、その内容について討論を行った。

アンケート結果分析・来期の課題：この授業は「日常生活で使う表現を学べた」「実際に中国人が使っている口語を聞いた」とよい評価を受けている。問題点のひとつは時間設定で、学生から「授業日を変えて欲しい」との声があった。また、水曜日の午後はガイダンスが多いため、授業時間を設定するにはもっと慎重すべきだと思う。また、学校のインターネットのスピードが遅いため、実際番組を見るときに時々止まってしまい、授業が進められなくなったこともあった。解決策として、今後は中国映画の DVD を取り入れて、聴解と会話の練習を行うことを考えている。

中国語で日本を紹介する（顧令儀、木曜日 12:50～14:20）

授業目的：日本の生活や文化を中国語で紹介することによって、中国語能力のアップを目指す。

授業内容：受講者は12人で、学生の希望に応じて5個のテーマを取り上げ、チームに分かれてそれぞれのテーマについて調べた。中国語で報告書を作り、学期中と学期末に中国語で2回発表を行った。学生のレベルがばらばらだったので、チームを作る時に2年生と留学帰りの学生を一緒にすることによって、互いの学習意欲を高めた。

アンケート結果分析・来期の課題：学生たちは自分で選んだテーマを調べて発表するので、積極的に授業に取り組んでいた。「先輩とのグループ活動」「日本文化への理解が深まった」「文法、作文力や語彙力が高まった」などの点でよい評価を受けている。問題点としては、発表を2回しか設定しなかったため、特に2年生学生の表現力の練習が足りないと考えられる。今後の授業では、報告書を作る時間を減らし、発表の練習時間を増やす必要があると考えている。

発音と初級会話（顧令儀、木曜日 14:30～16:00）

授業目的：問題になりやすい発音を練習しながら、日常生活で使える簡単なフレーズを学習し自然に使えること、そして中国語に対する興味を引き出すことを授業の目的とする。

授業内容：初級レベルの学生対象の授業であるため、発音を練習し、初級の中国語常用文を学習した。また、実践的な語彙を復習しつつ、語彙の増強も行った。練習を楽しませるために、スライドやカード、実物を使って授業を行った。

アンケート結果分析・来期の課題：学生は気楽な雰囲気の中で勉強ができたと思う。学生からも「アットホーム感」とあると評価を受けた。実用性のある簡単なフレーズを身につけたことによって、学生も達成感を感じ、講義の目的を達成したと思われる。また、中国学科の

学生だけでなく、第二外国語として中国語を習っている中国学科以外の学生も参加できて、最後まで勉強できたことから、これからも初級レベルの中国語講義を開き、より多くの他学科の学生を迎えることを考えている。

複文トレーニング（顧令儀、金曜日 10:30～12:00）

授業目的: 複文に関わる接続詞を勉強し、より複雑な中国語を使える能力を身に付ける。また、苦手な表現を克服し、豊かな表現で中国語を使えることを目指す。

授業内容: 日常生活で使われる中国語の接続詞の意味と使い方、そして注意点を紹介し、似たような接続詞と比較しながら、豊かな表現と微妙なニュアンスを取り込みながら、様々な練習を繰り返した。

アンケート結果分析・来期の課題: 最初は 8 人が申し込んでいたが、1 回も出席しなかった学生や、卒論で忙しくなる 4 年生もいたため、最終的に受講者は 4 人になった。この 4 人の中国語のレベルが高かったため、複文だけでなく、やや難しい表現も取り入れて講義したので、参加した学生にとっては非常に勉強できたと思われる。また、少人数の授業なので、丁寧に質問に答えることができたと思う。ただ中国語を上達させるには、複文は避けて通れないところで、今後はより多くの学生が受けられるように時間を考えて授業を設定する必要がある。

中検 3 級対策（顧令儀、金曜日 12:50～14:20）

授業目的: 1 年生および第 2 外国語として中国語を勉強している学生向けに、中国語検定試験 3 級対策を行い、中検 3 級の合格を目指す

授業内容: 学生に対して、事前に e-Learning の「中国語検定過去問 Web」で過去問をやってくるように指示したので、授業までに学生の問題点を把握して、授業中は学生にとっての難点を集中的に説明し、練習をした。

アンケート結果分析・来期の課題: この授業で学生の過去問成績は 30 点くらい上がり、学生からも文法力や語彙力が高まったとの評価があった。問題点は授業の時間設定である。3 級を目指している 1 年生が多数いることを想定して、金曜日 3 限に授業を設定したが、この時間は教養科目の開講時間帯であり、多くの 1 年生にとって受講ができない状況に陥った。次回はもっと時間のことを考慮して決めたい。

3.3. 2014 年度サマープログラム

【英語】

J-Ambassador (Fern Sakamoto, September 16th – 19th 1st & 2nd periods, 22 & 24th 1st & 2nd periods, 25th 1st, 2nd & 3rd periods)

Objective: To reflect upon Japanese culture; identifying stereotypes, reality and possible foreign

perspectives.

To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.

To be able to communicate information about Japan clearly and naturally, without compromising content or resorting to unnecessary dictionary use.

Course contents: Each (two-class) session addressed a different element of the Japanese culture and lifestyle. In the first class students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. In the second class students composed written paragraphs relating the general topic to the Nagoya context, giving advice or information to Nagoya visitors. These paragraphs were edited together with the teacher, then compiled to create a small Nagoya guidebook. The guidebook was later printed and distributed by conference organisers to participants in the UNESCO ESD World Conference held in Nagoya in November.

General Overview and agenda: The small class size facilitated a close group capable of frank open discussions. The tight timeframe made composition of an entire booklet challenging, but also gave focus to each lesson and students applied themselves wholeheartedly each session. Having a clear goal gave the class a real purpose. Students later reported that they really learned the value of applying their existing language skills to communicative challenges, rather than searching for new words or expressions unnecessarily, and of considering the target audience and making language choices appropriately. The course was very successful.

Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World

(Brett Hack, 3rd and 4th periods)

Objective: To learn more about the English-speaking world.

To increase interest in travel and global involvement.

To gain experience giving a presentation in English.

Course contents: Each day featured two themes, focusing on two different countries or regions.

Students participated in an interactive lecture interspersed with discussion questions and activities. In the final week, students gave presentations on regions of their choice.

General Overview and agenda: Summer enrollment was naturally small, so instead of the competitive participatory model that the regular-term version of the class features, I focused on more intimate, relaxed conversation and relationship-building. The students responded and were able to discuss the topics at length. They also made excellent presentations for the final project. One added bonus was that the summer schedule allowed us to cover more areas of the English-speaking world.

TOEIC Intensive 1、2、3、4 (寺澤君江、8月6日 12:50~14:20、11日 12:50~

14:20、12日 12:50~14:20、18日 12:50~14:20、19日 12:50~14:20、20日 12:50~14:20、21日 12:50~14:20、22日 8:50~10:20、10:30~12:00)

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: スコアのアップを目標に授業を展開した。重点としては、試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていった。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート 4 に焦点をあて、過去問題を用いてシャドウイングや Q&A によりリスニングコンプリヘンションに努めた。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えた。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定した。

アンケート結果分析・来期の課題: ボキャブラリーチェックやシャドウイングにより、学生は TOEIC 受験に必要な英語力を確認することができたように思う。パートごとの問題の傾向を理解し、解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。授業展開においては、解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生の集中力を持続させることができた。授業時、ボキャブラリーチェックを授業に位置づけたことにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まったように見受けられた。

TOEFL ITP (寺澤君江、8 月 6 日 8:50~10:20、10:30~12:00、11 日 8:50~10:20、10:30~12:00、12 日 8:50~10:20、10:30~12:00)

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応できる英語力の基礎として、語彙力の強化に重点を置いた。試験の 3 つのパート(リスニングセクション、文法セクション、リーディングセクション)における、それぞれの出題傾向および問題分析を授業で位置づけ、攻略方法を身につけることができるようにアドバイスした。ハイスコア達成の戦略として、配点やスコア換算方法にも触れた。各セクションの説明・解説に加え、授業全体を通して毎回過去問題によるミニ模擬試験を実施した。

アンケート結果分析・来期の課題: 試験の傾向を理解し、問題の解き方のコツをつかめた学生が多いようであった。この講座を通して、ITPだけでなくiTBおよび米国留学に意識が向くきっかけとなったように思われる。質問しやすい雰囲気を作心がけ、個々の弱点に焦点を合わせながら進めることができ、学生は学習スタイルに関しては満足しているように感じられた。しかしながら、市販されている問題集や参考書が限られているため、授業終了後、学生が自主的に学習する可能性が低いように思われ、やや残念な気がした。

Listening and Reading for Exams (寺澤君江、8 月 18 日 8:50~10:20、10:30~12:00、19 日 8:50~10:20、10:30~12:00、20 日 8:50~10:20、10:30~12:00、21 日 8:50~10:20、10:30~12:00)

授業目的: 英語圏留学を目指す学生の TOEFL および IELTS 受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4 つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)のうち、リスニングとリーディングを重点的に学習する授業を設定した。それぞれのパートの問題分析および解き方のコツにふれながら、演習を位置づけた。リスニングにおいては、学生の苦手とするサイエンスを題材とする内容を重点的に扱った。リーディングでは、クリティカルおよびインタラクティブに

読み進める方法が身につくように演習問題にあたった。

TOEFL と IELTS では試験の傾向が異なるが、どちらにも対応できることを目標とし、両方の内容を扱う授業を展開した。

アンケート結果分析・来期の課題: それぞれの試験の傾向を理解する機会となったように思う。

講座の受講をきっかけに、留学に対して意識が高まった。限られた時間ではあったが、少人数であり個々の質問に対応することができていた。また、授業時の学生のリクエストに応じて、部分的にスピーキング力強化をクティビティも取り入れることができ、学生の英語学習に対する意欲を向上させることができたのではないだろうか。今後、留学を見通し、講座終了後も個人で試験対策として、継続的に努力することが望ましい。

【フランス語】

思い出しフランス語 I-思い出しフランス語 II

(ダレン モルガン、9 月 29 日、30 日～10 月 1 日、2 日)

授業の目的: 初・中級および上級レベル向けの授業。前期に学んだフランス語を復習する。スムーズに後期の授業に入れるようサポートする。

授業内容: 会話・聞き取りの練習、ゲームなどを通して単語と主な文法のルールを思い出させる授業。

今期のアンケート結果の分析および来期への課題: 前期に学んだ語彙と文法を使って、会話、聞き取りやゲームを行った。多くの学生が、夏休み期間中にフランス語に触れる機会が少なかったためか、スムーズに言葉が出てこない印象を受けた。夏休み期間に、自宅で学習できる無料のインターネットサイトを紹介したい。

【スペイン語】

サバイバルスペイン語(サンティアゴ大学夏期講座受講生対象) /

Conoce los países donde puedes estudiar español.

(Sergio Neri, Wednesday, Thursday, Friday and Monday, 1 hour and 35 minutes per day)

Objective: The aim of this course is to prepare students with practical information about The countries they are going to study in. It should be a useful preparation for aspects of daily life that are not covered in the language courses. It should help students have better experience and avoid certain dangers or undesirable situations.

Course contents: The contents were focused on different issues that could happened in relation to Transport, food, crime, location of the host-family homes, the universities and the surroundings, the “does” and “don’ts” in that particular society, the religion and other

cultural and social aspects of the host countries, etc.

General Overview and agenda: This time, the course was focused on Spain because all of the registered students were going to study there. Students had the opportunity to confront the image they had of the country with information they could not previously know and had the opportunity to express their expectations, interests, concerns and worries. Hopefully this course will be useful.

夏休みスペイン語力向上講座(1年生対象) / ¿Cómo te lo pasas en tus primeras vacaciones?

(Sergio Neri, Wednesday, Thursday, Friday and Monday, 1 hour and 35 minutes per day)

Objective: The aim of this course is to help students develop strategies and attitudes to keep on studying and practicing Spanish during the vocational period in order to avoid forgetting and lowering their level of Spanish.

Course contents: The contents were focused on different strategies to keep on practicing and even learn vocabulary, conjugations, Syntax, pronunciation, and their use.

General Overview and agenda: Students were very participative in different many activities that were evaluated after the period of vacation has ended. A good number of them presented a good evaluation. While some did not fulfilled all of the tasks because they spent more time in other aspects of their lives like working in part time jobs, staying with their families, etc.

【ドイツ語】

ミュンスター大学夏期講座受講生対象コース① - Münster, wir kommen! – Praktisches Vorbereitungs-blockseminar ①

(Morten Hunke, Wednesday 23rd July, 1st, 2nd, 3rd, and 4th period)

Objective: Hands on preparation for students attending a 4 week intensive summer course at the University of Münster in Germany in September. The course delivered extensive practice on everyday life communicative scenarios. And it provided useful (touristic/cultural) insights into life during a prolonged stay in Germany.

Course contents: Initially, students prepared posters about aspects of Münster, bicycle culture, food in Germany, football, etc. and presented these to their fellow students. Then food and sports culture for further researched. Students also received tips on cheap travel, how to obtain discounts, and researched the average cost of everyday living through the websites of major supermarket chains.

General Overview and agenda: The high number of attendees made the course very intense for

the teacher. In hindsight, a group of a maximum of 16 students is probably much more suited. This should be kept in mind for next year. Largely, the formats chosen worked really well. However, having 1st years, after a mere language study of around 4 months, and students of higher year groups made instructing the class a very hard task indeed. The second time around 1st years and all others ought to be taught separately, if at all possible.

ミュンスター大学夏期講座受講生対象コース② - Münster, wir

kommen! – Praktisches Vorbereitungs-blockseminar ②

(Morten Hunke, Wednesday 6th August, 1st, 2nd, 3rd, and 4th period)

Objective: Hands on preparation for students attending a 4 week intensive summer course at the University of Münster in Germany in September. The course delivered extensive practice on everyday life communicative scenarios. And it provided useful (touristic/cultural) insights into life during a prolonged stay in Germany.

Course contents: Initially, students prepared posters about aspects of Münster, bicycle culture, food in Germany, football, etc. and presented these to their fellow students. Then food and sports culture for further researched. Students also received tips on cheap travel, how to obtain discounts, and researched the average cost of everyday living through the websites of major supermarket chains.

General Overview and agenda: The high number of attendees made the course very intense for the teacher. In hindsight, a group of a maximum of 16 students is probably much more suited. This should be kept in mind for next year. Largely, the formats chosen worked really well. The mix of students from 2nd, 3rd, and even 4th year worked really well. Some more audio visual materials would benefit this course greatly.

iCoToBa-Kino (Morten Hunke, Wednesday 1st October, 2nd, 3rd, and 4th period)

Objective: Introducing the topic of German football using the medium of film

Course contents: Two feature films based on historically factual events were chosen for this event: 'Der ganz große Traum' and 'Das Wunder von Bern'. Both illustrate the emergence and importance of football in German national culture to a very high extent.

General Overview and agenda: The students present all expressed a distinct interest in (German) football, albeit to varying degrees. The students were largely from year 1. Since the films existed in their Japanese version, Japanese subtitles were enabled for both films. A lively discussion followed the screening of both films.

【中国語】

朗読（顧令儀、9月16日1、2、3限、9月17日1、2、3限）

授業目的: 中国語のきれいな響きを感じながら、文献を声に出して読んでみる。朗読を通じて、中国語の語感をつかむことを目的とする。

授業内容: 授業中にまず朗読に必要な中国語の語調、ポーズ、アクセントを理論的に紹介し、中国語の文学作品を理解し、これらの要素を注意しつつ感情を込めて読む練習をした。

アンケート結果分析・来期の課題: 学生たちは真剣に取り組み楽しかったという評価を受けた。2日間の集中授業だったため、それぞれの学生の特徴に応じて、発音やアクセントなどの問題が解決できたと思われる。ただ発音においてはまた不安定な面もあるので、学生から「今はできたけれども、学期はじめにはまた戻るのではないか」と心配する声もあった。この問題に関しては、後期に引き続き朗読の授業を受けるように指導した。

3.4. 2014 年度スプリングプログラム

【英語】

TOEIC Basic 600（寺澤君江、2月7日5限、9日5限、10日5限、11日5限、12日5限、13日5限、16日3限、17日3限、18日3限、19日3、4限）

授業目的: TOEIC 受験対策

授業内容: 全学部および大学院生を対象に、スコア 600 を目標に授業を展開する。重点としては、試験問題におけるボキャブラリーを強化させるため、品詞ごとに重要単語を確認し、反復練習により語彙を定着させていく。さらに、学生が苦手とするリスニングのパート4に焦点をあて、過去問題を用いてシャドウイングや Q&A によるリスニングコンプリヘンションの演習を設定したい。また、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくように助言を与えることにする。授業の最後には、学習成果を確かめるため、毎回ミニ模擬試験の時間を設定する。

アンケート結果分析・来期の課題: ボキャブラリーチェックやシャドウイングにより、学生が TOEICスコア600達成に必要な英語力を確認することができるよう期待する。パートごとの問題の傾向を理解し、解き方のコツをつかめるのではないかな。授業展開においては、解説と問題演習をバランスよく展開することにより、学生の集中力を持続させることができると思われる。ボキャブラリーチェックを授業に位置づけることにより、学生の語彙力強化に対する意識が高まっていくことを望む。

TOEFL ITP（寺澤君江、2月16日1、2限、17日1、2限、18日1、2限）

授業目的: アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策

授業内容: 試験に対応できる英語力の基礎として、語彙力の強化に重点を置く。試験の3つ

のパート(リスニングセクション、文法セクション、リーディングセクション)における、それぞれの出題傾向および問題分析を授業に位置づけ、攻略方法を身につけることができるようにアドバイスしたい。ハイスコア達成の戦略として、配点やスコア換算方法にも触れる。各セクションの説明・解説に加え、授業全体を通して毎回、過去問題によるミニ模擬試験を実施する。

アンケート結果分析・来期の課題: 試験の傾向を理解し、問題の解き方のコツをつかめるはずであろう。この講座を通して、ITPだけでなくITBおよび米国留学に意識が向くきっかけとなったようにしたい。質問しやすい雰囲気を作ることが、個々の弱点に焦点を合わせながら授業を進めたが、この進め方に学生が満足していることを期待する。しかしながら、市販されている問題集や参考書に限られているため、授業終了後、学生が自主的に学習する可能性が低くなるのではないかと懸念される。

TOEFL (寺澤君江、2月19日1、2限、20日1、2、3、4限)

授業目的: 英語圏留学を目指す学生のTOEFL受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)の問題分析および解き方のコツを解説した。リスニングにおいては、ノートテキングに重点を置き、解答する方法を扱った。リーディングでは、クリティカルおよびインタラクティブに読み進める方法が身につくように演習問題に取り組んだ。スピーキングおよびライティングに関しては、クリティカルシンキングに重点を置き、目標スコアに届くような解答を目指す指導を心がけた。

アンケート結果分析・来期の課題: 試験の傾向を理解する機会となることを期待する。講座の受講をきっかけに、留学に対して意識が高まることを狙っている。限られた時間ではあるが、少人数なので個々の質問に対応することができると思われる。また、授業時の学生のリクエストに応じて、部分的にスピーキング力強化を目指したアクティビティも取り入れることにより、学生の英語学習に対する意欲を向上させることができるのではないだろうか。留学を見通し、講座終了後も個人で試験対策として、継続的に努力することが望ましい。

IELTS (寺澤君江、2月23日1、2、3、4限、24日1、2限)

授業目的: 英語圏留学を目指す学生のIELTS受験対策

授業内容: 試験に対応するため、4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)の問題分析および解き方のコツを解説した。リスニングにおいては、ノートテキングに重点を置き、解答する方法を扱う。リーディングでは、クリティカルおよびインタラクティブに読み進める方法が身につくような演習問題にあたる。スピーキングおよびライティングに関しては、クリティカルシンキングに重点を置き、目標スコアに届くような解答を目指す指導を心がける。

アンケート結果分析・来期の課題: 本授業は学生にとって試験の傾向を理解する機会となったようである。この講座の受講をきっかけに、留学に対して意識が高まることを期待したい。限られた時間ではあるが、少人数なので個々の質問に対応することができると思われる。また、授業時の学生のリクエストに応じて、部分的にスピーキング力強化を目的としたアクティビティも取り入れることができ、学生の英語学習に対する意欲を向上させることができ

るのではないだろうか。留学を見通し、講座終了後も個人で試験対策として、継続的に努力することが望ましい。

【フランス語】

フランス Go! (ダレン モルガン、2月9日, 10日)

授業目的: 初・中級レベル向けの授業。フランス語圏に留学する前のプログラムです。これまでに学んだフランス語を復習しながら、具体的に留学の計画を立てる。

授業内容: フランスでの滞在を見据え、会話やグループワークを通して、学生が積極的に留学の準備を行う。

【スペイン語】

サバイバルスペイン語(メキシコ UDLAP 大学夏期講座受講生対象) /

Conoce los países donde puedes estudiar español

(Sergio Neri, Monday and Tuesday, 2nd and 3rd periods)

Objective: The aim of this course is to prepare students with practical information about the countries they are going to study in. It should be a useful preparation for aspects of daily life that are not covered in the language courses. It should help students have better experience and avoid certain dangers or undesirable situations.

Course contents: The contents were focused on different issues that could happen in relation to Transport, food, crime, location of the host-family homes, the universities and the surroundings, the “does” and “don’ts” in that particular society, the religion and other cultural and social aspects of the host countries, etc.

General Overview and agenda: This time, the course was focused on Mexico because all of the registered students were going to study there. Students had the opportunity to confront the image they had of the country with information they could not previously know and had the opportunity to express their expectations, interests, concerns and worries. Hopefully this course will be useful.

国々のスペイン語 / Diferencias en el español de varios países

(Sergio Neri, Wednesday and Thursday, 2nd and 3rd period)

Objective: The aim of the course is to help students to better adapt to the particular differences in the varieties of Spanish spoken in Latin American countries and Spain. The purpose is not to have the student develop master the production but was more concentrated in the oral and written understanding.

Course contents: The contents of the course is distributed in a regional basis, presenting some of the main particularities of the Spanish spoken in United States of America, Mexico, Guatemala, and other central American countries, the Caribbean, Colombia, Ecuador and Venezuela, Argentina and Uruguay. Spain and its overseas territories.

General Overview and agenda: At the time of writing this report, the course had not yet started, therefore the comments for this section are reserved.

【中国語】

中検 3 級対策 (顧令儀、2 月 9 日～2 月 12 日)

授業目的: 3 月の中検試験に備えて、3 級を受ける 1 年生および基礎的な文法を復習したい 2 年生向けの授業で、過去問をやることを通して、基礎的な文法と語彙とチェックしながら、学生が中検 3 級試験で合格することを目標とする。

授業内容: 事前に e-Learning の「中国語検定過去問 Web」で過去問をやってくるように指示し、授業までに学生の問題点を整理し、授業中では説明と練習を中心的に行う。

4 iCoToBa のイベント

4.1. 2014 年度 iCoToBa 開催イベント

iCoToBa では、本学学生の異文化理解および異文化交流の促進を目的に、定期的にイベントを開催している。以下、2014 年度に実施したイベントについて報告する。なお括弧内は報告者を示す。

International Cooking Event (岡崎まどか)

4 月 15 日(火曜日)に iCoToBa 教員 3 名(ハック教員、ダレン教員、フンケ教員)主催によるイベントを開催した。アメリカ、フランス、ドイツを代表するパンケーキ、クレープ、ピカートを作って試食するという内容だった。教員に作り方や食文化に関する説明を受けた後、120 名の参加学生は 3 種類のお菓子を自分で焼く体験をした。トッピングには、フランスの輸入ジャムなどを用意し、学生が本場の食材を味わえるようにした。本イベント実施には、iCoToBa Supporters Club の学生がイベント運営にも参加し、事前準備のための打ち合わせや、当日のサポートを行った。



留学生歓迎会 (岡崎まどか)

4 月 16 日(水曜日)に、iCoToBa で留学生歓迎会を開催した。学生が中心となって企画・運営を行い、当日はゲームや歓談を楽しんだ。簡単な日本語を使ってゲーム説明を行ったり、学習している外国語を使ってコミュニケーションをとったりして交流を深めた。参加した留学生の人数が少ないため、中規模のイベントにすることで、参加学生同士が密に交流し、お互いが知り合きっかけとなった。



中国交流会 (岡崎まどか)

5月21日(水曜日)に iCoToBa で交流会を開催し、学生、顧教員と中国学科の教員が中国語で交流を行った。わからない表現や単語があれば、積極的に教え合い、有益な相互学習機会となった。参加した学生は中国学科の学生が中心である。主催した学生は「これからも学生主体での学習会を積極的に開催したい」と意欲的な姿勢をみせた。



Australian BBQ (Fern Sakamoto)

Concept: An evening of conversation, cooking and cultural exchange. Students have the opportunity to prepare and try some authentic Australian food following English recipes, and to speak with other students who have been to Australia about their experiences.

Purpose: 1) To motivate students by encouraging them to use language in a non-threatening environment. 2) To cultivate greater interest in and knowledge of foreign culture through food, music, photos and conversation.

Participants: 40 Aichi Prefectural University students and teachers (+6 student volunteers)

Venue: Morikoro Park

Program: As students arrived they were assigned a work station and encouraged to help themselves to drinks. The evening began with an introduction from the main student organiser, and a toast. Then students cooperated in groups to prepare two salads, grill an assortment of meats, and generally enjoy themselves. Groups had fun trying to follow English recipes (with varying accuracy). All students ate the food they had prepared together,

followed by some Australian biscuits and snacks provided at the end of the evening. Background music and a slideshow of Australian photographs encouraged a relaxed atmosphere. Everyone cooperated to clean up the venue afterwards. It was a successful, enjoyable evening.



Washington & Jefferson 大学 学生交流会 (Brett Hack, 岡崎まどか)

6月24日(火曜日)にアメリカ合衆国 Washington & Jefferson 大学の学生6名が本学を訪問した。本学外国語学部の学生12名と交流会をiCoToBaで行い、それぞれの文化の違いや、研究分野、留学経験、趣味の話など、幅広いトピックでの意見交換をした。交流会終了後、食堂で昼食をとり、学食の味も紹介した。

最初は緊張していた学生だったが、時間が経つにつれお互いに打ち解け、笑いの絶えない交流会となった。留学から帰国した学生にとっては、日本での生活では英語母語話者と交流する機会が少ない。そういった環境の中で、今回の交流会は実践的な経験となった。交流会後、さらなる語学力のレベルアップを目標に掲げた学生も多く、有意義な時間となった。



留学生歓迎会（岡崎まどか）

10月15日(金曜日)に2014年10月から交換留学生として本学で学ぶ留学生の歓迎会を行った。iCoToBa Supporters Clubの学生が中心となって、7月から計画作成に取り組んだ。留学生22名、日本人学生40名の参加者は自己紹介やゲームを通して交流した。空手サークルのメンバーが空手の形を披露し、それを留学生が真似してみるなど、日本の文化に触れる機会にもなった。ジェスチャーゲームではそれぞれのチームが一体となり、賞品獲得のために奮闘した。イベントの後半にはそれぞれが打ち解け、日本語や外国語を交えて活発に交流するなど、楽しい時間を過ごした。



TOEIC ランチョンセミナー（寺澤君江）

11月4日(火曜日)に外国語学部1年生を対象にTOEICセミナーを開催した。一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会の高木氏から、TOEIC(R)テストの概要、就職活動や社会での活用法の説明を受けた。12月のTOEIC受験に向けて、テストサンプルを配布し、試験対策に臨んだ。

餃子パーティ（顧令儀）

中国では正月や冬至など特別な日に餃子を食べる風習があり、伝統的な中国文化を楽しむことを目的に餃子パーティを開催した。中国学科のiCoToBa Supporters Clubのメンバーが中心となって企画、運営した。中国に留学した学生が中国の餃子や正月について紹介した後、30名の参加者は、グループに分かれ餃子作りに取り組み、中国式の水餃子と日本式の焼き餃子を食べ比べた。皮から作る中国式水餃子を慣れた手つきで作る中国人教員の技を見ることは、多くの日本人学生にとって初体験であり、異文化に触れる良い機会となった。また、調理室では中国語が飛び交い、語学学習と文化体験がうまく融合したイベントとなった。



Weihnachtsfeier /German Christmas Party (Morten Hunke)

Participants: 50 students, Morten Hunke

Program: Celebration Christmas German style, with games, a Christmas film in German, a gift exchange scheme, German Christmas carols, and most importantly real German Christmas sweets and beverages. The students from my Deutsche Kultur class were instrumental in organising, planning and executing the event. Together we held planning sessions and decided on the content of the event. The students were super enthusiastic in planning it. The event also run extremely smoothly. Organised by the students and myself, this was through and through a massive success. There were eleven German native speakers present – including three members of staff. The live demonstration of Christmas drink was especially successful.



Brett's Christmas Party (Brett Hack)

12月25日(木曜日)の昼休みに iCoToBa 英語担当のハック教員によるアメリカスタイルのクリスマス紹介イベントを開催した。アメリカの典型的なクリスマスの習慣や風景の紹介や、クリスマスクッキーのアイシング体験など、楽しい時間を過ごした。アイシングクッキー(水で溶かした粉砂糖でクッキーデコレーションをするもので、アメリカではクリスマスの定番お菓子)体験では、教員手作りのクッキーに学生が自由に絵付けをし、カラフルなクッキーを作りにチャレンジした。



フランス語 午後の交流 (ダレン モルガン)

1月15日(木曜日)の3、4限に、フランス語を学ぶ上級生と下級生のコミュニケーションを目的とした交流会を開催した。参加した学生は、iCoToBa 科目「めざせ仏検準1級」受講中の4年生と「とっさのフランス語基礎」受講中の1年生である。学生はフランス語を交えながら、共にゲームをとおして交流した。参加者は、3限8人、4限18人であった。

書初め大会 (岡崎まどか)

2月6日(金曜日)に、書初め大会を実施した。iCoToBa Supporters Club が中心となり、企画運営を行った。参加者は16名(日本人学生9名、留学生7名)であった。留学生に日本文化に触れられる機会を提供することを目的とし、本格的な道具を用意して書道に挑戦した。筆や硯を初めて見る留学生が多く、書き方の基本である「とめ」や「はらい」を練習した後、各自好きな漢字に挑戦した。書初めをした後は、おしるこを食べながら作品を見せ合い、感想を話し合った。



[表 1 2014 年度 iCoToBa 開催イベント一覧]

実施日	時間	イベント名	参加者数 (学外)
4 月 15 日	16:30～19:30	International Cooking Event	125
4 月 16 日	13:45～16:00	留学生歓迎会	30
5 月 21 日	13:00～14:30	中国交流会	12
6 月 17 日	18:00～19:30	Australian BBQ	46
6 月 24 日	10:30～13:00	Washington & Jefferson 大学 学生交流会	18 (6)
10 月 15 日	12:30～14:30	留学生歓迎会	61
11 月 4 日	12:10～12:40	TOEIC ランチョンセミナー	36
12 月 9 日	17:40～19:30	餃子パーティ	28
12 月 24 日	13:00～18:00	Weihnachtsfeier / German Christmas Party	50
12 月 25 日	12:10～14:20	Brett's Christmas Party	33
1 月 15 日	12:50～16:00	フランス語 午後の交流	26
2 月 6 日	16:15～18:00	書初め大会	16

4.2. 留学体験発表会

大山 守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)

留学体験を振り返り、留学を希望する後輩へ充実した情報を提供するために、定期的に留学体験発表会を開催している。2013 年後期に始まった本イベントは、2014 年後期から留学生数の増加にあわせて火曜日と木曜日の週 2 日開催している。これまでは、iLounge (iCoToBa 内交流スペース) で開催していたが、ラウンジ利用者が増えたため、2014 年後期からは Activity Space で開催している。交換留学や協定大学への留学体験発表だけにとどまらず、世界一周旅行などのユニークな体験した学生の話など、多岐にわたる海外での学びの紹介をめざした。

manaba コミュニティ「留学について話そう」での発信と、1、2 年生全員との留学相談の相乗効果もあり、留学希望者はこれまでの手探り状態から、自分で積極的に情報収集をして留学に備えられるようになった。一般的な留学説明会では知ることができない、より詳細で具体的な発表を聞くことで、学生は早く段階から留学に対する心構えもできつつある。2014 年前期は iCoToBa Supporters Club の学生が司会を担当し、後期は回数が増えたためコーディネーターが担当した。12 時 10 分に開始、20 分の報告発表と 10 分の質疑応答という構成で行った。飲食も可とし、気楽に話が聞けるよう配慮した。

[表 2 2014 年度留学報告会内容一覧]

月 日	留学先大学・機関	国名	発表者 (学科専攻・学年)	参加 者数
4 月 17 日	Universidad de Las Americas	メキシコ	近藤愛与(西 2)	25
4 月 24 日	Center of English Studies, Oxford	イギリス	菊地あかり(独 4)	7
5 月 8 日	Chichester College	イギリス	堺麻衣子(英 3)	6
5 月 15 日	International Language Academy Van West College Vancouver, EF Toronto	カナダ	迫川美紀(英 3) 吉安亜美(西 3) 白木雄大(英 3)	10
5 月 22 日	Browns Language School	オースト リア	辻本安那(英 3) 島津悠(英 3)	10
5 月 29 日	Kaplan International College Boston、EF Boston	アメリカ	榊原碧(英 3) 清水奏子(英 3)	13
6 月 5 日	California State University, Northridge	アメリカ	伊藤真唯(英 3)	13
6 月 12 日	4 ヶ月間世界一周旅行		藤原里穂(西 4)	29
6 月 19 日	南京師範大学	中国	日野未来、近藤舞、藤尾 聖来、間瀬有麻奈(中 3)	15
6 月 26 日	四川師範大学	中国	中村萌、渡辺脩平(中 3)	10
7 月 3 日	Arizona State University 春期講座	アメリカ	加藤絵理香(英 2) 水野綾、川口真奈(国際 3)	8
7 月 10 日	NZLC, Auckland	ニュージ ーランド	中井美里(国際 3)	3
7 月 17 日	Universität Leipzig	ドイツ	山下彩(独 4)	27
10 月 16 日	Ashland University	アメリカ	仙田志帆(英 3)	8
10 月 21 日	Universität Köln	ドイツ	杉山恵里、高橋瀬里香 (独 3)	15
10 月 23 日	Université Charles de Gaulle-Lille3	フランス	竹内麻裕(仏 3)	10
10 月 28 日	北京語言大学	中国	前香菜子(中 3)	10
11 月 4 日	University of East Anglia 夏期講座	イギリス	古井恵美、柿本沙織(英 3) 浅井優太、上西真未、 岡奈菜美、岡村あさこ、 加藤千絵、田中拓真、山 下真生、横山竜斗(英 2) 山田冴香(国際 2)	6
11 月 6 日	Universidad de Las Americas	メキシコ	中川京(西 3)	9
11 月 11 日	華東師範大学夏期講座	中国	稲垣里穂、上原愛美、林 沙梨生(中 2)	9

11 月 13 日	Ohio State University	アメリカ	大角昌弘(英 3)	7
11 月 18 日	Arizona State University 夏期講座	アメリカ	竹本里香(英 2)	11
11 月 20 日	Universidad de Santiago de Compostela	スペイン	水野幼菜(西 3)	11
11 月 27 日	Universität Leipzig	ドイツ	曾根小百合、若杉美帆、 岩井悠太(独 3)	30
12 月 2 日	Universidad de Alicante	スペイン	小林綾佳(西 3)	14
12 月 4 日	Universität Münster 夏期講座	ドイツ	石上侑季、大江彩香、山 口優里恵(独 2)	17
12 月 9 日	Université Stendhal Grenoble 夏期講座	フランス	橋本純花、渡邊明里(仏 2)	4
12 月 16 日	Université Jean-Monnet 夏期講座	フランス	磯部礼奈(仏 2) 岡田美 紀、成瀬葉純(仏 1)	11
1 月 15 日	400 日世界一周旅行		滝玲名(国際 3)	15
1 月 22 日	University of Queensland	オースト ラリア	犬飼謙司(英 3)	5

4.3. グローバル関連イベント

iCoToBa は、グローバル人材育成推進室と協働して、教育事業を行っている。2014 年度は、前期に「県大ドイツデー」と、豊田市のブラジル人学校 Escola Alegria do Saber 高校部との交流会を実施した。後期は、愛知県小牧市にある AC ミランサッカースクール愛知を迎え、「世界へ飛び立つ若者たちへーAC ミランサッカースクール愛知に学ぶグローバル人材育成ー」というタイトルで座談会と講演会を実施した。以下、これらの実施報告を行う。

県大ドイツデー (Morten Hunke)

Date: Wednesday 25th June, 3rd, 4th, and 5th period

Participants: 55 students + 2 guests (DAAD – German Academic Exchange Service), and 11 members of staff (GHRD, German Department, International Office)

Purpose: Introducing the various options for study abroad activities offered at Kendai.

Program: First up, two short and very engaging presentations were given by the two guests. The content focused on Germany as a study abroad destination and scholarship options offered by the DAAD. The second presentation introduced participants to modern day life in Germany, featuring (popular) culture, language, and many other aspects. Then, students – in groups of 6-8 – were introduced to the different study abroad options Kendai provides. At six information tables they could ask the guests (Dr. Wieland Eins and Tabea Kauff), teachers (Shuji Sugihara, Morten Hunke), returnee students, alumni, and experienced “sempai” about

the possibilities of studying in Germany. Practical, hands on questions about application procedures, cost of living, language preparation, suitability of tests, etc were encouraged. Finally, in a forum debate our guests and experts discussed vital issues together with students.

The event went very smoothly and the high number of attending students and staff made it a great success. Since the visitor from the DAAD always brings a budget of around € 800 it was possible to cater for all participants with excellent German cake and cookies from a famous bakery in Tokyo. The introductory presentations were extremely lively and well delivered. The information station format, already piloted at last year's ドイツデー was particularly effective this year. Merely, the final forum debate should have been held before the information stations. That would have made more sense. It was extremely encouraging to see the knowledge transfer between students happening. At the stations for the university partnerships (Universität zu Köln, Universität Leipzig, and from spring 2015 additionally Universität Tübingen) returnee students together with current German exchange students did a wonderful job. At the new *Free Mover* station, two successful applicants – currently studying at the Leuphana Universität, Lüneburg – helped out. And also, we were able to advertise our new short term German study programme in cooperation with the Universität Münster.



ブラジル学校 Escola Alegria do Saber との交流 (Morgan Dalin, Sergio Neri)

On July 6, 2014, 17 students and a professor from Aichi Prefectural University (Aichi Kenritsu Daigaku) were invited to a Brazilian traditional festival called "Festa Junina" (Junes Festival) organized by the students and teachers of the EAS, "Escola Alegria do Saber" (School Joy for Knowledge) in Toyota City. The celebration formed the basis for a cultural and linguistic exchange between the two institutions. Located in Toyota City, Aichi, EAS is a bilingual (Portuguese and Japanese) school aimed at Brazilian and Japanese students of primary school, junior high and senior high school. University students attending the "Festa Junina" were from the three levels of Portuguese in the Faculty of Foreign Studies at Kendai and the members of the Portuguese study group created in iCoToBa, the Multilingual Learning Center of the University. Professor Sergio Neri, also a member of this group, was part of the delegation. The event was of great fun and everyone had the opportunity to speak Portuguese with students and

teachers of the EAS, try Brazilian food, listen to popular music and watch folk dances.

In return, more than 40 students and two teachers from EAS visited Aichi Prefectural University on July 21. Visitors participated in the classes of professors Tamaki Watarai and Kazumi Kosaka and observed how Portuguese is studied at the university. Students from both institutions had lunch together in the university cafeteria and had the opportunity to chat and make new friends. After that, students of the Portuguese study group and professors Sergio Neri and Morgan Dalin from "iCoToBa" showed the center to students of EAS and gave them two classes about Brazil and the situation of Portuguese language in the world. The aim was to show how to study the languages in iCoToBa, as well as to interact and create bonds between students and professors of both institutions.

A few days later, here at Kendai, we had the great pleasure of receiving thank-you letters written by the students of the EAS. They expressed their wish to visit Aichi Prefectural University again. Needless to say that for us as well, this was a fantastic experience. Hopefully we'll meet again to continue the exchange program between the two institutions.



グローバル講演会（宮谷敦美）

11月12日（水曜日）に、ACミランサッカースクール愛知でテクニカルディレクターを務めるマテオ・コント氏を迎え、「世界へ飛び立つ若者たちへーACミランサッカースクール愛知に学ぶグローバル人材育成ー」というタイトルで講演会を開催した。講演会に先立ち、本学外国語学部学生7名が、コント氏と通訳兼コーディネータの山田晃裕氏（本学スペイン語学科卒業生）と共に、「グローバルに活躍するために私たちはどう生きるべきか」をテーマに座談会を行った。座談会の司会進行は、宮谷が担当した。

座談会では、一人ずつ参加者が自己紹介を行った後、事前に学生が準備した質問事項について話し合い、さらに小グループに分かれて議論を深めていった。学生が事前に準備した質問は、コント氏に対しては異文化体験やサッカーを通じた子どもの育成方法、グローバルに活躍する人材を育成するために気を付けていることが中心であった。山田氏に対しては、通訳者としてのキャリア形成に関する質問が多かった。英語と日本語、イタリア語が飛び交う座談会は熱気を帯び、学生も第一線で活躍する人の話に興奮していた。

講演会では、ACミランサッカースクールが目指している人材育成と、イタリア、クウェート、日本でのサッカー指導でコント氏が経験した異文化経験にふれつつ、新しい世界にチャレンジすることのやりがいや楽しさについて、またご自身のエピソードを基に「CORAGGIO（勇気）」

と「DIVERSITA（ちがい）」の重要性について熱く語ってくださった。コント氏の講演の後、座談会に参加した学生の代表 3 名が報告を行なった。その中の一人は、座談会で印象的だったエピソードとして、コント氏が紹介したチョコレートケーキのたとえ話（両手にケーキがある。おいしいかまずいか、食べてみるまでは分からない。まずかったら、食べるのをやめればいい。食べきる義務はない。1つ食べておいしかったら、もう1つ食べてもいい。）を例に、挑戦と試行錯誤を繰り返すことで「自分の強さを出せる場所を見つけられる」というメッセージを受け取ったと報告した。

講演会の最後にはACミラン本田圭佑選手のサイン入りグッズ争奪じゃんけん大会もあり、さらに会場は熱気に包まれた。

以下、参加学生のコメントを紹介したい。本イベントが学生に与えたインパクトが大きかったことが推察できるだろう。

[参加学生の感想]

- ・ 仕事をただの労働だとかお金を稼ぐ手段としてではなく、楽しいこととして捉えているお二人の考え方に賛同しました。仕事が趣味のように思えたらいいなと思いました。最近では、仕事、特に就活に対するイメージが暗すぎると思っていたのですが、座談会では山田さんが就活は失敗してもいい、何とかなるからとおっしゃっていたので、自分も少し安心することができました。また、通訳にもコーディネータという形があるのを知って、視野が広がりました。（座談会参加者）
- ・ 私は来年1年間留学する予定だが、この「勇気」と「違い」については留学中により考えることになるだろうと思った。今は、常にアンテナを張って積極的に行動したい、そこでしかできないような経験と新しい友達をつくりたいという前向きな気持ちでいっぱいである。この気持ちを保ち続けて、実りある留学にしたいと強く感じた。（講演会参加者）
- ・ 私は AC ミランにもサッカー自体にもあまり関心がありませんでした。ですが、イタリアには関心が強く、マテオさんのイタリア語に興味していました。最初は、そのような気持ちで話を聞いていたのですが、だんだんマテオさんと山田さんのイタリア語と日本語に魅了されました。話の内容はもちろんですが、私の中の「通訳」という概念が覆された気がします。楽しそうに通訳する山田さんを見て、無表情でひたすら正確に訳す通訳者の像が薄れました。また、講演の中で何が一番心に響いたかという、座談会で県大生がした質問へのマテオさんの返答でした。講演後のディスカッションでも繰り返し話題にしていたが、「将来何をしたいかわからない。道が見えない。そう言う日本人が多い。」ということに対して、「ちゃんと道があることはわかっている。ただ選ぶのを恐れているだけだ。決断できないだけだ。」その言葉が胸に刺さりました。（講演会参加者）



5. 教育活動

iCoToBa では、プロジェクト型学習 (PBL 型学習) や交流型学習を積極的に取り入れている。第 5 章では、学習成果発表や外部機関との交流に基づく教育活動について紹介する。

JICA Workshop (Fern Sakamoto)

Concept: A workshop lead by J-Ambassador students to facilitate cultural exchange with Mexican JICA trainees.

Purpose: To provide students with a real-world application for skills learned through the course.

To cultivate greater interest in and knowledge of foreign culture through exchange.

To motivate students to continue to develop their communicative skills.

Date: July 16th (Wednesday) 17:00 ~ 18:30

Participants: 24 J-Ambassador student, 12 JICA trainees

Venue: JICA Chubu

Program: Kendai students were responsible for the planning, preparation and implementation of a 90-minute workshop. Students worked in groups to briefly introduce an example of Japanese popular culture, and lead discussion related to their topic. Topics included *yurukyara*, *machikon*, cosplay, sumo, idol groups and festivals. Discussions were animated and flowed smoothly as participants asked questions and shared opinions.

The event was a great success and is hopefully the beginning of many such cooperative events between Aichi Prefectural University and JICA Chubu in the future.



University of East Anglia Cultural Exchange Workshops (Fern Sakamoto)

Concept: J-Ambassador (UEA) students ran cultural exchange workshops in the UK as part of their J-Ambassador final project and University of East Anglia summer program.

Purpose: To facilitate cultural exchange.

To cultivate greater reflection on an aspect of Japanese culture.

To motivate students to continue to develop their communicative and presentation skills.

Date: August 13th, August 20th, September 3rd, September 10th

Participants: 30 J-Ambassador (UEA) students

Venue: University of East Anglia (UK)

Program: Liaison between UEA and Aichi Prefectural University facilitated the inclusion of cultural exchange workshops into the summer program schedule. These workshops were planned and lead by J-Ambassador students. Students worked in groups to choose suitable topics, design a workshop flow, and prepare materials or activities to facilitate cultural exchange with UK university students. The lecturer liaised with UEA staff to ensure that all plans were approved and necessary equipment or room bookings were confirmed in advance. UEA staff reported that all four workshops were well-organised and highly successful.

イマージョン合宿 (大山 守雄)

昨年に引き続き、8月12日(火)～13日(水)に「愛知県青年の家」で Immersion Program (外国語だけで生活することにより外国語能力向上を目指したプログラム)の合宿を開いた。各専攻言語(英語、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語)を学ぶ本学学生 8 名が参加したほか、高校生(県内スーパーイングリッシュスクール拠点校など)20 名が、英語プログラムに参加した。また、本プログラムは、企画から実施まで海外留学を経験した本学学生のプロジェクト型学習の一環(「グローバル人材プログラム」指定科目「学生共同プロジェクト」)としても設計されており、4 名の iCoToBa 教員の指導のもと、22 名の学生がリーダーとしてプログラムを企画・実施した。

プログラムでは、日本語を使わずそれぞれの学習言語で2日間を過ごした。また、媒介言語を用いない直接法によるドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の入門講座も開かれ、高校生にとっては英語以外の外国語に触れる貴重な機会となった。この入門講座を体験し新たな外国語学習の面白さに気づいた高校生が、急きょ英語のグループからドイツ語圏専攻の学生グループに変更した。この合宿に参加した高校生にとっては、英語以外の外国語学習の選択肢を考えるきっかけになったとともに、県大でどの程度まで自身の語学力を伸ばすことができるのか、実感してもらう機会になった。

初日は全参加者の1分間紹介のあと、各言語にわかれてアイスブレイキングの時間を設けた。そのあとスキット作りやフランス語の詩の朗読など、夜のタレントショー(演芸発表会)で発表する内容をチームごとに練習した。中国語チームは小道具にもこだわり、熱の入った演技を披露した。タレントショーの司会は、全員がわかる言語ということで英語チームが担当した。自由時間は各言語でゲームをしたり、夜遅くまで会話を楽しんでいたようである。

2日目は英語によるラジオ体操からスタートした。朝食、掃除を終えたあと、各言語で独自のプログラムを1時間単位で行った。ディベート、ディスカッション、クイズ大会と、リーダー学生の創意工夫を競い合った。27時間という短い時間であったが、参加者は外国語でコミュニケーションをとり続けるのは案外大変だということは実感できたと思われる。高校生の参加者からは、

「外国語アワーで 2 言語体験したい」、「高校生だけで話し合って何かを作る機会があるとよい」「夏だけではなくほかのときにも開いてほしい」などの意見が寄せられた。2 日間のプログラムの内容についてアンケート結果では総じて評価が高かったが、これは参加者が非常に前向きだったことも影響していると考えられる。県大生対象アンケート結果も総じて高い評価であった。学生の意見として「英米学科以外でも気楽に参加できる英語プログラムがほしい」とか、「休憩時間はもっと短くてもよい」などがあつた。企画実施者であるリーダー対象アンケートでは、「準備時間を増やして、もっと満足度を上げたい」、「施設について下調べをしておく、より良いプログラムが提供できる」といった意見が出た。

夏のプログラムが好評であったため、2014 年度は春休み(2 月 14 日～15 日)にも同様のプログラムを開催する予定である。



UNESCO ESD Booklet (Fern Sakamoto)

Concept: J-Ambassador summer course students composed a booklet for use by UNESCO ESD World Conference participants.

Purpose: To provide students with a genuine opportunity to utilise skills learned through the course.

To cultivate greater reflection on an aspect of Japanese culture.

To encourage students to tailor their communicative skills to suit different audiences.

Date: September 16-25th

Participants: 5 J-Ambassador students

Venue: iCoToBa

Program: The UNESCO Education for Sustainable Development (ESD) World Conference was held in Nagoya on November 10th, 11th and 12th. Discussions with conference organisers gave rise to the opportunity for students to compose a booklet for use by conference participants. Students worked on the booklet in class, each students choosing and composing a paragraph introducing their recommendations under a range of headings (foods to try etc.). Students edited their entries with teacher assistance, and compiled them into a shared file. The resulting booklet was approved by conference organisers, and 500 copies were professionally published and distributed to conference participants. Two international newspapers ran stories on the booklet.

ブックレットは、以下の URL から PDF ファイルとしてダウンロード可能
URL <http://www.for.aichi-pu.ac.jp/global/news/2014/10/001198.html>



Japanese Culture Presentation Contest (Fern Sakamoto)

Concept: J-Ambassador students were encouraged to utilize skills learned through the course in the Kyoto University of Foreign Studies Annual Japanese Culture Presentation Contest.

Purpose: To provide students with a real-world application for skills learned through the course.

To cultivate greater reflection on an aspect of Japanese culture.

To motivate students to continue to develop their communicative and presentation skills.

Date: December 20th 13:00~

Participants: Contest finalists (2 Aichi Prefectural University students)

Venue: Kyoto University of Foreign Studies

Program: J-Ambassador students were encouraged to enter the competition to further develop skills acquired and practiced through the course. Four students (one of whom was not a class member) elected to enter the contest, with two students making it to the final round. All preparation for the contest was carried out outside of class time. The two finalists took first place in the contest, and won round trip tickets to New York and book vouchers.

コンテストの様子は You tube に公開されている。写真は優勝した滝玲名さん、星野佐和さん(国際関係3年) URL <https://www.youtube.com/watch?v=hQKDQ4M9Kqc>



Open Class: What is Global, Anyway – Final Conference (Brett Hack)

This event was simultaneously the final lesson for Brett Hack's advanced English course, "What is Global, Anyway" and a showcase for the global impetus within iCoToBa courses. Students in the course had composed theoretical essays that engaged in theoretical analysis of contemporary global issues. (See Section 9.1 of this report.) In order to strengthen students' sense of accomplishment and to increase the rigor of the class, the final lesson was conducted as an academic conference. This took place on January 23rd 2015 from 10:30 am to 12:30 pm. Four volunteers read their essays aloud with accompanying slides. The other class members read the presenters' essays beforehand and prepared challenging questions. These were asked at the end of each reading, and were followed by lively discussions. Other iCoToBa instructors and students of other iCoToBa courses also joined in the event as audience members. Professors from other departments were also invited. A convivial reception, with an international selection of food and drinks provided by Brett Hack and Atsumi Miyatani, followed the event.



グローバル・ライティング (宮谷敦美)

2014年10月から12月にかけて、本学学生とカナダ・トロント大学東アジア学科で日本語を学んでいる4年生によるグローバル・ライティングプロジェクトを実施した。本学からは、iCoToBaで英語科目を受講している学生から希望者を募り、7名(うち英米6、国際関係1)が参加した。トロント大学は4年次科目1“Modern Standard Japanese IVb”を履修している学生18人が参加した。本学からは宮谷が、トロント大学側は、東アジア学科専任講師の有森丈太郎氏(本学日本語教員課程修了生)とで本プロジェクトを立案、実施した。iCoToBa担当事務職員岡崎まどかが双方のコミュニケーション窓口となった。

本プロジェクトは、「書物やインターネットサイトからは知ることができない日本、カナダの社会問題についてどのように考えているか、インターネット上で議論をすることで理解を深める」ことを目的としている。進め方は、以下の通りである。1)Facebookにコミュニティを開設し、互いに自己紹介する。2)話し合いにより決めたトピックについて、学習言語で質問を相手に送る。3)届いた質問について、自分の考えを相手の学習言語で書く。4)受け取った回答を読み、自分の意見や質問を相手に送る。5)さらに質問に答える。6)全体へのコメントを相手に返す。

本学の学生が取り上げたトピックは、「ストライキ(What do you think of strike activities?)」「移民教育(What do you think of immigrant education system?)」「多言語表記(What do you think

about a multilingual notation?)」「カナダ人のアメリカ人への意識・印象(The consciousness of the USA and Canadian identity)」「食物廃棄(What do you think about throwing out lots of food?)」「学校で過ごす時間の長さ(Difference of time spent at school between 2 countries)」の6項目だった。トロント大学の学生が取り上げたトピックは、「就職活動」「いじめ」「同性愛」「塾」「日本の労働システム」「オタク文化」の6項目であった。

2週間に1回昼休みに iCoToBa に集まり、それぞれのトピックについて考えたことを話し合った。学生は、「これまで当たり前だと思っていたことを、トロント大学の学生に指摘されてはじめて深く考えてみた」「日本の『オタク』のイメージと、カナダでのイメージがまったく異なるので驚いた」「トロント大学で日本語を学ぶアジア系の学生が多いことに驚いた」など、このプロジェクトを通して、ステレオタイプから一歩踏み出して考えることの大切さを実感しているようであった。

このプロジェクトを始めた当初は、異文化理解と外国語能力の向上を目指していたため、トロント大学側の質問には全て日本語で、本学側の質問には全て英語でやりとりするという「タンデム学習スタイル」だったが、互いにとって学びがより深くなるという理由から、自然発生的にすべてのコメントが日英バイリンガルになっていったことはプロジェクトを立案した側にとってうれしい誤算だった。12月に行ったプロジェクトのふりかえりでは、同年代の外国の大学で学ぶ学生と意見を交わすことの楽しさについて評価が高く、今後このようなプロジェクトがあれば、全員がぜひ参加したいと答えた。

本プロジェクトについては、学生が Web ニュースレターにまとめており、年度内には iCoToBa HP に掲載される予定である。



6 e-Learning プログラムの概要

6.1. 2 年目の e-Learning と今後の展望

四ツ谷 亮子(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)

オンライン上で自主学習できるよう、iCoToBa の発足と同時に、以下の 6 つのプログラムが導入された。ロゼッタストーンの ID は外国語学部学生専用だが、その他のプログラムは、外国語学部学生以外の、第二外国語の授業で各言語を学習する他学部の学生も利用可能である。

英語: ロゼッタストーン、ALC NetAcademy 2

英語の e-Learning の教材で本学に導入されているものとしては、外国語学部の学生を対象とするロゼッタストーンの英語(以下ロゼッタストーンと呼ぶ)と、他学部の学生も対象とする ALC NetAcademy 2(以下アルクと呼ぶ)の 2 つがあるが、前者は英語(アメリカ)ないしは英語(イギリス)を聞いて発音する訓練を繰り返し徹底して行うものであり、後者は「レベル診断テスト」を経ることにより自分に合った「リスニング」と「リーディング」の訓練を受けられる「スーパースタンダードコース」と、TOEIC テスト対策に特化した「TOEIC テスト演習 2000 コース」の 2 つのコースからなるものである。アルクの ID の配布は、外国語学部では入学式において、他学部では 5 月に英語 I A において行われた。アルク(およびロゼッタストーン)のガイダンスは 4 月に 1 回、5 月に 4 回開催され、それら以外にも iCoToBa において適宜質問の時間が設けられた。

本年度ロゼッタストーンの学習時間が最も長く、またアルクの利用率が最も高かった学科・専攻は国際関係学科であった。これは、ロゼッタストーン、アルクの「スーパースタンダードコース」(「リーディング」)ないしは「TOEIC テスト演習 2000 コース」が、国際関係学科の授業科目である「オーラルコミュニケーション I」、「リーディング I」ないしは「オーラルコミュニケーション中級」の特別課題やテストの範囲に指定されたことの反映と考えられる。

今後の課題としては、アルクとロゼッタストーンが授業の特別課題等の対象とされていなくとも、学生にそれらを積極的に学習する意欲を持たせることが挙げられ、そのために引き続きガイダンス等による啓発が求められよう。

中国語: 中国語検定過去問 WEB(高電社)

中国語検定過去問 WEB は、すべての級の過去問題を WEB 上で解くことができ、検定対策を行うことができる e-Learning 教材である。自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。誤答の分析などもでき、利用者が自分で弱点を知ることができる。

【利用状況】平成 26 年 11 月の無料受験の結果を含めての合格状況は、専攻の学生について

ては、2 年生の 11 月の時点で、3 級が約 63 %、4 年生の 11 月の時点で、2 級が約 33 %という結果である。

今回は、試験結果についても分析してみたい。2 年次の 3 級の不合格者の結果をみると、リスニングよりも筆記試験に難があることが分かる。中級段階を抜けるためには 3 級レベルの中国語文法をしっかり押さえて次の段階へ行く必要がある。底上げを考えるならば、何らかの対策を考える必要がある。また、4 年次の 2 級については、合格者は留学経験者、ならびに学習を着実にしてきた学生である。不合格者については、3 年次終了後進歩がなかったか、リスニング、筆記ともに伸び悩んでの結果と考えられる。

この 2 つの無料受験の結果以外で特記すべきは、より上のレベルである準 1 級の合格者が少しずつでてきたことである。これらは当該学生が、より高い志をもって学習を進めた成果であり、彼らの努力の結果そのものである。今後も e-Learning 学習を続けて利用を推進していけば、よりよい結果が見込めると考えられる。

フランス語:WORKOUT フランス語検定(スパーズ)

春季と秋季の年 2 回実施される「実用フランス語技能検定試験」(通称「仏検」)の対策のための e-Learning システムである。5 級、4 級、3 級、準 2 級、2 級、準 1 級の 6 つの級の練習問題が用意されている。回答率、正解率が表示され、不正解だった問題だけを後でやり直すこともできる。ID とパスワードで、自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。

【利用状況】学生にあまり浸透していないようで、利用率はまだあまり高くないが、本コンテンツは利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能であるため、内容をさらに精査し、より良いものに仕上げ、今後の合格率上昇をはかる(平成 26 年度の受験料補助による団体受験の一次試験の合格率は、準 1 級が 19.4%、準 2 級が 60.0%、3 級が 13.0%である。参考:全国の合格率は、準 1 級が 28.0%、準 2 級が 60.9%、3 級が 59.7%)。

スペイン語:AVE Aula Virtual de Español スペイン語オンラインコース

(Instituto Cervantes)

スペイン語を母語としない人のスペイン語運用能力を測るためスペイン文部省(スペイン国外ではセルバンテス文化センター)が実施しているスペイン語能力試験 DELE (CEFR のレベルに対応)に対応したオンラインコース。本学部では、スペイン語圏専攻 1、2 年生、スペイン語 II 履修者が A1-A2、専攻 3 年生、4 年生が B1 を使用している。B1 合格者は B2 を使用している。文法、語彙から、読解、作文などの練習にも対応している。視聴覚問題が豊富で、使用されている会話やナレーションの速度がネイティブに準じるため、難易度は高いがヒアリング力向上には効果的である。またスペインのスペイン語だけでなく、ラテンアメリカのスペイン語も使用されている。スペイン語圏の文化や社会、歴史についての知識も身につけられる。

【利用状況】平成 26 年 5~6 月にかけて、6 回ガイダンスを実施。専攻語学科目、全学共通科目「スペイン語 II」の担当者に ID を配布し、「外国語授業改善研修会」において担当者に説明している。1、2 年生の語学の授業によっては AVE を課題として指示しているクラスもある。と

くに、長期休業期間に既習事項の復習や、聴き取り能力を伸ばすには効果的である。秋の DELE 対策としても使用されてきたが、4 年生の使用率が低い。

ドイツ語:WORKOUT ドイツ語検定(スパーズ)

春季と秋季の年 2 回実施される「ドイツ語技能検定試験」(「独検」)対策のための e-Learning システムである。5 級、4 級、3 級、2 級、準 1 級の 5 つの級の練習問題(聴解問題を含む)が用意されている。正解率が表示され、不正解だった問題だけを後でやり直すこともできる。ID とパスワードで、自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。

【利用状況】2 年生以上の学生には、前年度と比べるとプログラムの周知が進んだ。その一方で、実際に上位級プログラムの学習を終えた学生からは、「問題数が少ない」との指摘もあった。本コンテンツは利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能であるため、さらなる内容の充実をはかり、より多くの受検者のニーズを反映させ、合格率アップへと結びつける必要がある。

平成 26 年度秋季の学内独検受検者の合格率(平成 27 年 2 月)は、準 1 級(二次試験終了後の結果)が 45%、2 級が 33%、3 級が 100%(全国平均は、それぞれ 28%、40%、56%)であった。準 1 級二次試験の合格率は前年度より上がっている、留学経験者を中心とした 4 年生が積極的に準 1 級の受験に取り組んだことがうかがえる。そこから、2 年生の 3 級の合格者がモチベーションを保って上位級を引き続き目指せるように利用環境を整えること、また、2 級・準 1 級の不合格者の苦手分野を把握して、重点的に取り組む項目を絞り込むための学習アドバイスがより一層必要であると考えられる。

なお、e-Learning と専攻授業との関連づけ(=e-Learning の段階的な学習を単位取得の要件とする)に関しては、上記の国際関係学科(ロゼッタストーン/アルク・英語)、ならびにドイツ語圏専攻(ロゼッタストーン・ドイツ語)の例が挙げられる。

ドイツ語圏専攻では、前年度に続き、1 年生の専攻語学科目の単位取得要件として、ロゼッタストーンの学習を義務づけている。前年度の通年導入の混乱に対する反省を踏まえ、平成 26 年度は 1 年生後期のみ必修としたところ、前年度の学習が消化不良で終わった現行の 2 年生(利用希望は任意)の学び直しが増え、前期は 1 年生以外のドイツ語プログラム利用者が大幅に増えた。これには、26 年度に開始したミュンスター大学夏季短期留学との相乗効果が挙げられる。留学準備のために 2 年生以上の学生がプログラムを積極的に利用する結果となった。また、1 年生の夏季にドイツ語圏留学を体験した学生にとっては、後期からのプログラム利用は帰国後のフォロー的側面をもつ。いずれせよ、後期の授業を受ける 1 年生にあっては、留学経験の有無にかかわらず、ドイツ語学習をらせん状に補完する手段としてロゼッタストーンが活用されている。

一方で今後に向けての課題もある。学生がドイツ語(だけでなく別の言語にも置きかえ可能)を学ぶ動機は、各種検定試験対策、留学のための個々人の準備を始めとして多岐にわたるため、既存の専攻の文法・購読科目、会話やコミュニケーションを重視した授業との相互作用に対して、授業担当者・管理者には準専門的、分析的な視点が求められる。ロゼッタストーンは有益なプログラムではあるが、利用者にとっては一定のニーズがある一方で、大学での専門的

知見を深めるためには物足りないなどの、内容面での「限界」も客観的に捉え、その点を踏まえた上で今後専門科目をより豊かなものとするのが不可欠だろう。

6.2. ポルトガル語学習における e-Learning の導入とその効果

高阪 香津美(国際関係学科)

教養科目（外国語）である「ポルトガル語Ⅰ（月 1：高阪担当）」、「ポルトガル語Ⅱ（木 1）」では、ポルトガル語に授業以外で接する機会が少ないことから、今年度、自習用としてロゼッタストーンの利用をすすめている。以下は、ロゼッタストーンを活用した履修者からの感想（一部）である。

ポルトガル語Ⅰの履修者の感想

- ・ マイクを持っていないと家でできない。
- ・ 最初の項目を 1 個だけやってみました。実際に発音してことばを覚えるもので、とても覚えやすく実用的だなと思いました。
- ・ 初めのうちは習っていない内容が多くて戸惑いながらやっていたが、授業が進むにつれて意味を理解することができた。ロゼッタストーンだと発音練習も正確にできて良いと思う。同じことを何度も繰り返してやるので自然と覚える。しかし、綴りだけは書かないとだめだと感じた。
- ・ 文法については、反復練習ができるので良いと思う。発音について、どこがよくなくて合格できてないのかわからないので改善しようがないから時間がかかってしまう。

ポルトガル語Ⅱの履修者の感想

- ・ いろんな言語に挑戦出来るのが素晴らしいです。これだけで全て賄えるわけではなく、テキストや辞書がないと困るし、最終レベルもそう難しくはないのですが、でも、声を出して練習する習慣がつくのと、繰り返す事で新しい単語が増えたりしてとてもいいと思いました。
- ・ 他の教材ではなかなかできないリスニングとスピーキングの練習ができるところが良いと思います。しかし、文法別にはなっていないので、例えば不完全過去を集中的に練習したくても、そのように選択できないことが不便でした。気晴らしに他の言語をやりましたが、未知の言語でも画像が同じなので予想ができて面白かったです。

上記のように、実際にロゼッタストーンを活用するポルトガル語履修生の感想から、教材の使用に際して、あるいは、教材そのものの構成に関して、いくつか課題は見られるものの、週に 2 回という限られた授業時間数において、扱う学習項目も数多くあり復習にそれほど多くの時間が割けない中で、授業以外で取り組むロゼッタストーンでの

「反復練習」が文法を定着させること、語彙量を増やすこと、正しい発音を身につけること等、総合的な外国語学習に効果をもたらしている様子がみてとれた。また、ロゼッタストーンで学習することが、ポルトガル語だけでなく、その他の外国語に対する関心へとつながり、履修生の多言語学習への足がかりとなっている事例もみられた。以上の効果から、今後も外国語の自律学習の助けとして、ロゼッタストーンをはじめとする e-Learning 教材を上手に活用してもらいたい。

7 アドバイジング

7.1. 語学学習アドバイジング

寺澤 君江 (iCoToBa 語学学習アドバイザー)

外国語学習のサポートを目的とした多言語学習センター開設以来、iCoToBa に所属し、センターに常駐している。昨年度に引き続き、今年度も外国語学部の学生を対象とした検定対策講座に加え、海外留学を見通した外国語学習および留学後のフォローアップ、TOEIC、TOEFL、IELTS などの検定試験対策などに関するアドバイジングおよびセッションを展開している。学生が語学力向上を目指して iCoToBa を利用する際、気軽に相談できる柔軟なカウンセリングタイムの設定、学生からの要望に沿う学習アドバイスの内容、他の外国人教員達との外国語学習に関する情報交換などを心がけている。週 6 回の学習アドバイジングアワーで行ったカウンセリングおよびセッションの内容を以下に報告する。

留学準備としての語学学習

英語圏留学に際して、学部留学希望者は英語力の証明として TOEFL または IELTS のスコア提示を留学希望校より求められる。そのため、語学留学ではなく、大学学部留学を実現させたいという強い希望をもった学生が受験準備に関してアドバイスを求めることが多い。

昨年度に比して、今年度は留学のための TOEFL/IELTS 受験に関する質問が多かった。9 月に学内にて TOEFL ITP を実施したことが留学意欲を喚起したのではないだろうか。TOEFL 受験においては、入学して間もない 1 年生が、特に熱心に取り組んでいたように思われた。昨年度は、留学するために受験する試験にはどんなものがあるのか、といったような基本的な内容の相談が多かったが、今年度は、スコアを上げるために、どんな勉強方法があるのか、どのような問題集を使うとよいのか、というような実地的な質問や相談が目立っていた。

また、語学学習に関するアドバイジングは原則として、こちらから働きかけるのではなく、学生の方からの申し出によって成り立っている。そのため、必然的に、かなり意欲の高い学生を相手にすることになる。したがって、「単語を覚えましょう」「問題集をやればスコアがあがります」というような抽象的な助言を学生が求めているわけではない。受験日までの限られた時間の中で、目標スコアを達成するための最短の方法を学生に提示し、結果を出すよう導くことが求められている。学生の語学力における弱点、学習スタイル、性格等、様々な角度からその学生の傾向をとらえ、アプローチしていくことが、目標スコアを効率的に達成するためには必要であると考えている。アドバイジングにおいて、その学生をよく理解することが非常に大切であると痛感することが多かった。

TOEIC スコアアップに関する助言

グローバル人材プログラム修了要件のひとつに TOEIC などの検定試験のスコアがあり、学生

の英語学習の動機づけのひとつとなっているため、スコアアップに関するアドバイスを求められることは多い。この場合の目標スコアは 730 または 800 である。それに加えて、就職活動時に語学力の証明として TOEIC スコアを提出するため、TOEIC 受験までの短期間に英語力を伸ばすことを望む学生から相談されることもある。その際、学生は目標スコアを 900 に設定することが多い。また、中学校および高等学校の英語教員志望の学生からは、採用試験受験時、TOEIC スコアを提出してもよいと、就職試験対策の一環としての TOEIC 受験に対するアドバイスを求められることもある。同じく目標スコアは 900 (愛知県:860 名古屋市:900)である。このような場合、総合的な語学力強化というよりも戦略的かつ集中的にスコアのアップを達成することが学生にとっては急務の課題である。

スコア 900 を狙う学生へのアドバイスにおいて心がけたことは、次の 2 点であった。語彙力を強化すること、使用されている英語の違い(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリアなど)に敏感になることである。そのために TOEIC だけをターゲットにした学習ではなく、様々な角度やスタイルで語彙を習得する方法をアドバイスし、その進捗状況を確認していった。スコア 900 を目指す学生は、就職先も海外志向の強い企業または外資系企業を希望しており、未来のグローバル人材としての可能性を感じる。語学学習アドバイスがグローバル人材育成推進につながるととらえ、そういった学生を目の前にするたび、アドバイザーとしての使命感を確認している。

アドバイスの多様性

語学学習アドバイス時に、学生からの留学全般および卒業後の就職先に関する質問がめだつ。語学学習アドバイスの域を超えているため、対応しかねることが多かったが、参考までに具体的な相談内容をここに挙げておきたい。

留学先はどんな条件で選べばよいか、協定校への留学とそうでない大学への留学の違いは何か、大学を選ぶ際の目安、留学先を決めた後に現地の大学とはどのように交渉するのがよいか、留学資金について、などが主だったものとして挙げられる。奨学金の申請条件に英語力証明(TOEIC/TOEFL/IELTS などのスコア)が必要であれば、それに関する情報やヒントを提供するが、原則的には、iCoToBa 常駐の留学コーディネータからアドバイスを得ることになるため、留学コーディネータとの連携を大切にしている。また、留学手続きの際のやりとりや志望動機書などの書類作成で細かなアドバイスが必要な際は、iCoToBa 所属の留学予定国出身の外国人教員からも助言を得られるようにコーディネートすることが多かった。

まとめ

平成 26 年度は多言語学習センター iCoToBa 開設 2 年目であり、昨年度よりは計画的かつ柔軟に学生対応が展開できていた。その理由として、学生の傾向やニーズが前年より把握しやすかったということが考えられる。しかしながら、学生の海外志向が高まりつつある中、外国語学習におけるアドバイスのあり方は、まだまだ改善していく余地があると思われる。検定で高スコアを上げるだけでなく、高スコアを上げた後、または、留学を終えた後の学習アドバイスにも重点を置きたい。次年度は、今年度以上に学習アドバイスが学生の要望に沿ったものとして機能するよう、また、多言語習得の可能性を高められる要素の強いものとなるようにしたい。

7.2. 留学アドバイザー

大山 守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)

2年目を迎えた留学アドバイザー業務は、昨年の反省を踏まえて、積極的に学生たちとの情報交流を進めることにした。具体的には、1年生及び2年生の全員との面接時間を設定して、彼らの希望とニーズを把握し、より多くの学生が留学へと飛び立てるよう啓蒙につとめた。

4月の第1週から、毎週25人の学生に対し15分ずつの面接時間を設定し、①これまでの留学体験(短期も含む)、②語学資格の取得状況、③在学中の留学計画、④卒業後の進路希望を中心に個々の学生の情報を収集し、それに合わせた留学先選びの手伝いをした。前期に2年生との面接を行い、後期に1年生との面接を行ったが、強制ではないため面接参加率は学科間で差が出た。案内を徹底する方法が見つからず、学部ごとに別々の対応となったことも参加率の差となったことも否めない。次年度は、1年生の入学直後からスタートし、全員との面接ができるように、さらにきめ細かな対応を考えたい。

各学科・学年の参加率は次の通りである。2年生は91%(国際関係、スペイン…100%、英米、フランス…90%、ドイツ、中国…80%)、1年生が89%(スペイン、ドイツ、国際関係…90%、英米、フランス、中国…80%)である。男子学生の欠席率(27%)が女子学生(14%)の倍であることや、学業成績がふるわない学生の欠席率が高かったことも予想通りであった。

留学に関する意向を聴取することで、本学の学生たちの傾向を把握し、今後の協定校開発にいかしたいということがこの面接のねらいのひとつであったが、その結果は表3のとおりである。

[表3 在学中の留学に関する希望調査結果]

		年間留学希望	短期(1ヶ月前後) 留学希望	留学に興味がない (わからない・欠席含む)
2 年 生	英米	61%	23%	16%
	フランス	70%	14%	16%
	スペイン	80%	10%	10%
	ドイツ	68%	12%	20%
	中国	40%	20%	40%
	国際関係	60%	25%	15%
1 年 生	英米	66%	12%	22%
	フランス	76%	8%	16%
	スペイン	84%	8%	8%
	ドイツ	80%	8%	12%
	中国	56%	10%	34%
	国際関係	56%	20%	24%

表3から推測できるのは、ヨーロッパ学科(特にスペイン語圏専攻)の学生の留学志向は他

よりも高いのに対し、他の3専攻は留学志向が少し低いということである。大学受験の学科・専攻選びの段階で、この学科・専攻で何かを勉強したいという動機よりも、自分の成績ならこの学科・専攻という選択をしたと答えた学生が少なからずいたので、それが理由として考えられる。ヨーロッパ学科の中にも、本当は英語がやりたかったからと、留学先を英語圏としている学生が2割近くおり、専攻言語とのはざまで悩んでいる様子も見られた。

いずれにしても、1年生で70%、2年生で65%の学生が1年間の留学を希望しており、大学としてはこれに対応する必要がある。さらに協定大学を増やして、できるだけ多くの学生が単位のとれる大学に留学できるよう整備を行うべきである。

今回全員面接を行ったことで、再相談への壁が低くなったのか、何度も訪問する学生が増加し、内容も具体的になり、学生たちの留学希望情報は充実し(データベースで整備)今後の指導に資するものになった。

国際交流室の相談業務との棲み分け(漠然と留学を考えている学生には iCoToBa、具体的に留学先が決まったら国際交流室)も明確になり、重複業務の削減が進んだ。学科内の相談体制で足りない部分も補うことができたはずだが、更なる情報共有を通じてよりよいサービスを提供できるので、今後も改善を続けたい。

8 学生活動

iCoToBa Supporters Club (ISC) (岡崎まどか)

iCoToBa Supporters Club (ISC) は、2013 年秋に iCoToBa イベントの企画・運営を主体となつて行う団体として発足し、今年度は以下 1～6 の活動を行った。manaba 上にある ISC コミュニティのメンバー数は 55 名である。イベントごとに学生が活動を計画し、iCoToBa を盛り上げることができた。具体的には、イベント企画、ポスター作成、参加者の募集、準備、当日の運営、後片付け、精算処理を行った。それぞれのプログラム内容については、第 4 章の 2014 年度 iCoToBa 開催イベント(pp. 83-89)を参照されたい。

- 1) 留学生 Welcome Party 春
- 2) 中国交流会
- 3) Australian BBQ
- 4) 留学生 Welcome Party 秋
- 5) 餃子パーティ
- 6) 書初め大会

ISC メンバーからのコメント

ISC の活動の中で私が一番魅力を感じるところは、他のメンバーと一緒に一つの目標に向かって奮闘できることです。大学生活のほとんどが個人プレーで、大学の仲間と共に何かを成し遂げる機会は少ないと思います。その中でこのようにイベントを企画し、多くの人に交流の場を提供できたのはとてもやりがいがありました。活動の際、いつも優しく気さくにサポートしてくださった方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、私たちの活動を見て、イベント企画の面白さに気がつき、取り組みたいと思う人が少しでも増えていれば幸いです。

また、私個人の意見としては、企画を複数回に渡って挑戦することで自分の中で改善点などが見え、それを次の機会に活かすことができるので、同じメンバーで複数回企画をするのも良いのではないかと感じました。(中国学科 4 年 小田久美子)

問題点と今後の課題

現在、限られたメンバーのみが活動している状態である。また、昨年度のリーダーが休学中のため、組織としてのまとまりがない。参加費を徴収した際の精算処理等も職員の補助が必要である。長期的に ISC を存続させ、学生主体の活動を広げるためには、メンバーの固定化と基盤となる組織構築が必要不可欠である。来年度は、ISC メンバーを再度募集し、年間計画、定期的な会議の開催、役割分担をする。



自主学習活動(岡崎 まどか)

ドイツ語、ポルトガル語の自主学習活動が iCoToBa iLounge にて行われている。現在、2グループのみの活動に留まっているが、学生からの申請があれば、積極的に iCoToBa の利用を許可し、自主学習を行えるように支援していく。

ドイツ語サークル

活動日：毎週木曜日、金曜日

活動内容：

学習したドイツ語の練習、語彙力強化、ドイツ語のボードゲーム、ビデオ鑑賞、学生からの質問に留学生が答えるなど、様々な方法で自主学習を行っている。メンバーは、ドイツ語圏専攻2年生と、ドイツ人留学生で構成されている。iCoToBa は、学生が集まりやすく、ホワイトボードや可動式のテーブルなど施設面でも充実しているため、活動場所として利用されている。



ポルトガル語研究会(高等言語教育研究所 学生自主活動支援グループ)

活動日：金曜日 12:00～12:40

活動内容：

DVD 鑑賞やテキストを使用して自主学習、日系ブラジル人学生から生のポルトガル語を教わっている。学生が集まりやすいという理由で活動は iCoToBa で行った。活動中にブラジル国旗を掲示していると、メンバーではない学生や教員からも声掛けられ、交流の輪が広がった。

9 教材開発・教育実践

iCoToBa では、グローバル人材育成推進事業で目標としている能力養成を目指し、教育実践に基づく教材作成に取り組んでいる。以下、9.1.では 2014 年度に作成した教材に関する報告をし、つづく 9.2.では、カリキュラム開発報告および学会・研究会等で行った教育実践報告について述べる。

9.1. 教材開発

Survival English Course Book (Fern Sakamoto)

This course book is designed for use in the implementation of the Survival English course in the upcoming academic year. It includes detailed lesson plans, illustrated student handouts, additional activity suggestions, and compilations of useful teacher resources.

The purpose of this publication is four-fold: To share class content and facilitate greater in-house collaboration across the iCoToBa languages; to provide a copiable resource for student and teacher use; to reflect on the 2014 course and facilitate development of a more effective 2015 course, and to document the teacher's efforts to address the goals of the Project for Promotion of Global Human Resource Development through the Survival English course.

The Course Book will be published in hardcopy.

Word Power Student Book (Fern Sakamoto)

This student book is designed to accompany the Word Power class to be offered in iCoToBa in the upcoming academic year. It builds on the 2014 pilot course, to provide students with a rich source of materials to support their independent learning outside of class. The book includes self-study tips to increase student autonomy, target vocabulary, activities for in-class use, and a log of student progress through the course.

The purpose of this publication is four-fold: To share class content and facilitate greater in-house collaboration across the iCoToBa languages; to provide a take-home resource to encourage student self-study; to reflect on the 2014 course and facilitate development of a more effective 2015 course; and to document the teacher's efforts to effectively use autonomous study techniques and computer-assisted learning to heighten student development of their own

The Student Book will be published in hardcopy.

Global Inquiries (Brett Hack)

Global Inquiries will be a compilation of student essays from Brett Hack's advanced English course, "What is Global, Anyway." The course was an immersion-style CLIL course that examined how language, politics, economy, culture, and identity are changing as they enter

a global frame of reference. Students read authentic theoretical works from such disciplines as anthropology, sociology, psychology, and media studies. They discussed these ideas in connection with case studies taken from all over the world. The primary goal was to develop an understanding of the global forces at work in the daily lives of regular people.

For the final assignment, students chose a theoretical concept to apply to a social phenomenon of their choice and composed academic essays on the topic. The final third of the course was dedicated to preparing these essays. Student essays underwent a painstaking writing and editing process that urged them to not only improve their writing skills but also to develop a more critical stance to the topic itself. The essays were also required to adhere to strict documentation and citation requirements. The final results will form the material of *Global Inquiries*, with an introduction by the instructor which will explain the philosophy, structure, and goals of the course.

Global Inquiries will be published in academic journal format with a color title page. It will contain twelve essays averaging three pages each, as well as the introduction. Copyright laws permitting, it will also include illustrative photographs to accompany certain essays. Copies will be distributed to the participating students, as well as to other departments as a promotion tool for iCoToBa programs. It is hoped that this publication will encourage content teachers to forge links with language instruction and work towards a more integrated university curriculum.

Haikuschrift (Morten Hunke)

The Haikuschrift titled journal will be showcasing student work from two courses for first year students in semester 1 and 2. In these course students were required to write haiku and tanka in German on a regular basis. The students themselves chose the haiku/tanka selected for the journal, from the entirety of their work volume over the year. In order to make the German language poetry pieces more accessible to the reader the students themselves translated them into Japanese. Each student chose five haiku/tanka for publication. One student only will be represented with her winning entry to a German language haiku competition run by the DAAD (German Academic Exchange Service), the Goethe Institut, in collaboration with the Kyoto Women's University:

<http://deutschehaikukyoto.com/2015/01/29/und-hier-die-gewinner-haiku-2014/>

The journal first and foremost is meant to showcase the students' dedication and effort in producing works of poetry in the course of their journey in making first steps in a new foreign language. The haiku/tanka will be represented amicably complemented with an unobtrusive layout. Students themselves will receive a number of copies of this piece of work, which they can then choose to show to friends and family. The Japanese language translations will make appreciating the works possible even to people without command of the German language. The journal will contain a brief introduction hinting at the (multiple) didactic and methodological considerations the writing of haiku/tanka in the target language German has been selected for throughout the course. The introduction will be held in English.

The Haikuschrift will be published both as a hardcopy.

中日文化比較 -中国と日本の文化比較 (顧令儀)

本教材は日中文化比較の講義での使用を想定して作成したものである。これまで日中文化比較の授業では、スライドを使って両国の文化を比較していたが、授業でとりあげる固有名詞が多く、メモを取るのに時間がかかるという問題があった。また、学生のメモの取り方を観察する限り、学生が系統的な復習をすることも困難ではないかと考えられた。以上の問題意識に立ち、学生が理解できる簡単な文型で書かれた日中文化比較に関する教材作成に取り組んだ。

本教材は全 13 課で構成され、自然環境から歴史風習、現代社会、人間関係まで、固有名詞をとりあげながら、日中両国文化を比較し理解を深めることを意図されている。本教材の特徴は、学生が既習文型を使って、練習問題に取り組むことにより、日本文化を紹介できるよう構成されていることである。本教材を用いることにより、教師が一方的に教えるのではなく、学生の主体性を引き出し、文化の理解を目指しつつ、語学力を高めることができる。

9.2. 教育実践に関する報告

Teaching Intercultural Competence: More than Just Culture

(Fern Sakamoto)

This presentation was delivered at the JALT 2014 National Conference held at Tsukuba International Congress Center. The presentation took place on November 23rd 2014, before an audience of 46 conference attendees.

The presentation addressed the question of how English teachers should be striving to enhance the intercultural competence of students, with specific focus on issues of cultural understanding in an increasingly global world. The speaker addressed such questions as “Which culture should we be teaching?” and “What is the target culture of English?”, introducing her “inside-out” approach as a useful method in teaching cultural understanding. The presentation introduced the J-Ambassador course and provided specific examples of strategies students can learn to improve their communicative fluency.

The twenty minute presentation was followed by an extended question and answer period. The audience response was extremely positive, with many staying well beyond the completion of the official session in order to ask further questions, exchange business cards, and suggest future alliances. Contacts made during this time are expected to be useful in setting up new projects for the J-Ambassador class in the 2015-2016 academic year. The presentation was a valuable learning experience and rich source of feedback, ideas and contacts for use in future course development.

Critical Thinking and EFL at the University:

Towards a Trans-Disciplinary Language Classroom (Brett Hack)

This presentation was given by Brett Hack at the 2014 JALT (The Japan Association for Language Teaching) National Conference, held November 21st-24th 2014 in the Tsukuba International Congress Center in Tsukuba, Ibaragi Prefecture. The conference had around 2,000 attendees from all over Japan and from abroad. Although the presentation was given on the final and least populated day of the conference it attracted a healthy audience of about 20 members. The talk was well received by the attendees, who afterwards offered many supportive comments and constructive ideas. This led to a stimulating post-presentation discussion that continued for the whole of the allotted time slot.

The presentation was an argument for university English language teachers in Japan to consider themselves full participants in the project of university education. It characterized the trend of incorporating critical thinking and content instruction into EFL courses as part of a broader process of integration within the humanities and social sciences referred to as a *trans-disciplinary* approach to knowledge. Utilizing sources from the humanities and social sciences as well as from applied linguistics, it described how contemporary foreign language classrooms are naturally trans-disciplinary and can serve as an ideal places to develop students' social engagement and critical thinking skills. Signification attention was given to the presenter's efforts at creating content-based courses which explicitly recognize and exploit this potential. The iCoToBa multilingual learning center's activities featured largely in this section of the presentation. iCoToBa was characterized as a place of freedom and discovery for outward-looking students.

As stated above, the presentation was a success among the attendees, and resulted in Mr. Hack's being invited to speak at both the Nagoya and Gifu chapters of JALT in March 2015. This success testifies to the strength of iCoToBa's integrative philosophy and the wide-scoping value of its courses.

Presentation at Aichi Prefectural University Faculty Development Meeting (Atsumi Miyatani, Brett Hack, Fern Sakamoto)

This presentation was given to the faculty members of the School of Foreign Studies at Aichi Prefectural University on January 28th 2015 as part of the faculty development program. The topic for this session was the teaching methodology known as PBL (interpreted as both "problem-based learning" and "project-based learning.") The session featured professors from different departments presenting courses geared towards developing students' teamwork skills and problem-solving abilities. iCoToBa was given the chance to present its activities in Japanese.

iCoToBa's presentation began with director Atsumi Miyatani's introduction of iCoToBa's principles. She described how PBL methods were integrated into its curriculum requirements, focusing on the global human resource program's three required categories: 日本紹介, リサーチ発信プロジェクト, and 比較文化セミナー. She also mentioned the teaching philosophy

of CLIL (content and language integrated learning) as motivating much of iCoToBa's PBL courses.

After the introduction, iCoToBa English instructors Brett Hack and Fern Sakamoto presented examples from their courses in detail. Brett Hack first described his リサーチ発信プロジェクト course, "Research Project and Presentation." He focused on how the course put an emphasis on planning and teamwork, as well as on the high degree of student freedom the course allows. He concluded the section by showing some examples of student projects. After this, he moved on to describe his 比較文化セミナー course, "What is Global, Anyway?" He focused on how the course embodies CLIL principles and encourages the development of critical thinking skills. He finished by presenting the final printed course volume, to which the students contributed essays. (See Section 9.1 of this report.) Fern Sakamoto concluded the presentation by describing her 日本紹介 course, "J-Ambassador." She explained how the course encouraged students to reject stereotypical ideas of Japan and to become more aware of the cultural filters that inform their views of the world. This change of attitude includes reducing students' reliance on dictionaries and pushing for natural language use. She gave detailed descriptions of J-Ambassador's many PBL activities, including student projects prepared in Japan and conducted at the University of East Anglia in Britain, as well as a printed Nagoya guidebook prepared for the UNESCO ESD World Conference. She concluded her presentation by describing her future plans for the course.

The presentation was an excellent chance to raise awareness of iCoToBa's activities among the faculty of Aichi Prefectural University. The presenters were personally congratulated by the research director, who informed them that the faculty members had become interested in collaborating with iCoToBa teachers.

日本における多言語主義と多文化主義: その将来と課題

(ダレン モルガン)

8月7日(木曜日)13:00~16:50に開催された、第16回言語教育研究会にて発表した。平成25年4月からスタートした「グローバル人材プログラム」およびそのために新設された多言語学習センターiCoToBaのこれまでの実績と今後の有用性、若い世代がグローバル社会で積極的に活躍し、そのために必要な能力を養うために、大学の語学教育はどのような変革に挑んでいくべきかについて検討した。さらに、外国語を学ぶための「モチベーション(動機づけ)」の重要性、とりわけ外国語学習における内発的動機づけに注目した。

10 広報活動

10.1. web による広報活動

寺澤 君江 (iCoToBa 語学学習アドバイザー)

HP 開設

iCoToBa (多言語学習センター) の利用促進、外国語学習に役立つ施設となるための補助的機能を果たすべく、施設のスタートと同時にホームページ(以下、HP)が開設され、現在に至っている。

HP は、多言語学習のサポート、留学のサポート、各種学内外のイベント情報を提供する場として機能している。

コンテンツ

iCoToBa HP のコンテンツは、iCoToBa の基本情報、最新情報に関するページとスタッフおよび学生参加型の情報発信に関するページから成る。それぞれのページの内容は以下の通りである。

[情報提供・共有型]

1) スタッフ紹介

本学 iCoToBa 教員紹介、学生たちへのメッセージ(目標言語、日本語にて表示)

2) プログラム紹介

iCoToBa で開講されている各言語の授業の紹介(目標言語、英語、日本語にて表示)

3) イベント紹介

iCoToBa で行われている年間イベントについて紹介

4) e-Learning へのリンク

本学学生が利用可能な各種 e-Learning 教材へのリンク

5) iCoToBa Wiki

本学教員による外国語学習や留学に関するアドバイスや経験に関するメッセージ

[情報発信・参加型]

1) iCoToBa スタッフブログ

iCoToBa 教員による授業やイベントなどについての日常的な事柄に関する情報。多言語(英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、日本語)で表記している。

2) Students' Voice

iCoToBa の授業、イベント、報告会等に参加した学生のそれぞれに対するコメントの紹介

問題点と今後の課題

今後、さらに HP のコンテンツの充実をはかること、そして、情報発信の頻度を上げ、学生への情報共有を促進し、より活発な情報交換をしていくことが課題である。

例えば、iCoToBa Wiki は外国語学部教員参加型の情報提供の場であり、学生の外国語の学習および留学に対する意欲喚起をねらっている。しかし、まだ十分な内容とはいえず、今後も拡充が必要である。

また、iCoToBa スタッフブログでは、多文化理解および外国語習得に対する動機づけをはかることを目標としている。ブログ記事を通じ、iCoToBa スタッフに親近感をもち、施設利用の活発化を期待している。また、学生に iCoToBa への所属意識を持たせることを狙っている Students' Voice では、iCoToBa 運営に積極的に関わる学生達为中心となり、授業やイベントに対する意見や感想を発信している。

iCoToBa Wiki やブログは更新型であるため、タイムリーに情報やコメントを加えることが大切であるにも関わらず、十分に対応できないこともある。ただ、タイムリーな情報提供や意見交換については、すでに manaba 内コミュニティなどで活発に行われている。今後は、そこでの議論を iCoToBa Wiki に格上げするなど、方法を少し考えなければならない。

これら拡張可能なコンテンツについては、学生たちの多言語学習に対する意識の向上およびグローバル社会への人材育成推進のための一助として、今後さらに充実させていく必要がある。学生のニーズを満たす内容をタイミングよく提供できるよう、提供する側の意識を高めることが急務である。

10.2. manaba コミュニティ:みんな集まれ iCoToBa 広場

岡崎 まどか(グローバル人材育成推進室)

コミュニティの概要

2013 年度に manaba 上に iCoToBa の情報を発信するコミュニティを設立した。コミュニティでは iCoToBa の授業、イベント、施設案内を随時掲載し、情報提供をしている。iCoToBa の利用方法や外国語学習や留学についての案内、質問への受け答えにも対応する。iCoToBa に関するすべての情報を得られる場にするを目的とした。2014 年度も引き続き情報発信を行った。

メンバー数と内訳

「みんな集まれ iCoToBa 広場」に参加しているメンバーは 269 名である。内訳は、学生 253 名(1 年生 201 名、2 年生 24 名、3 年生 13 名、4 年生 15 名)、教職員 16 名である。(2015 年 1 月 31 日現在)

スレッド内容

コミュニティのスレッドの内容は、iCoToBa HP と同じ場合が多い。そこで、昨年同様、アカウントを保持している学生のみが閲覧できるという manaba の特性を生かし、同様の案内でもコミュ

ニティのスレッドでは、より親しみやすい書き方をし、堅苦しい雰囲気が出ないようにした。コミュニティは、一方的な情報発信の場ではなく、学生と教職員のコミュニケーションの場として機能する場を目指す。更新頻度は、ひと月あたり平均 5 回であった。

[スレッドの例]

- ・国際交流イベントのお知らせ
- ・2014 年度 iCoToBa 授業
- ・iCoToBa 受講登録方法について
- ・iCoToBa サマープログラム
- ・高等言語教育研究所講演会のお知らせ
- ・メイト(台湾からの留学生のお手伝い)募集
- ・iCoToBa で学部紹介ビデオ撮影
- ・12/10(水) 日中餃子交流会☆開催します！
- ・JICA India-Japan Event
- ・HP 更新情報、耳より情報
- ・イベント報告

成果と課題

メンバー数は昨年度の 5 倍以上となり、多くの学生へ向けて情報を発信できる場となった。また、教職員からの案内だけでなく、学生主体でのイベントでも manaba の活用を推奨し、活動を記録することを目指した。iCoToBa Supporters Club (ISC) の学生がイベント案内の掲載や、イベント報告を、写真を交えて行うことができた。今後は、メンバー数の更なる拡大と、学生や教職員からの情報発信をさらに頻繁に行うことを目標とする。

11 資料

11.1. iCoToBa 学部・学科別利用者一覧

2014 年 4 月から 12 月までの iCoToBa 利用者一覧を下に示す。

[外国語学部生]

入学年度	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際関係	計
2014	369	266	783	619	291	399	2,727
2013	305	112	907	556	155	205	2,240
2012	59	45	92	30	26	194	446
2011	125	29	42	76	194	38	504
2010 以前	25	40	19	85	14	25	208
計	883	492	1,843	1,366	680	861	6,125

(人数はのべ数)

[外国語学部以外の学生]

入学年度	日本文化学部		教育福祉学部		情報 科学部	大学院	交換 留学生※	計
	国語国文	歴史文化	教育発達	社会福祉				
2014	11	13	1	8	9	8	309	359
2013	7	6	1	0	6	5	70	95
2012	5	1	0	1	0	2	0	9
2011	0	0	0	0	1	8	0	9
2010 以前	0	0	0	0	0	6	0	6
計	23	20	2	9	16	29	379	478

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す (人数はのべ数)

11.2. iCoToBa 開講授業

2014 年度に iCoToBa で開講した授業一覧を下に示す。なお、各表左端の列「指定」の「○」は、外国語学部「グローバル人材プログラム」指定科目であることを示している。

[2014 年度前期 iCoToBa 開講授業一覧]

指定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
	サバイバル英語「こんなとき、なんて言う？」	Survival English	A2-B2/ 初中級-中上級	21
	会話のこつ	Conversation Strategies	B1-C1/ 中級-上級	19
○	英語で日本 PR プロジェクト - 日本の魅力を発信しよう！ UEA 留学準備コース 1	J-Ambassador (UEA 1)	B1-C1/ 中級-上級	29
○	英語で日本 PR プロジェクト - 日本の魅力を発信しよう！ UEA 留学準備コース 2	J-Ambassador (UEA 2)	B1-C1/ 中級-上級	
○	英語で日本 PR プロジェクト - 日本の魅力を発信しよう！	J-Ambassador	B1-C1/ 中級-上級	24
○	グローバルリーダー	Global Leader	B2-C1/ 中上級-上級	14
	英語で授業を聴いて ノートを取る	Academic Listening & Note-taking	B2-C1/ 中上級-上級	2
	英語でディベート	Debate	B2-C1/ 中上級-上級	6
	英語で小論	Short Essay Writing	B1-C1/ 中級-上級	9
	1 分間スピーチを練習しよう！	One-minute Speech	A2-B2/ 初中級-中上級	7
○	今日のニュースについて 話そう！	Today's Top News	B2-C1/ 中上級-上級	15
	発音練習 1	Pronunciation Profiles 1	A2-B1/ 初中級-中級	26
	発音練習 2	Pronunciation Profiles 2	A2-B1/ 初中級-中級	22
	会話コーチ 1	Conversation Coach 1	A1-B1/ 初級-中級	26
	会話コーチ 2	Conversation Coach 2	B1-C1/ 中級-上級	16
○	比較文化セミナー： 英語圏を知りつくそう！ 1	Comparative Study of Cultures:The English-Speaking World 1	A2-B1/ 初中級-中級	24
○	比較文化セミナー： 英語圏を知りつくそう！ 2	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	B1-B2/中級-中上級	20
○	プロジェクトワークを行って 発表しよう！ 1	Research and Presentation Project 1	A2-B1/初中級-中級	11
○	プロジェクトワークを行って 発表しよう！ 2	Research and Presentation Project 2	B1-B2/中級-中上級	20

○	プロジェクトワークを行って 発表しよう！3	Research and Presentation Project 3	B1-B2/中級-中上級	17
	実際に使える英語表現・ イディオム	Real-Life Expressions and Idioms	A2-B1/初中級-中級	26
○	映画で社会を検討しましょう！	Society Through Film	C1/上級	15
	検定試験対策講座 TOEIC 1	TOEIC Intensive 1	A2-C1/ 初中級-上級	17
	検定試験対策講座 TOEIC 2	TOEIC Intensive 2		21
	検定試験対策講座 TOEIC 3	TOEIC Intensive 3		5
	検定試験対策講座 TOEIC 4	TOEIC Intensive 4		22
	検定試験対策講座 TOEFL	Strategic TOEFL		15
	検定試験対策講座 IELTS	Successful IELTS		11
	検定試験対策講座 Vocabulary 1(I)	Vocabulary for Exams 1 (I)		3
	検定試験対策講座 Vocabulary 1(II)	Vocabulary for Exams 1 (II)		3
	検定試験対策講座 Vocabulary 2(I)	Vocabulary for Exams 2 (I)		13
	検定試験対策講座 Vocabulary 2(II)	Vocabulary for Exams 2 (II)		5
	個別講座 1	Academic Session (Customized Tutorial) 1	個別	6
	個別講座 2	Academic Session (Customized Tutorial) 2	個別	1
	個別講座 3	Academic Session (Customized Tutorial) 3	個別	6
	個別講座 4	Academic Session (Customized Tutorial) 4	個別	1
	とっさのフランス語 基礎	Le français tout de suite.	A1/初級	31
○	フランス語圏なう。	La francophonie aujourd'hui.	A2-B1/初中級-中級	6
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui.	A2-B1/初中級-中級	6
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et présentation I	A1-A2/初級-初中級	14
	めざせ仏検準2級	Cours de préparation au DAPF - jun 2 kyu	A2/初中級	13
	めざせ仏検準1級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B1-B2/中級-中上級	7
	ちょっとチャット フランス語 I	Petite discussion en français I	A1-A2/初級-初中級	12
	ちょっとチャット フランス語 II	Petite discussion en français II	B1-B2/中級-中上級	7
	アトリエ・ドゥ・フランセ初級	Atelier de français I	A1-A2/初級-初中級	9
	アトリエ・ドゥ・フランセ中・上級	Atelier de français II	B1-B2/中級-中上級	6
	スペイン語圏世界と グローバルティ1	El Mundo Hispánico y la Globalidad-Grupo 1	B1-B2/中級-中上級	15

	スペイン語圏世界と グローバリティ2	El Mundo Hispánico y la Globalidad-Grupo 2	B1-B2/中級-中上級	11
○	比較文化研究 (比較文化セミナー)	Estudios Culturales Comparativos	B1/中級	10
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación 1	B1/中級	14
○	日本文化をプレゼン	Habilidades de Presentación sobre la Cultura Japonesa	A2/初中級	5
	時事問題読解	Comprensión Lectora de Noticias de Actualidad	B1-B2/中級-中上級	7
	DELE B1 対策	Preparación para el Examen DELE B1	B1/中級	29
	DELE A2 対策	Preparación para el Examen DELE A2	A2/初中級	24
	初級スペイン語	Español Básico Nivel A1	スペイン語専攻1年	49
	第2外国語としてのスペイン語	Español como Segunda Lengua Extranjera A1 alto	A1 他学科・専攻コース	10
	ドイツ日常語と実践会話 I	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1/初級	30
	ドイツ日常語と実践会話 II	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches II	A1/初級	25
	ドイツ日常語と実践会話 III	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches III	A2/初中級	20
	ドイツ日常語と実践会話 IV	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches IV	A2/初中級	6
	ドイツ日常語と実践会話 V	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches V	A1-A2/ 初級-初中級	25
	検定試験対策	Testvorbereitung	A2-C1/ 初中級-上級	4
	発音、パフォーマンス	Aussprache und Performance	A2-C1/ 初中級-上級	13
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2/ 初中級-中上級	10
○	ドイツの文化、サブカルチャー	Kultur, Subkultur, Esskultur	B1-C1/ 中級-上級	3
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Forschungs- und Präsentationsprojekt 1	A2-B2/ 初中級-中上級	14
	発音特訓講座 a	学发音 a	A0/入門	51
	発音特訓講座 b	学发音 b	A0/入門	
	発音特訓講座 c	学发音 c	A0/入門	
	発音特訓講座 d	学发音 d	A0/入門	
	発音特訓講座 e	学发音 e	A0/入門	
	発音特訓講座 f	学发音 f	A0/入門	

○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2/初中級	6
○	中国と日本の比較文化	中日文化比较	A2/初中級	11
	実践中国語上級編	汉语常用语 上級	A2/初中級	8
○	リサーチ・発信プロジェクト①	实践调查与报告 1	B1/中級	7
	中国語複文トレーニング	学习汉语关联词	B2/中上級	2
	慣用句で 中国語リアルフレーズ	常用汉语习惯用语	B2/中上級	5
○	リサーチ発信プロジェクト②	Research and Presentation Project ②	A2-B2/ 初中級-中上級	4
○	学生共同プロジェクト	Group Work Project	A2-C1/ 初中級-上級	18
○	留学体験発表会	Presentation of Study Abroad Experience	A2-C1/ 初中級-上級	26

[2014 年度後期 iCoToBa 開講授業一覧]

指定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
	サバイバル英語	Survival English	A2-B2/ 初中級-中上級	25
	ニュースで英語	News English	B1-C1/中級-上級	1
	ワードパワー！	Word Power	A2-B2/ 初中級-中上級	8
○	英語で日本 PR プロジェクト - 日本の魅力を発信しよう！1	J-Ambassador 1	B1-C1/ 中級-上級	19
○	英語で日本 PR プロジェクト - 日本の魅力を発信しよう！2	J-Ambassador 2	B1-C1/ 中級-上級	16
○	グローバルリーダー	Global Leader	B2-C1/ 中上級-上級	5
	アカデミック リスニング	Academic Listening	B2-C1/ 中上級-上級	8
	ディスカッション & ディベート	Discussion & Debate	B2-C1/ 中上級-上級	5
	英語で小論	Short Essay Writing	B1-C1/ 中級-上級	4
	1 分間スピーチ	One-minute Speech	A2-B2/初級-中上級	9
	英語・オン・ザ・ネット	English on the Net	B1-C1/中級-上級	5
	会話コーチ: Start Off! 1	Conversation Coach: Start Off! 1	A1-B1/初級-中級	8
	会話コーチ: Start Off! 2	Conversation Coach: Start Off! 2	A1-B1/初級-中級	2
	会話コーチ: Move On! 1	Conversation Coach: Move On! 1	B1-C1/中級-上級	6

	会話コーチ: Move On! 2	Conversation Coach: Move On! 2	B1-C1/中級-上級	5
○	比較文化セミナー: 英語圏を知りつくそう! 1	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1	A2-B1/初中級-中級	24
○	比較文化セミナー: 英語圏を知りつくそう! 2	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	A2-B1/初中級-中級	20
○	プロジェクトワークを行って 発表しよう! ①-1	Research and Presentation Project ①-1	A2-B2/ 初上級-中上級	17
○	プロジェクトワークを行って 発表しよう! ①-2	Research and Presentation Project ①- 2	A2-B2/ 初上級-中上級	8
	実際に使える英語表現・ イディオム	Real-Life Expressions and Idioms	A2-B1 /初級-中級	18
	英語で理論ワークショップ	English Theory Workshop	B2-C1/中上級-上級	2
○	ちなみに、 「グローバル」って何?	What is "Global," Anyway?	C1-C2/上級以上	12
	検定試験対策講座 TOEIC Early Bird 1	TOEIC Early Bird 1	A1-C1/初級-上級	17
	検定試験対策講座 TOEIC Early Bird 2	TOEIC Early Bird 2	A1-C1/初級-上級	10
	検定試験対策講座 TOEIC 1	TOEIC Intensive 1	A1-C1/初級-上級	20
	検定試験対策講座 TOEIC 2	TOEIC Intensive 2	A1-C1/初級-上級	17
	検定試験対策講座 TOEIC 3	TOEIC Intensive 3	A1-C1/初級-上級	10
	検定試験対策講座 TOEIC 4	TOEIC Intensive 4	A1-C1/初級-上級	2
	検定試験対策講座 TOEFL 1	Strategic TOEFL 1	A1-C1/初級-上級	26
	検定試験対策講座 TOEFL 2	Strategic TOEFL 2	A1-C1/初級-上級	6
	検定試験対策講座 IELTS 1	Successful IELTS 1	A1-C1/初級-上級	5
	検定試験対策講座 IELTS 2	Successful IELTS 2	A1-C1/初級-上級	3
	検定試験対策講座 Vocabulary 1(I)	Vocabulary for Exams 1 (I)	A1-C1/初級-上級	7
	検定試験対策講座 Vocabulary 1(II)	Vocabulary for Exams 1 (II)	A1-C1/初級-上級	7
	検定試験対策講座 Vocabulary 2(I)	Vocabulary for Exams 2 (I)	A1-C1/初級-上級	8
	検定試験対策講座 Vocabulary 2(II)	Vocabulary for Exams 2 (II)	A1-C1/初級-上級	7
	とっさのフランス語 基礎	Le français tout de suite.	A1/初級	18
○	フランス語圏なう。	La francophonie aujourd'hui.	A2-B1/初中級-中級	6
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui.	A2-B1/初中級-中級	9
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et présentation I	A2-C1/初中級-上級	1
	めざせ仏検準 2 級	Cours de préparation au DAPF - jun 2 kyu	A2/初中級	3

	めざせ仏検準 1 級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B1-B2/中級-中上級	11
	ちょっとチャット フランス語 I	Petite discussion en français I	A1-A2/初級-初中級	7
	ちょっとチャット フランス語 II	Petite discussion en français II	B1-B2/中級-中上級	6
	アトリエ・ドゥ・フランセ初級	Atelier de français I	A1-A2/初級-初中級	8
	アトリエ・ドゥ・フランセ中・上級	Atelier de français II	B1-B2/中級-中上級	3
	スペイン語圏世界とグローバルティ	El Mundo Hispánico y la Globalidad-Grupo	B1-B2/中級-中上級	5
○	比較文化研究 1	Estudios Culturales Comparativos 1	B1-B2/中級-中上級	9
○	比較文化研究 2	Estudios Culturales Comparativos 2	B1/中級	16
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación 1	B1/中級	1
○	日本文化をプレゼン	Habilidades de Presentación sobre la Cultura Japonesa	A2/初中級	7
	時事スペイン語	Preparación de Noticias de Actualidad. Niveles	B1-B2/中級-中上級	5
	スペイン語会話	Conversación	A2/初中級	17
	DELE A2 対策講座	Preparación para el Examen DELE A2	A2/初中級	4
	初級スペイン語 1	Español Básico Nivel 1	スペイン語専攻1年	16
	初級スペイン語 2	Español Básico Nivel 2	A1/ 他学科・専攻コース	24
	ドイツ日常語と実践会話 I	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1/初級	4
	ドイツ日常語と実践会話 II	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches II	A1/初級	10
	ドイツ日常語と実践会話 III	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches III	A2/初中級	9
	ドイツ日常語と実践会話 IV	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches IV	A2/初中級	11
	ミュンスター・アフターケア	Münsternachbereitung	A2-B1/ 初中級-中級	20
	発音、パフォーマンス	Aussprache und Performance	A2-C1/ 初中級-上級	4
	検定試験対策	Testvorbereitung	A2-C1/ 初中級-上級	3
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2/ 初中級-中上級	3
○	ドイツの文化： 留学アフターケア	Deutsche Kultur: nach dem Auslandsstudium	B1-C1/ 中級-上級	9
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Forschungs- und Präsentationsprojekt	A2-B2/ 初中級-中上級	1

○	リサーチ・発信プロジェクト①	实践调查与发表1	B1/中級	7
○	中国と日本の比較文化	中日文化比较	A2/初中級	13
	実践中国語 A(作文)	生活汉语 A(作文)	A2/初中級	1
	成語、慣用句でリアルフレーズ	常用慣用語	B2/中上級	2
	発音と朗読	发音与朗读	B1/中級	2
	実践中国語 B(聴解と会話)	生活汉语 B(听力与会话)	B1/中級	4
○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2/初中級	12
	発音と初級会話	发音与初级会话	A1/初級	2
	複文トレーニング	复句强化练习	B1/中級	4
	中検 3 級対策	中检 3 级应试对策	A2/初級	2
○	留学体験発表会	Presentation of Study Abroad Experience	A2-C1/初中級-上級	30
○	学生共同プロジェクト 1	Group Work Project 1	A2-C1/初中級-上級	19
○	学生共同プロジェクト 2	Group Work Project 2 (Global Writing)	A2-C1/初中級-上級	9

[2014 年度 iCoToBa サマープログラム開講授業一覧]

指定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
○	英語で日本 PR プロジェクト -日本の魅力を発信しよう！	J-Ambassador	A2-C1/ 初中級-上級	5
○	比較文化セミナー： 英語圏を知りつくそう！	Comparative Study of Cultures -The English-Speaking World -	A2-B2/ 初中級-中上級	5
	TOEFL ITP 受験対策 1	TOEFL ITP: approach1	A2-C1/初中級-上級	33
	TOEFL ITP 受験対策 2	TOEFL ITP: approach2	A2-C1/初中級-上級	
	TOEFL ITP 受験対策 3	TOEFL ITP: approach3	A2-C1/初中級-上級	
	検定試験対策講座 TOEIC	TOEIC Intensive	A2-C1/初中級-上級	8
	検定試験対策講座 Listening 1	Listening For Exams 1	A2-C1/初中級-上級	5
	検定試験対策講座 Listening 2	Listening For Exams 2	A2-C1/初中級-上級	8
	検定試験対策講座 Reading 1	Reading For Exams 1	A2-C1/初中級-上級	8
	検定試験対策講座 Reading 2	Reading For Exams 2	A2-C1/ 初中級-上級	9
	思い出しフランス語 I	Le français dans la tête I	A2-B1/初中級-中級	9
	思い出しフランス語 II	Le français dans la tête II	B2~/中上級以上	
	サバイバルスペイン語 (サンティアゴ大学夏期講座受講生対象)	Español práctico	A2/初中級	5

	夏休みスペイン語力向上	¿Cómo te lo pasas en tus primeras vacaciones?	A1/初級	7
	ミュンスター大学夏期講座 受講生対象コース①	Münster, wir kommen! － Praktisches Vorbereitungs- blockseminar ①	A1-A2/初級-初中級	24
	ミュンスター大学夏期講座 受講生対象コース②	Münster, wir kommen! － Praktisches Vorbereitungs- blockseminar ②	A1-A2/初級-初中級	
	ミュンスター大学夏期講座 受講生対象コース③	Münster, wir kommen! － Praktisches Vorbereitungs- blockseminar ③	A1-A2/初級-初中級	18
	ドイツ語の映画館	iCoToBa-Kino	B1-B2/中級-中上級	6
	声に出して読んでみたい 中国語 1	朗読 1	A1-B2/初級-中上級	10
	声に出して読んでみたい 中国語 2	朗読 2	A1-B2/初級-中上級	
	中国語を読んでテーマにつ いて話してみよう 1	阅读与会话 1	A1-B2/初級-中上級	4
	中国語を読んでテーマにつ いて話してみよう 2	阅读与会话 2	A1-B2/初級-中上級	

[2014 年度 iCoToBa スプリングプログラム開講授業一覧]

指 定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講 者数
	検定試験対策講座※	TOEIC 600 Basic	A2-C1/初中級-上級	18
	検定試験対策講座 1	TOEFL ITP	A2-C1/初中級-上級	2
	検定試験対策講座 2	Quick TOEFL	A2-C1/初中級-上級	1
	検定試験対策講座 3	Quick IELTS	A2-C1/初中級-上級	5
	フランス Go!	À vos marques, prêts...français !	A1-B2/初級-中上級	2
	スペイン語圏を知ろう	Conoce los países donde puedes estudiar español	A1-B1/初中級-中上級	6
	スペイン語の地域差	Diferencias en el español de varios países	A2-B2/初中級-中上級	1
	中検対策 1	中検 3 級考试辅导 1	A2-B2/初中級-中上級	7
	中検対策 2	中検 3 級考试辅导 2	A2-B2/初中級-中上級	7
	中検対策 3	中検 3 級考试辅导 3	A2-B2/初中級-中上級	2
	中検対策 4	中検 3 級考试辅导 4	A2-B2/初中級-中上級	3

※「検定試験対策講座」は外国語学部以外の学生も対象としている。

11.3. iCoToBa 授業アンケート集計結果

2014 年度よりFD 活動の一環として、前期・後期の iCoToBa 開講授業全てにおいて授業アンケートを行った。アンケート項目は、1) 学生自身の学習について、2) 授業および担当教員についての 2 部

構成である。以下では、2)授業および担当教員についての集計結果を掲載する。

[質問項目]

- Q1. 授業概要や学期開始時の授業に関する説明は、わかりやすかったですか。
 Q2. 授業概要や学期開始時に説明された授業の目的は、授業で達成されていたと思いますか。
 Q3. 教員の話し方、説明の仕方はわかりやすかったですか。
 Q4. 教材(教科書、配布物など)は、有用でしたか。
 Q5. ホワイトボードへの板書、パワーポイントなどのスライドは見やすかったですか。
 Q6. 教員は学生の反応や理解度・到達度に留意しながら授業を進めていましたか。
 Q7. 教員は、一方的な説明だけでなく、質問、発言、発表など学生の積極的な参加を促しましたか。
 Q8. 教員の授業への意欲・熱意は感じられましたか。
 Q9. この授業によって、もっと上達したい、もっと学びたいという気持ちになりましたか。

[2014 年前期アンケート集計結果]

担当教員: Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Survival English	木 1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	4.9	4.9	4.9	4.9
Conversation Strategies	木 5	4.7	4.4	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8	4.9	4.9
J-Ambassador (UEA 1)	水 3	4.4	4.2	4.6	4.1	4.3	4.6	4.8	4.6	4.6
J-Ambassador (UEA 2)	火 1	4.4	4.5	4.5	4.5	4.4	4.7	4.7	4.8	4.7
J-Ambassador	水 4	4.7	4.8	4.7	4.6	4.5	4.8	4.9	4.9	4.6
Academic Listening & Note-taking	月 3	5.0	4.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Debate	火 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Short Essay Writing	月 6	4.8	4.8	4.6	4.4	4.4	4.2	4.6	4.8	4.8
Global Leader	金 4	4.9	4.9	4.9	4.7	4.9	4.8	5.0	4.8	4.8
One-minute Speech	木 4	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	4.2	4.2

担当教員: Brett Hack	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Today's Top News	月 5	4.9	4.9	4.9	4.6	4.7	4.8	4.9	4.9	4.8
Pronunciation Profiles 1	月 2	5.0	4.9	5.0	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0
Pronunciation Profiles 2	木 1	4.9	4.8	4.8	4.7	4.8	4.9	4.9	4.9	4.8
Conversation Coach 1	水 3	4.9	5.0	5.0	4.8	4.7	4.9	5.0	5.0	5.0
Conversation Coach 2	水 4	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0
Comparative Study of Cultures 1	金 3	5.0	5.0	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Comparative Study of Cultures 2	月 4	4.8	4.6	4.8	4.7	4.8	4.6	4.9	4.8	4.8
Research and Presentation Project 1	水 5	4.8	4.3	4.8	4.5	4.8	4.8	4.8	5.0	4.5
Research and Presentation Project 2	木 4	4.7	4.7	4.8	4.7	4.8	4.8	4.8	4.9	4.7
Research and Presentation Project 3	火 3	4.6	4.7	4.9	4.8	5.0	5.0	5.0	4.9	4.7
Real-Life Expressions and Idioms	火 5	4.7	4.8	4.7	4.9	4.6	4.8	4.9	5.0	5.0
Society Through Film	金 2	4.9	4.8	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9

担当教員:寺澤君江	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
TOEIC1	月 3	4.9	4.9	4.8	4.5	4.8	4.0	4.6	4.5	4.8
TOEIC 2	月 6	4.4	4.6	4.8	4.8	4.6	4.2	4.8	5.0	4.8
TOEIC 3	火 6	4.8	4.5	5.0	4.8	4.5	4.0	4.8	5.0	5.0
TOEIC 4	火 2	4.3	4.3	4.0	4.3	3.3	2.7	3.7	4.7	4.7
TOEFL	火 3	4.6	4.1	4.7	4.8	4.7	4.4	4.9	4.8	4.8
IELTS	水 3	4.7	4.7	4.8	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0
Vocabulary 1(I)	月 5	4.3	4.3	4.7	5.0	4.7	4.0	4.7	5.0	5.0
Vocabulary 1 (II)	月 5	4.7	4.7	4.7	5.0	4.7	4.0	4.7	5.0	5.0
Vocabulary 2(I)	火 4	4.7	4.6	4.8	4.7	4.6	4.3	4.4	4.7	4.7
個別講座 1	水 2	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
個別講座 2	水 2	3.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
個別講座 3	木 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0
個別講座 4	木 2	4.0	4.0	5.0	4.0	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0

担当教員:Morgan Dalin	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
とっさのフランス語 基礎	木 4	4.4	3.8	4.6	4.1	4.3	4.6	4.7	5.0	4.7
フランス語なう。	月 1	4.5	4.0	4.8	4.3	4.5	4.8	4.8	4.8	4.8
ニッポンなう。	火 1	4.0	3.8	4.2	3.8	4.0	4.3	4.3	4.5	4.3
リサーチ発信プロジェクト①	水 1	4.3	4.5	4.4	3.7	4.6	4.4	4.6	4.7	4.8
めざせ仏検準 2 級	水 2	4.8	4.8	5.0	4.2	4.0	4.8	4.8	4.8	4.6
めざせ仏検準 1 級	木 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ちょっとチャットフランス語 I	金 4	4.8	4.6	4.9	4.6	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9
ちょっとチャットフランス語 II	金 3	4.5	4.5	5.0	4.0	4.8	5.0	5.0	5.0	4.8
アトリエ・ドゥ・フランセ初級	火 5	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
アトリエ・ドゥ・フランセ中・上級	木 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員:Sergio Neri	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
スペイン語圏世界とグローバリティ1	月 2	3.8	4.0	4.6	3.2	4.0	4.1	4.3	4.7	4.0
スペイン語圏世界のグローバリティ2	水 4	4.3	4.0	4.8	3.7	4.5	4.5	4.7	5.0	4.2
比較文化研究	金 5	4.4	4.4	5.0	4.6	4.4	4.9	4.9	5.0	4.6
リサーチ発信プロジェクト①	火 5	3.9	3.5	4.3	3.6	3.9	4.3	4.6	4.8	4.0
日本文化をプレゼン	木 5	4.6	4.4	4.6	4.2	4.2	5.0	4.8	5.0	5.0
時事問題読解	木 4	4.3	4.5	4.7	4.5	4.0	4.5	4.5	4.8	4.0
DELE B1 対策	水 3	4.7	4.2	4.8	4.5	4.3	4.7	4.5	4.8	4.3
DELE A2 対策	火 4	4.4	4.0	4.5	4.3	3.8	4.2	4.6	4.8	4.6
初級スペイン語	金 2	4.2	4.4	4.7	4.2	4.5	4.7	4.7	4.7	4.7
第 2 外国語としてのスペイン語	月 5	4.3	3.5	4.5	4.0	4.3	5.0	5.0	4.5	5.0

担当教員:Morten Hunke	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
ドイツ日常語 1	火 1	4.4	4.1	4.6	4.5	4.0	4.7	4.9	4.9	4.9
ドイツ日常語 2	水 1	4.4	4.4	4.7	4.9	4.3	4.9	4.8	4.9	5.0
ドイツ日常語 3	火 3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.1	4.6	4.9	4.7	4.7
ドイツ日常語 4	火 4	4.0	3.8	4.0	4.4	4.6	4.6	4.8	4.6	4.4
ドイツ日常語 5	木 3	4.5	4.6	4.7	4.2	4.4	4.5	4.9	4.9	4.9
検定試験対策	木 4	5.0	5.0	5.0	N/A	N/A	4.0	4.0	4.0	5.0
発音・パフォーマンス	木 5	4.3	4.4	4.7	4.2	4.3	4.4	4.7	4.8	4.4
日本紹介	月 5	4.4	4.4	4.6	4.4	4.6	4.5	4.8	4.8	4.6
リサーチ発信プロジェクト	月 3	4.0	4.0	4.3	3.9	3.7	4.1	4.2	4.8	4.4

担当教員:顧令儀	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
発音特訓講座 a	火 4	4.6	4.6	4.9	4.9	4.3	4.8	4.8	4.8	4.7
発音特訓講座b	火 4	4.6	4.6	5.0	4.7	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0
発音特訓講座 c	水 1	4.6	4.6	4.8	5.0	3.8	4.8	4.8	4.8	4.6
発音特訓講座 d	水 3	4.7	4.6	4.9	4.7	4.7	4.9	4.9	4.9	5.0
発音特訓講座 e	金 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音特訓講座f	金 2	4.9	4.6	5.0	4.5	4.9	4.9	5.0	5.0	4.9
中国語で日本を紹介する	木 3	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7
中国と日本の比較文化	月 3	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0	4.9	4.7	4.9	4.9
実践中国語上級編	月 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
リサーチ発信プロジェクト①	月 2	4.7	4.5	4.7	4.0	4.0	4.8	4.7	4.8	4.8
中国語複文トレーニング	火 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
慣用句で中国語リアルフレーズ	木 2	4.7	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	4.3	5.0	4.3

[2014 年後期アンケート集計結果]

担当教員:Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Survival English	木 1	4.8	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8	4.9	4.9	4.9
News English	水 3	4.5	4.5	5.0	4.5	4.3	4.5	4.5	4.5	4.3
Word Power	火 3	4.6	4.6	4.7	4.9	4.7	4.9	4.9	5.0	4.7
J-Ambassador 1	木 5	4.6	4.3	4.4	4.4	4.6	4.7	4.8	4.8	4.7
J-Ambassador 2	金 1	4.9	4.9	4.9	4.6	4.8	4.9	5.0	5.0	4.8
Global Leader	水 4	5.0	4.8	5.0	4.6	4.2	5.0	5.0	5.0	4.8
Academic Listening	火 1	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
Discussion & Debate	火 4	4.8	4.8	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0
One-minute Speech	月 3	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員:Brett Hack	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
English on the Net	月 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Conversation Coach: Start Off! 1	水 4	4.9	5.0	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	4.9	5.0

Conversation Coach: Start Off! 2	金 4	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Conversation Coach: Move On! 1	水 3	5.0	4.7	5.0	4.3	3.7	5.0	5.0	5.0	5.0
Conversation Coach: Move On! 2	金 5	5.0	5.0	5.0	5.0	N/A	5.0	5.0	5.0	5.0
Comparative Study of Cultures 1	月 4	4.9	4.8	5.0	4.7	4.9	4.8	5.0	5.0	4.9
Comparative Study of Cultures 2	金 3	4.5	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8
Research and Presentation Project 1	火 5	5.0	4.9	5.0	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0	4.9
Research and Presentation Project 2	水 2	4.7	4.7	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	4.6
Real-Life Expressions and Idioms	火 3	5.0	4.9	4.9	4.9	4.5	4.9	5.0	5.0	4.9
English Theory Workshop	火 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
What is "Global," Anyway?	金 2	4.7	4.8	4.9	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9	4.9

担当教員: 寺澤君江	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
TOEIC Early Bird 1	火 6	4.5	4.4	4.7	5.0	4.7	5.0	4.6	5.0	5.0
TOEIC Early Bird2	木 1	4.0	4.5	4.5	4.5	4.0	4.5	4.5	5.0	4.5
TOEIC1	月 3	4.3	4.4	4.4	4.0	4.1	4.0	4.1	4.4	4.3
TOEIC2	月 6	5.0	4.5	5.0	4.5	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0
TOEIC3	火 2	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.8
TOEIC4	火 6	4.7	4.3	5.0	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
TOEFL1	火 3	4.8	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0
TOEFL2	水 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
IELTS1	水 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Vocabulary1	月 5	4.5	4.5	4.5	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5
Vocabulary2	月 5	4.5	4.5	4.5	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5
Vocabulary2(I)	火 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Vocabulary2(II)	火 4	4.8	4.8	5.0	5.0	4.5	4.8	4.8	5.0	5.0

担当教員: Morgan Dalin	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
とっさのフランス語基礎	木 4	4.4	4.4	4.8	4.9	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0
スランス語圏なう。	月 1	5.0	5.0	5.0	3.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0
ニッポンなう。	火 1	4.1	4.4	4.4	4.1	4.1	4.7	4.7	4.7	4.6
めざせ仏検準 2 級	水 2	4.7	5.0	4.7	4.3	4.3	4.7	4.7	4.7	4.7
めざせ仏検準 1 級	木 3	5.0	4.6	5.0	5.0	4.2	5.0	5.0	5.0	5.0
ちょっとチャットフランス語 I	金 4	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
ちょっとチャットフランス語 II	金 3	4.5	4.0	4.5	4.0	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5
アトリエ・ドゥ・フランセ初級	火 5	5.0	4.7	5.0	4.0	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0

担当教員: Sergio Neri	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
スペイン語圏世界とグローバリティ	月 2	5.0	4.5	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
比較文化研究 1	月 3	4.8	4.5	5.0	4.8	5.0	4.8	4.8	4.8	4.7
比較文化研究 2	火 5	4.3	4.2	4.7	4.0	4.2	4.5	5.0	5.0	4.7
日本文化をプレゼン	水 4	4.2	3.8	5.0	4.2	3.8	4.8	4.8	5.0	4.5
時事スペイン語	水 3	4.7	4.7	5.0	4.7	4.3	5.0	5.0	5.0	4.3
スペイン語会話	火 4	4.2	3.8	4.8	4.2	4.2	4.6	4.8	4.8	4.6
DELE A2 対策	火 2	3.5	4.0	4.5	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0

初級スペイン語 1	木 4	4.2	4.2	5.0	4.5	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
初級スペイン語 2	金 2	4.4	4.5	4.9	4.0	4.8	4.9	4.9	4.9	4.9

担当教員: Morten Hunke	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
ドイツ日常語と実践会話 I	火 1	4.3	4.3	4.3	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ドイツ日常語と実践会話 II	水 1	3.8	4.6	4.4	4.6	4.8	4.4	4.6	5.0	4.6
ドイツ日常語と実践会話 III	火 3	3.9	4.0	4.6	3.6	4.4	4.5	4.9	4.9	4.9
ドイツ日常語と実践会話 IV	火 4	4.5	4.7	4.5	4.7	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0
ミュンスター・アフターケア	木 3	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音、パフォーマンス	木 5	4.3	4.3	5.0	4.5	3.5	5.0	5.0	4.8	4.8
検定試験対策	木 4	5.0	3.0	5.0	5.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0
日本紹介	月 5	4.5	4.5	4.5	4.0	4.5	4.0	5.0	5.0	5.0
ドイツの文化: 留学アフターケア	水 2	4.2	4.2	4.8	4.8	4.8	4.8	4.4	5.0	4.8
リサーチ・発信プロジェクト①	月 3	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: 顧令儀	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
リサーチ発信プロジェクト	月 5	4.0	4.3	4.4	3.6	3.6	4.4	4.7	4.7	4.6
日中文化比較	月 3	4.5	4.5	4.8	4.5	4.5	5.0	4.8	4.8	4.7
実践中国語 A (作文)	月 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
慣用句でリアルフレーズ	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音と朗読	火 5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
実践中国語 B (聴解と会話)	水 3	5.0	5.0	5.0	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
中国語で日本を紹介する	木 3	4.6	4.6	4.7	4.2	4.4	4.9	4.9	4.8	4.7
発音と初級会話	木 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
複文トレーニング	金 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
中検 3 級対策	金 3	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

11.4. iCoToBa 施設見学者

月日	所属・氏名	目的	担当
4 月 21 日	愛知淑徳大学 交流文化学部教授 中郷慶氏 ビジネス学部教授 福本明子氏	施設見学 外国語教育に関する意見交換	宮谷敦美 大山守雄
6 月 4 日	お茶ノ水女子大学 グローバル 人材育成推進センター 特任教授 宮本恵子氏	グローバル東日本ブロック会議の打合せ 施設見学、外国語教育に関する意見交換	宮谷敦美
6 月 6 日	岐阜県立関高等学校 校長 加藤昭二氏 岐阜県教育委員会事務局 学校支援課課長補佐兼教科教育係長指導主事 石神政幸氏	関高等学校スーパーグローバルハイスクール事業と本学グローバル人材育成推進事業との連携可能性について意見交換 関高等学校での言語学習環境整備に向けた情報収集	池田 周 大山守雄

6月10日	名古屋大学総長補佐(総合企画調査担当) 国際開発研究科教授 岡田亜弥氏	法人評価委員の学内視察	岡崎まどか
9月24日	愛知県監査委員事務局 庄瀬高志氏	施設見学	大山守雄
10月30日	埼玉県立大学学長 三浦宜彦氏 事務局副局長 清野敦史氏 情報・施設管理担当部長 新井穰氏総務担当主事 芦沢達也氏	施設見学	宮谷敦美

11.5. 高等学校の iCoToBa 施設見学

月日	学校名・学年	見学内容	訪問者数			
			生徒	教諭	PTA	合計
4月25日 (金曜日)	岐阜県立 可児高等学校 3年生	施設・機器・授業の説明、Visual Study Space で海外ニュース視聴、Activity Space でスペイン語「A1 初級スペイン語」の参観、iLounge にてスペイン語圏専攻の学生とコミュニケーション	40	2	0	42
5月29日 (木曜日)	愛知県立 新城東高等学校 2年生	施設・機器・授業の説明、Visual Study Space で海外ニュース視聴、Activity Space にて英語「Research Project and Presentation」参観、iLounge にて留学生(ドイツ・メキシコ)およびスペイン語圏専攻・ドイツ語圏専攻の学生とコミュニケーション	30	2	0	32
6月13日 (金曜日)	私立 春日丘高等学校 保護者	施設・機器・授業の説明、Visual Study Space で海外ニュース視聴、Self Study Space でドイツ人留学生とドイツ語圏専攻学生との学習を見学、Activity Space で iCoToBa の授業内容に関して説明	0	3	40	43
6月16日 (月曜日)	私立 岡崎城西高等学校 2年生	施設・機器・授業の説明、Visual Study Space で海外ニュース視聴、Self Study Space にて e-Learning(ロゼッタストーン)体験、Activity Space で中国語「リサーチ発表プロジェクト」参観	60	2	0	62

7 月 7 日 (月曜日)	愛知県立 知立高等学校 2 年生	施設・機器・授業の説明、Visual Study Space で海外ニュース視聴、 iLounge で iCoToBa 顧教員と簡単 な中国語会話練習体験、Activity Space で iCoToBa の施設利用や授 業などについての説明	42	2	0	44
7 月 8 日 (火曜日)	愛知県立 御津高等学校 2 年生	施設・機器・授業の説明、Activity Space でのスペイン語授業参観、 iLounge で施設や授業に関する説 明、英語・中国語・スペイン語での簡 単な会話体験	45	2	0	47
9 月 5 日 (金曜日)	三重県立 津西高等学校 1 年生	施設・機器・授業の説明、iLounge で のプレゼンテーション、本学学生に よる iCoToBa 紹介動画の上映、 iCoToBa 教員の自己紹介	39	2	0	41
10 月 17 日 (金曜日)	愛知県立 日進高等学校 1 年生 英米学科入学 希望者	ランチタイムの様子を見学、iLounge でファーン教員、モルガン教員との 外国語会話体験、ポルトガル語の自 主勉強会見学、施設・機器・授業の 説明	12	2	0	14
合計			268	17	40	325

[ブラジル学校 Escola Alegria do Saber との交流] [ESD ブックレット作成]

(中日新聞 2014 年 7 月 21 日朝刊)



愛知県立大学の学生らが小冊子を作成した

地元の魅力 小冊子に

ESD ユネスコ世界会議

10日から愛知県でESD二ネスコ世界会議が開かれるのを前に、愛知県立大学の学生5人らが、会議に参加する外国人のために愛知県や名古屋市を紹介する小冊子を作成した。

おもみやけや観光地などテーマごとに、学生の目線で日本や地元の魅力を説明。簡単な英語での説明文に加え、神社の参拝など外国人に分かりづら

外国人参加者向けに大学生が作成

い。小冊子の作成に参加した英米学科2年の田原優乃さん(20)は、「1つ」の言葉でも、なるべくかみぎみ砕いて紹介するよう心がけた。持ち帰ってもらって子どもたちにも見せてあげてほしい」と話していた。

小冊子は500部印刷し、ESDユネスコ世界会議の会場などに置くという。

(日本經濟新聞 2014年11月5日朝刊)

【
祭典
月間

外国人向け冊子作成

県立大生 ESD会場で配布

名古屋市で十日開幕「のための教育（ES）に関する持続可能な開発（D）」に関するユネスコ「世界会議」を前に、長久手市の県立大の学生五人が、会議で来日する外国人のために県や名古屋市を紹介する無料の冊子を作った。

外国語学部が夏季休業中に開講した特別講義「外国人のための小冊子を作った」で、県立大の学生たち「長久手市で

の一環として、一、二年生五人が九月の授業の中で準備した。

冊子はA5判、二十三ページ。食べ物や観光地をはじめ、はしの使い方や銭湯の入り方などの慣習も英語で紹介。手描きのイラストもふんだんに入れた。

一年生の諸橋陽美さん（左）は「興味を持ってもらえるように親しみやすいテーマを選んだ。冊子を片手に観光を楽しんでもらえたらうれしい」と話した。



△天然トラフク食べに来て、浜松市の錦山寺温泉へ来年2月28日まで開かれている「遠州灘天然とらふく祭り」のPR隊が中新井村を訪れた「写真」。

温泉街にある日方所

冊子は五百部作成。世界会議の会場となる熱田区の名古屋国際会議場や主要ホテル、名古屋駅の観光案内所などに配る。

（前田健太）

ESD盛り上げ学生一役

あすから世界会議

英語で「日本こんなところ」

県立大学（長久手市）の学生らが入居する古屋市で10日から始まる「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関するユネスコ世界会議で、本日する外国人向けに「当座クイズや観光スポンサー、日本の文化を英語で紹介したブックレットを作成した」「台詞ライオン」「ギョウ」「大空」など若者に身近な食べ物や文化を平易な英語で説明しており、「ガイドブックを兼ねて日本はこんなところと認めてもらえたら」と話している。（編集部）

会議場などにブックレット

ブックレットは県立大学が準備するクロール入居者の一環として作成。外国語学部の前教養教授は「外国語で英語を解説し、英語で英語を解説する」が狙いと説明する。

学生らは、15日にわたる夏休みの英語集中コースを受講し、授業の中で執筆を進めた。指導にあたるフライン・エドボール講師（オーストラリア出身）は「英語から書けない。幸



手を出した学生は、ブックレットを作成したエドボールさん、田原さん、吉田さん。

は「辞書に書いてある言葉でなく、自分で使っている言葉で説明してみよう」と指導した。

名古屋のグルメを紹介する項目では、「台詞ライオン」について、「台詞と名詞」に付けられているが、実際に台詞から書けない。幸

ロワールについて「名古屋の有名なデザート」と紹介した。

ブックレットでは、神社での参拝の仕方や寺のエチケットについてもイラストとともに紹介。田原さんは「来年、米国に留学する前に日本のことをもっと知らなくては」と思いを強くしたという。

また、田原さんが「会議の休憩時間にも読んでもらえれば」と話すと、エドボール氏も「ユネスコのスタッフは普通のガイドブックに頼っていない日本人の日常生活の一瞬を感じてくれるはず」と話し、期待を寄せた。

ブックレットは、23日まで、5000部を所蔵。ESDの会議場や古屋市内の本屋などに置かれ、無料で配布される。同大クロール入居者育成推進部のホームページ（http://www.kokushu.ac.jp/students/）からもダウンロードできる。

（読売新聞 2014年11月9日朝刊）



留学生と仲良くなろう！！

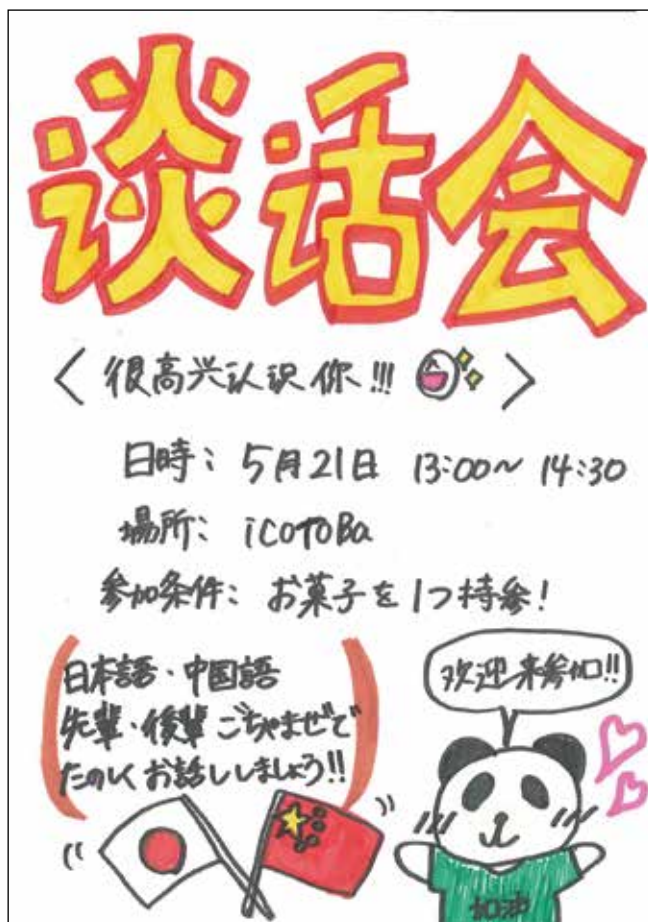
ドイツ・スペイン・中国・韓国・
ベトナム・インドネシア
から、計16名の留学生が、
新しく愛知県立大学にやってきます！
簡単なゲームをしたり、お菓子を食べたりして、
留学生と仲良くなっちゃおう！
★フリータイムもあるよ★

WELCOME PARTY!!

日時：4月16日 13:45～16:00
場所：iCoToBa
参加人数制限有り・・・20名まで
※参加希望者へのお願い※

- ① iCoToBaのレセプションで予約すること
- ② 当日、100円～150円分くらいのお菓子を持ってくること

飲み物は用意してあります！
Let's join us !!!



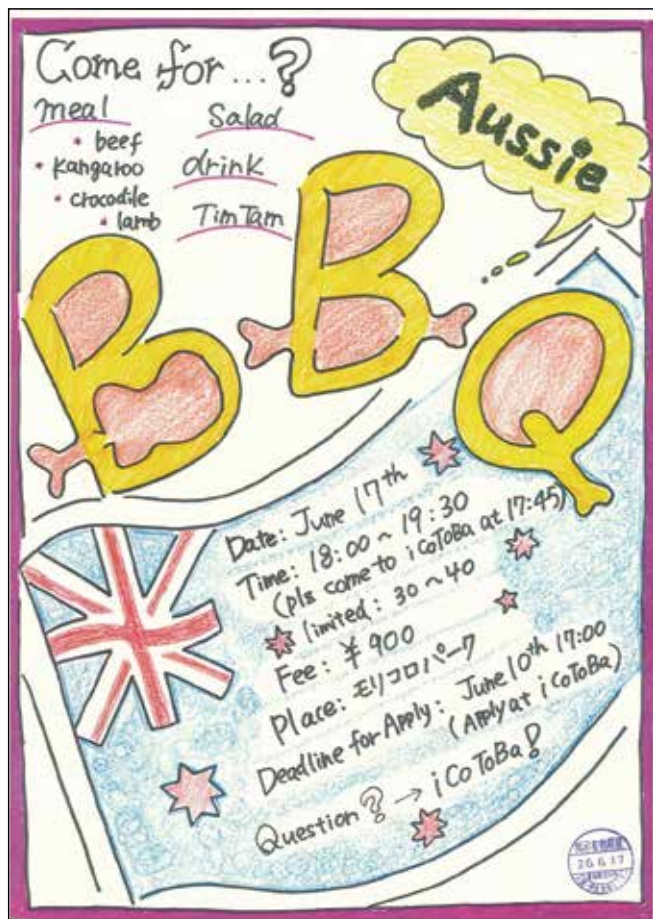
談話会

< 很高兴认识你!!! >

日時：5月21日 13:00～14:30
場所：iCoToBa
参加条件：お菓子を1つ持参！

日本語・中国語
先輩・後輩 どちらでも
たのしくお話ししよう!!

欢迎来参加!!



Come for...?

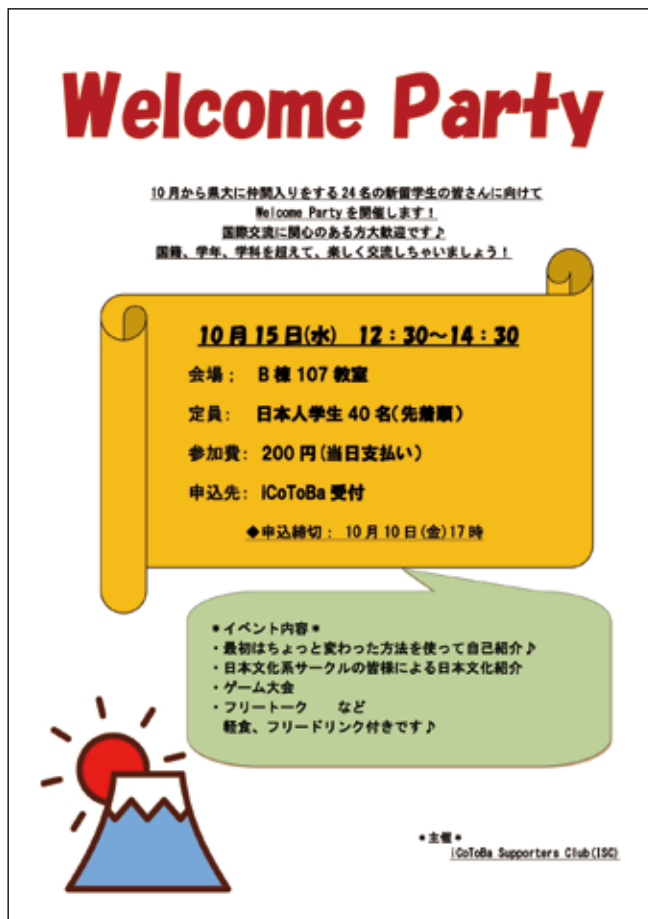
meal
• beef
• kangaroo
• crocodile
• lamb

Salad
drink
Tim Tam

BBQ

Aussie

Date: June 17th
Time: 18:00 ~ 19:30
(Pls come to iCoToBa at 17:45)
★ limited: 30 ~ 40 ★
Fee: ¥900
Place: エリコロパーク
Deadline for Apply: June 10th 17:00
(Apply at iCoToBa)
Question? → iCoToBa



Welcome Party

10月から県内に仲間入りをする24名の新入学生の皆さんに向けて
Welcome Partyを開催します！
国際交流に関心のある方大歓迎です！
国籍、学年、学科を超えて、楽しく交流しちゃいましょう！

10月15日(水) 12:30～14:30

会場：B棟107教室
定員：日本人学生40名(先着順)
参加費：200円(当日支払い)
申込先：iCoToBa 受付
◆申込締切：10月10日(金)17時


◆イベント内容◆
・最初はちょっと変わった方法を使って自己紹介♪
・日本文化系サークルの皆様による日本文化紹介
・ゲーム大会
・フリートーク など
軽食、フリードリンク付きです♪

主催
iCoToBa Supporters Club(ISC)

中日餃子交流会

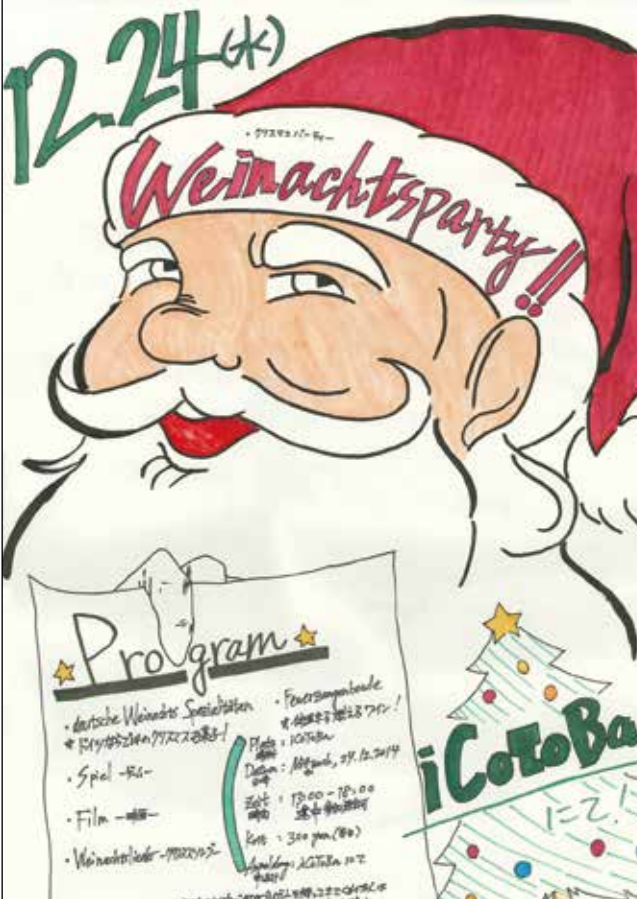
- ・日期: 12月10日 周三
- ・時間: 下午2点40分
- ・地方: 調理室 (在 iCoToBa 付近)
- ・参加費: 300 円 ★申し込みは iCoToBa 受付です!!
- ・截止日期: 12月5日 周五 下午5点

30名
限定です!!



中国式の「ギョーザ」(水餃)と日本式の「ギョーザ」(鍋贴)を作って食べて比べてみよう!!

12.24(水) Weihnachtsparty!!



Program

- ・ deutsche Weihnachts Spezialitäten
- ・ Spiel - 5:00 -
- ・ Film - 7:00 -
- ・ Weihnachtslieder - 7:00 -
- ・ Feiern und trinken
- ・ Platz: iCoToBa
- ・ Datum: Mittwoch, 29.12.2014
- ・ Zeit: 15:00 - 18:00
- ・ Preis: 300 yen (800 Yen)
- ・ Anmeldung: iCoToBa まで

★500 yen 以上のお支払いで、お申し込みの受付料金が無料になります!! (お祝い)

iCoToBa

Merry Xmas!!



Brett's Christmas Party

Enjoy a special lesson and try Christmas cookies decoration !
今年もやります! クリスマスクッキーアイシング体験で、オリジナルクッキーを作ろう!



- 日時: 12月25日 (木)
12:00 ~ 14:20 (途中退室可)
- 会場: iCoToBa iLounge
- 申込: iCoToBa 受付 40名限定
- 会費: 100円


友達を誘ってみんなで参加しよう♪



日時: 2月6日(金)
16:15~
場所: iCoToBa
参加費: 150 円
申し込み: iCoToBa
★書道体験の後は
みんなでお汁粉!!★

県大ドイツデー 2014

ドイツでドイツ語を学ぶ 世界を知る



(写真左から県大ドイツデーより)

【場 所】 E棟2階、iCoToBa (多言語学習センター)
 【日 時】 2014年6月25日(水) 13:00開場
 (コーヒータイムを随時ほさみ、17時終了予定)
 【司会・進行】 Morten Hunke (iCoToBa 教員)
 四ツ谷亮子 (ヨーロッパ学科ドイツ語専攻教員)

DAAD (ドイツ学術交流会) の現地情報・奨学金情報、ドイツ留学をした県大生の体験談などなど、今後ドイツ留学を考えている人には貴重な情報満載のドイツデーを、昨秋につづき開催します。コーヒータイムには、先生や先輩との交流も！ドイツ留学のすべてが詳しくわかるドイツデーに、ぜひ参加しましょう！

プログラム

- 交換留学とドイツの大学生生活めぐって 13:30~
 - 開会の挨拶 吉池孝一 (外語学部長・グローバル人材育成推進室長)
 - ゲストスピーカーの紹介 四ツ谷亮子 (ヨーロッパ学科ドイツ語専攻教員)
 - ウィーランド・アインズ (Dr. Wieland Eins) ドイツ学術交流会東京事務所
 - タバ・カウフ (Tabea Kauf) 東京・日独協会
- 県大生によるドイツ留学報告
 - ドイツ留学経験者が、留学体験のあれこれを紹介してくれます。
- ドイツ留学・ドイツ学生生活フォーラム
 - 交換留学、ドイツでの生活、留学全般についての質疑応答や意見交換をおこないます。

公益財団法人日独協会
Japanisch-Deutsche Gesellschaft

ドイツ学術交流会東京事務所

外国語学部の1、2年生のための iCoToBa 夏のイベント

Immersion Program 参加者募集

今年もアツい夏がやってきた！外国語だけで過ごす2日間

イメージプログラムってなに？
 外国語で様々な活動を行う外国語合宿です。
 えっ、外国語だけ？そんなの自分には無理なんて思ってる？
 やってみれば以外にできるものです。
 優しい先輩や先生がいるから大丈夫！

日程： 8月12日(水) 13:00~18時(水) 18:00
 場所： 豊知青年の家 (岡崎市：名鉄東美台駅より徒歩15分、駐車場あり)
 定員： 県大生 40名 (各言語8名)
 参加費： 4,000円 (1泊3食+教材費) 別途保険料
 問い合わせ： 大山コーディネーター (iCoToBa)
 アドバイザー： Morgan 先生、Sergio 先生、麗先生
 申込み： iCoToBa 受付 (定員になり次第受付終了)

スキット作りとその発表、クイズの準備と本番、ディスカッション、外国語 de ランジェリー
 操など学生主体で進める多様なプログラムを用意しています。







愛知県立大学 グローバル講演会

世界へ飛び立つ若者たちへ ～ACミランサッカースクール愛知に学ぶグローバル人材育成～

講演内容： 世界中で行われているACミランサッカースクールの魅力を伝える人材育成施設に知る、グローバルに活躍するために経験しておきたいこと、身につけておきたいことについて、マテオ・コンティ氏に、日本のイタリヤ、クワット、日本のサッカー精神を語っていただきます。また、愛知からACミランに所属する愛知県立大学の卒業生でもあり、先輩の活躍を見ることが出来ます。後半はACミランアカデミーでは、学生3名が質問し、質疑応答を行います。

講演紹介： マテオ・コンティ氏 (ACミランサッカースクール、テクニカルディレクター)、イタリア・ブローネ出身。1979年7月24日生まれ。20歳の時からサッカー指導者として活動。ACミラン・ユース・アカデミーの育成年代での指導を経て、2010年3月よりACミランアカデミー・部門に、クワット・カニョーニに就任。2011年4月よりACミランアカデミー・スクール愛知のテクニカル・ディレクターに就任。

日時： 2014年11月12日(水) 14:30~16:00
 会場： 愛知県立大学 長久手キャンパス S棟201 教室
 申込： 先着 (参加費無料)
 定員： 約300名
 主催： 愛知県立大学 一般財団法人 愛知子ども財団
 共同主催： 愛知県立大学国際交流部 (S2-3) 愛知県立大学 国際部 グローバル人材育成推進室
 TEL: 0561-75-8033 FAX: 0561-64-1107 E-mail: global@ac-u.ac.jp
 応募方法： ●この講演会に申し込みたい方は、愛知県立大学国際交流部事務局までお申し込みください。
 ●この講演会に申し込みたい方は、愛知県立大学国際交流部事務局までお申し込みください。
 ●愛知県立大学国際交流部事務局までお申し込みください。

iCoToBa

パンフレット

(日本語版)



01 iCoToBa本

iCoToBa本

CONTENTS	
iCoToBaであいましょう	02
iCoToBaってこんなところ	03
iCoToBaスタッフからのメッセージ	05
iCoToBaでできること	07
iCoToBaのプログラム紹介	08
アドバイジング&カウンセリング	15
e-Learningプログラム	17
iCoToBaをもっと活用	19
iCoToBaのイベント	21
manabaについて	22
iCoToBa利用のアドバイス	23
iCoToBa Q&A	24
iCoToBaの基本ルール	25

02 iCoToBa本

iCoToBaであいましょう

iCoToBa (あいことば) へようこそ! 多言語学習センター「iCoToBa」は
2013年4月にオープンした外国語学習支援スペースです。
英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語のネイティブ教員と
語学学習アドバイザー、留学アドバイザーが、みなさんの外国語学習をサポートします。

iCoToBaの名前の由来は?

iCoToBaは、こんな願いを込めて名づけられました。

i 愛知県立大学の「愛(あい)」、わたしの「I(あい)」、independentの「(あい)」
Co communication, cooperation, community
To together (ともに)、to (目標に向かって)、仲間とともにの「と」
Ba 「場所」の「Ba」、人々があい、つどう場

iCoToBaで、ともに学び、人となりがり、さらに世界につながるきっかけをみつめてください!

iCoToBaでは、充実した語学の授業だけではなく、外国語でのランチタイムや映画鑑賞会など、外国の文化に触れられるイベントも、たくさん実施しています。
みなさん、iCoToBaであいましょう!

03 iCoToBa本

iCoToBaってこんなところ

海外のテレビ番組や映画のDVDを友だちと一緒に見てみない?
Visual-Study スペース

ネイティブ教員と留学&語学学習アドバイザーがあなたの学習を強力にバックアップ!
アドバイジングコーナー

イベント
映画鑑賞や留学生との交流会、各国の文化&行事紹介などイベント満載! イベントカレンダーをチェック!

event

i Lounge
受付

雑誌ブラウジングコーナー
いろんな国の旅行情報やトレンドを多言語で手に入れよう!

学習参考書紹介コーナー
TOEICをはじめ、いろんな検定対策参考書や各言語の辞書もあるから利用してね。

04 iCoToBa本

iCoToBaでもe-Learningで学習できるよ。
授業の合同を利用してマメに取り組もう!
e-Learning システム

iCoToBaでは、レベル別、目的別にいろんなクラスを開いているよ! ぜひ参加してね。
外国語のレッスン

Self Study Space

Activity Space

communication
ランチタイム・コーヒーアワー
毎週、ネイティブの先生と一緒にランチをしたり、コーヒーを片手に気楽なおしゃべりを楽しもう!

iCoToBaのHP
iCoToBaのHPでイベント情報や外国語学習リソースをチェックしてね! プログラムもあるよ。

I Lounge
Self Study Space
Activity Space

05 iCoToBa

iCoToBa スタッフからのメッセージ

メッセージの日本語訳は、各言語のプログラム紹介 (p.09~p.14) でチェック!



Fern Edebohls 英語担当
Hi, I'm Fern. I am from Australia. My hobby is playing the flute, and I am currently a member of Nagoya Directors' Band. I love cooking and reading, and spend far too much money on cookbooks and novels! I also enjoy travelling, and recently visited India. I look forward to meeting you.



Brett Hack 英語担当
Hi! My name is Brett. I'm from California in the USA. I've been in Japan for about 5 years now. I love stories of all kinds - novels, movies, comics, you name it! I belong to an English writers' group in Nagoya. I also love hiking in the mountains. I've been to Italy, Switzerland, Taiwan, and Hong Kong. Let's have a great time learning together!



Morgan Dalin フランス語担当
Bonjour! Que vous soyez débutant ou que vous souhaitiez vous perfectionner en français, j'aurai le plaisir de vous accompagner tout au long de cette année universitaire. Si vous souhaitez progresser dans une ambiance chaleureuse, n'hésitez pas à venir à ma rencontre. À bientôt!



Morio Ohyama 留学アドバイザー
Studying at an American high school in 1967-68 opened up my eyes to the world. In my last year in Kendal, I traveled across Siberia and around Western Europe for 4 months, and studied for another year in Granada, Spain. I have been enjoying a unique and fulfilling life since then. I'm very happy to have the chance to work with those of you who are interested in exciting new experiences.

06 iCoToBa



Sergio Neri スペイン語担当
El español es la lengua oficial de 21 países en América, Europa y África. También es ampliamente hablado muchos otros países, incluyendo USA donde hay casi 40 millones de hispanohablantes. Es uno de los 6 idiomas oficiales de las Naciones Unidas. En todo el mundo hay cerca de 500 millones de hablantes, por lo tanto es la lengua más hablada en el hemisferio occidental y una de las que tiene más estudiantes en el mundo. ¿Quieres ser uno de estos estudiantes? ¡Únete a nosotros y disfruta los beneficios alrededor del mundo!



Morten Hunke ドイツ語担当
Lernen soll Spaß machen! Lernen sollte praktisch sein! Hier bei iCoToBa helfen wir euch dabei euch praktisch und mit Spaß sprachlich zu verbessern. Wir suchen mit euch eine Chance im deutschsprachigen Ausland weiter zu lernen. Bitte, sprecht mich an. Willkommen in der globalen Welt der unbegrenzten Möglichkeiten!



顧 令儀 (Lingyi Gu) 中国語担当
大家好。我是顾令仪。我来自丝绸之路的起点——西安（长安）。我非常喜欢历史、小说、美食、旅游、还有日本的漫画。我觉得想学好一门外语，不光是听说读写，还需要了解那个国家的历史文化和风土人情。欢迎大家来iCoToBa找我，我很期待能和大家成为朋友，共同度过一段美好的时光。



Kimie Terazawa 語学学習アドバイザー
Welcome to iCoToBa! Enjoy collaborative learning with us and appreciate diversity in iCoToBa. Learning other languages enables you to widen your mind and deepen your thoughts. Join us to improve your language skills and discover something in yourself in this multi-lingual environment. I'll see you here in iCoToBa.

07 iCoToBa

iCoToBaでできること

**iCoToBaは
多文化体験の
「Ba-場-」**

ネイティブの先生や留学生との交流は
自分にとって当たり前の「ものの見方」だけでなく
異文化の人々の「ものの見方」も知ることができる絶好の機会です。
ひとつのものをと、さまざまな視点から考え、行動できることは
グローバルな世界に生きる私たちにとって必須のスキル。
iCoToBaは、まさに多文化体験の「Ba-場-」
あなたの異文化への視野をぐっと広げましょう。

**間違えることを
おそれない**

外国語上達の道は
学習目的を明確にし、それに必要なリソースと学習方法を知り
適切な助言を得ながら、学習を続けること。
そして、実際にコミュニケーションをすること。
iCoToBaでは、そのどちらもサポートします。
あとひとつ、あなたに必要なのは
「間違えることをおそれない」こと。
これがiCoToBaが一番大事なルールです。

08 iCoToBa

iCoToBaのプログラム紹介

iCoToBaでは5つの言語と言語圏の文化について
さまざまな授業を受けることができます。
という、「通常の授業が終わって、また授業〜？」
と思う人もいるかもしれません。
そんなあなたは次ページからの授業説明をチェック!
「あれっ、正規の授業とかなり違うみたい。」
そうです。iCoToBaでは
実用的かつ楽しい授業を各種とりそろえています。
留学したい、各言語に強くなりた、楽しいことがしたい
など、それぞれの目的に合わせて
自分でプログラムを組んでみてください。







英 語	フランス語	スペイン語	ドイツ語	中国語
				
p.09・10	p.11	p.12	p.13	p.14

09 iCoToBa

iCoToBaのプログラム紹介

英 語 ENGLISH

■Survival English
サバイバル英語「こんなとき、なんて言う?」
英語で日常生活を送るために、これだけは知っておきたい表現を身につけよう。

■J-Ambassador
英語で日本PRプロジェクト
- 日本の魅力を発信しよう!
日本の魅力を英語で世界に発信しよう。日本の人口、政治、サブカルについてどれだけ知っている? 話せる?

■Pronunciation Profiles
発音練習
たかが発音、されど発音。ちょっとしたコツでもっと通じる英語になるはず。

■Today's Top News
今日のニュースについて話そう
CNNやBBCなど英語圏のテレビニュースを観て、その内容や背景について話そう。時事問題にも詳しくなれそう。

■Note Taking & Academic Listening
英語で授業を聴いてノートを取る
英語の授業を聴いて理解できるようにしよう。聴きっぱなしではなく書く、これが大事。

■Debate
英語でディベート
今やディベートは英語学習者の基本スキル。意見を効果的に伝えよう。日本語ディベート経験者も歓迎!



ファーン先生からのメッセージ (英語はp.05をチェック!)
こんにちは。ファーンです。オーストラリア出身です。趣味はフルートで、今、名古屋ディレクターズバンドの一員として頑張っています。料理や読書が大好きで、料理家と小説でよくお金を稼ぎます。旅行も好きです。最近行ったのはインドです。これから、よろしくお付き合いします。

10 iCoToBa

■TOEIC Intensive
TOEIC 対策講座
語彙強化・シャドウイング・問題分析など、様々なアプローチで模範試験にタックリング!

■Report Writing
英語で研究計画書、レポートを書いてみよう!
留学を考えている人には実は一番重要なスキル。思い切ってチャレンジしてみよう!


■One-minute Speech
1分間スピーチを練習しよう!
スピーチが苦手な人でも、1分間だったら何かなるはず。英語で即興スピーチ!

■Group Discussion
ディスカッション ディスカッションに強くなる!
ディスカッションやインタビューのマナーと効果的な意見の述べ方を学ぼう。就職活動にも役に立つかも。

■Strategic TOEFL/Successful IELTS
TOEFL/IELTS 対策講座
英語圏の大学学部留学の準備コース。"Answer the question!" を含言葉に目標スコアをクリア!

■The English-Speaking World
英語圏を知りつくそう!
"国際語としての英語"って何だろう? インド英語ってどんなもの? 英語のバラエティについて考えよう。

■Project Work
プロジェクトワークを行って発表しよう!
課題を決め、グループで協力して取り組もう。独創性と行動力が試される!?



ブレット先生からのメッセージ (英語はp.05をチェック!)
こんにちは! ブレットと言います。アメリカのカリフォルニア出身です。日本滞在は5年くらいです。物語が大好きです。小説、映画、漫画、種類問わず物語ってほしい! 名古屋にある英語作家サークルに参加しています。山登りも大好きです。旅行はイタリア、スイス、台湾、そして香港へ行って来ました。一緒に楽しく学びましょう!

11 iCoToBa本

フランス語 Français

■Petite conversation en français
ちょっとチャット フランス語
ネイティブの先生を囲んでフランス語でちょっとしゃべってみよう。

■Prononcez bien le français
発音サロン フランス語
フランス語は発音が命！ 正しい発音をマスターしよう！

■Écoutez bien le français
聞きトレ フランス語
めざせ！ リスニングカアップ、とにかくフランス語の音に慣れよう！

■Dictée bien le français
書きトレ フランス語
ディクテ(書き取り)を練習して、聞く力だけでなく、書く力も強化！

■La Francophonie aujourd'hui
フランス語圏なう。
世界に広がるフランス語圏の時事ネタを詳しく解説。フランクフォニー通になっちゃおう！

■Le Japon aujourd'hui
ニッポンなう。
日本についてフランス語でプレゼンしてみよう！留学先で役立つはず！



モルガン先生からのメッセージ (フランス語はp.05をチェック！)
皆さん、こんにちは。ダレン モルガンと申します。「デニム」の語源となっている町、南フランスのニーム出身です。お店の名前やお菓子の名前など、日本でもフランス語を目にする機会がたくさんあります。フランス語は決して難しい言語ではありません。一緒にフランス語を楽しく学びましょう。

12 iCoToBa本

スペイン語 Español

■Pronunciación y entonación
発音とイントネーション
スペイン語の発音って日本語母語話者には簡単！でも日本語にはない音で意外と難しい。ポイントをおさえて発音上級者に！

■Oratoria
スペイン語プレゼンテーション
これからは自分のことばで自分のことを発信する時代。興味関心、自分の経験、愛知県、県大についてスペイン語でプレゼンできたらかっこいい。

■Lectura y escritura
スペイン語で読み書き
「読み」「書き」ってほんとにめんどうくない。でも、「読み」「書き」ができてこそ大先生！

■Comprensión intercultural
異文化理解
留学する前に、または留学しなくても、スペイン語でスペイン語圏の文化について知り、考えよう。

■Taller de español
楽しいスペイン語
1年生から4年生までスペイン語を勉強している学生がいっぱいになって、歌に踊り、演劇、料理などなど…楽しんじゃおう！

■Vocabulario
スペイン語辞書
「語彙が足りない」と思ったことない？足りないなら増やしちゃう。

■Español general
スペイン語なんてもってレニング
スペイン語始めたばかり。だからとにかくスペイン語に慣れること。使うこと、これが大事。

■Español práctico
サバイバルスペイン語
留学前に、知っておくと役立つトラブル解決のためのスペイン語。大学の窓口で、銀行で、家主と…よい関係を保つために、また、損をしないために。



セルヒオ先生からのメッセージ (スペイン語はp.06をチェック！)
スペイン語は中南米、ヨーロッパの21カ国の公用語です。その他の国々でも広く話され、アメリカ合衆国には4000万人近いスペイン語を母語とする人がいます。国連の公用語でもあります。世界中に5億人の話者がいて、西半球で最も話されている言語。学習されている言語のひとつなのですから、あなたも学習者の一人にならなければ？一緒に学習し、スペイン語をあなたの強みにしましょう！

13 iCoToBa本

ドイツ語 Deutsch

■Deutsche Alltagssprache
日常生活に生かすドイツ語(初級文法編)
「こうやって使えばいいんだ！」授業で習う単語や文法のしくみも、もう怖くない。

■Hörverständnisübung
日常生活に生かすドイツ語(にアングラ編)
みんなて持ちよった身の回りの物たち、ドイツ語でなんと言う？

■Fokus - hören und lesen
口頭表現につなげる読解、聴解
目と目で捉えたキーワードを、自分の口から発信できる表現に変えてみよう。

■Praktische Schreibübungen
表現の多様性を書きながら学ぶ
よくみる表現も、相手や状況で様式が変わるもの。めざせ、スマートなドイツ語！

■Deutsche Landeskunde - Ein Blick hinter die Kulissen
ドイツ語圏(東)事情
「これって、あえて聞けなかった…」そんなトピックを集めて、みんなでナットク。

■Vorbereitungskurs für das Zertifikat
検定試験対策
留学や海外での仕事に必要な語学能力を、キャンパスでもブラッシュアップ。

■Meine Heimat und ich:
Anlässe zu interkultureller Kommunikation
自分(の街)をもう少し知ってもらおう
海外でよく聞かれるのは自分のこと、自分の街のこと。説明の練習を、ロールプレイ形式でレッスン。

■Subkulturen in Japan und Deutschland
日欧サブカル事情
サブカルチャーを糸口に、ドイツと日本のイメージについてディベートしよう。

■Interkulturelle Kommunikation - Arbeitsleben
異文化間コミュニケーションと職業生活
在外体験は、他者の気づきの宝庫。将来を見ずして、学生同士で討論しよう。

■Survivaltips für das Leben in Deutschland
学生生活サバイバル
留学中に体験するあらゆる困難な状況を、シミュレーションから解決！



フンク先生からのメッセージ (ドイツ語はp.06をチェック！)
一緒にドイツ語を楽しみながら練習しましょう！ドイツをはじめオーストリアやスイスに留学したい学生をiCoToBaでサポートします。いつでも私に会いに来てください。可能性が無限に広がるグローバル世界には、はたきましょ！

14 iCoToBa本

中国語 中文

■学发音
発音特訓講座
「中国語、発音良ければ、半ばよし」、親切丁寧に発音を指導、発音克服はコッソリ。

■生活汉语 A1班
日常生活で役立つ中国語
さまざまな生活の場面で用いられる会話表現を学ぼう。

■生活汉语 A2班
日常生活で役立つ中国語
さらにワンステップアップ！ネイティブと内容豊かなやりとりができるレベルをめざそう。

■生活汉语 A3班
日常生活で役立つ中国語
さらにワンステップアップ！ネイティブと内容豊かなやりとりができるレベルをめざそう。

■汉语考试补习班
検定対策補講クラス
留学や就職の武器になる検定試験。苦手問題を克服しながら、合格をめざそう。

■了解中国亚文化
日中サブカル事情
中国人の友だちとの話題になるには、サブカルネタが役に立つ！身近なサブカルについて、調べたり話したりしよう。

■了解日本、紹介日本
中国語で日本を知る、紹介する
外国で、日本について聞かれたら素外答えられないもの。きちんと調べて、中国語で相手に伝えてみよう。

■了解中国生活和文化
中国人の生活と文化
考え方、生活習慣、アイテム等を切り口に、中国語圏に暮らす人々の多様性について知ろう。



顧先生からのメッセージ (中国語はp.06をチェック！)
皆さん、こんにちは。中国語を担当している顧令儀です。日本とゆかりの深い都市、西安(長安)から来ました。皆さんの中国語の勉強や留学準備をサポートし、一緒に楽しく中国語を練習しながら、歴史文化から現代社会まで様々な側面から中国を見ていきたいと思っています。いつでもお気軽にiCoToBaの中国語コースに来てください。

15 iCoToBa本

アドバイジング&カウンセリング

iCoToBaでは、経験豊かなアドバイザーが常駐し、あなたの外国語学習と留学を強力にバックアップします！詳しいスケジュールは、iCoToBaのWebサイトまたはiCoToBa掲示板で確認してください。

留学学習アドバイザーよりひとこと



カスタマイズ感覚でアドバイスします。
外国語の学習についてのカウンセリングを担当しています。留学前の準備としての外国語学習や留学後の外国語学習のフォローアップ、TOEFL・TOEIC・IELTSの検定試験対策など、外国語の学習に関することなら、どんな質問も相談も受け付けます。効率のいい効果的な学習方法をカスタマイズ感覚でアドバイスします。気軽に声をかけてください。

留学学習アドバイザー
Kimie Terazawa

留学アドバイザーよりひとこと



留学前も留学後もしっかりサポートします。
留学に関する相談とサポートを行っています。私自身、長年留学事業に従事し、高校・大学時代に1年の留学を体験しました。必要に応じてiCoToBa所属の外国人教員のアドバイスも受けられます。留学前のオリエンテーションも実施されます。留学中はManabaを利用してサポートを受けられますので、安心して海外留学に飛び込んでください。Bon Voyage!

留学アドバイザー
Morio Ohyama

16 iCoToBa本

ネイティブ教員よりアドバイス

外国語能力を身につけるには？



英語担当
Fern Edebohls

What do you need to become proficient in a foreign language?
① Resources & opportunities. ② The desire to use them.
iCoToBa will take care of ①. ② is up to you! If you really want to communicate, **don't** be afraid of mistakes, and **do** keep on trying. I guarantee that you will succeed!

外国語が上手になるためには、①学習リソースと機会②これらを使いたいという意欲、iCoToBaでは①を提供しています。②はあなた次第！本当にコミュニケーションしたいと思ったら、間違いをおそれず、トライし続けましょう。そうすれば、きっとうまくいくと信じています。



フランス語担当
Morgan Dalin

Prenez du plaisir à communiquer et exprimez-vous spontanément sans avoir peur de vous tromper ! Sur le campus, vous aurez bien des occasions de nouer des contacts et de communiquer dans une ambiance chaleureuse. Vous verrez vite qu'apprendre une langue, ce n'est pas aussi difficile qu'on peut l'imaginer.

外国語を学べば、周りの世界が大きく広がります。県大にはいろいろな国の人々がいて、さまざまな言語が飛び交っています。言語を習得するには、まず、外国語を話したいという強い気持ちを持ち続けることが大切です。そして、思ったことを恥ずかしがらずに言ってみよう。外国語を楽しく学び、あなたの世界を広げてください。

17 iCoToBa本

e-Learningプログラム

e-Learningの魅力は、自分のペースやレベルに合わせて、好きな時に、好きな場所で学べること。上手に活用しましょう。

ALC NetAcademy 2

「スタンダード」と「TOEIC®テスト演習2000」の2つのコースを導入しています。まず「スタンダード」コースで「レベル診断テスト」を受け、速読・速聴、英語の総合的な能力を身につけ、次に「TOEIC」コースで実践形式の演習を行って、TOEICのスコアアップにつなげましょう。

Rosetta Stone

「聞いて話す」訓練を徹底的に繰り返すことによって、日本語に訳したり単語や文法の丸暗記をすることなく、海外で暮らすように自然に言語を習得する環境が再現されています。また「スピーチ解析機能」により、自分の発音が実際にネイティブに通じる発音かどうかを確認しながら効率的に学習できます。何となくもずこいのは、勉強できる言語が30もあること！

Workout フランス語検定

ゲーム感覚でフランス語の聞き取りや書き取りの練習ができます。フランス語検定の級ごとにレベル分けされているから、目標の級を集中して特訓。これで仏検対策もバッチリ！仏検（フランス語技能検定試験）は春と秋（6・11月）の年2回です。

AVE (スペイン語オンラインコース)

スペイン語e-LearningコースAVE（アベ）は、Aula Virtual de Españolの略。「バーチャル教室」の名前の通り、「読む」「聞く」「書く」「話す（録音する）」の練習ができます。動画で視覚化する会話は早く聞けるかもしれませんが、これが聞き取れるようになれば上達したということ。レベルはヨーロッパ共通参照枠に基づいて、DELE（デレ）の対策もバッチリ、AVE仲間とチャットもできます。

18 iCoToBa本

Workout ドイツ語検定

初学者がドイツ語の聞き取りや書き取りの練習を無理なくできるよう、レベルに応じた問題が、少しずつパターンを変えて画面に現れます。独検（ドイツ語技能検定試験）は毎年、春・秋（6・11月）の2回行われます。大学で身につけたドイツ語能力を、力だめしの感覚で確かめてみましょう！

中国語検定 過去問Web

日本中国語検定協会が毎年3月、6月、11月に開催する日本中国語検定の過去問題を学べるWeb、1級から準4級までの大量の過去問を備えています。リスニング・筆記と一つ一つ地道に解きながら過去問の傾向を感じ取ってください。とにかくやりこなくて、合格を勝ち取りましょう！

e-Learningの活用方法

疑問に思ったことは、その場で質問。

e-Learningのよいところは、自分のペースやレベルに応じて、好きな時に、自宅など学外からでもアクセスできるという点です。県大では、英語のみならず、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語の検定試験対策教材と、その他さまざまな言語を学べる多言語学習教材が導入されています。毎日少しずつ継続して学習するのによし、まとまった時間がある時に集中的に取り組むのによし、各自の学習スタイルに合わせて活用してください。ただし、自分で学習する中で疑問に思ったことはそのままにせず、iCoToBa教員に質問して解決していくようにしましょう！

19 iCoToBa本

iCoToBaをもっと活用

a パソコンやiPadを活用して…

プレゼンテーションの準備もバッチリ

空き時間ができたら、iCoToBaのパソコンエリアもぜひ使ってください。無線LANが利用できるエリアもあります！各国語でプレゼンテーションを行う授業にも対応。PCを使ってiCoToBaと図書館にある教材を探すのにも便利です。

自主学習やサイト検索にも便利

e-Learningの各種プログラムの自主学習、各国語の映画DVDを原語の字幕でじっくり鑑賞、iCoToBaのWebサイトから入って、海外のサイトから秘密のお気に入り情報を発掘…などなど、新しいブックマークをつけるのはあなたです。

iPadをもって、学内から自由にアクセス!!

iCoToBaでは、iPadの貸し出しサービスをしています。写真や動画を撮ってプレゼンテーションに活用したり、仲間とディスカッションしながら、作品をつくってみよう。

20 iCoToBa本

b 授業の合間に、世界の映画でリラックス

ソファでくつろぎながら大型スクリーンでゆったりとゆったりとくつろげるソファに座って、各国語のDVDやBlu-rayを大型スクリーンで楽しめます。英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、ロシア語など各国語のテレビ放送もCHECK!

c 雑誌、書籍、DVD貸し出しサービス

おなじみの雑誌が各国語でラインナップ

ELLEやCosmopolitanなど、おなじみの雑誌が各国語でラインナップ。各国語で書かれた日本のガイドブックもあるので留学先の日本の紹介にも便利です。iPadやノートパソコンの貸し出しサービスもぜひ活用してください。

21 iCoToBa本

iCoToBaのイベント

iCoToBaでは、外国語の授業以外にも、さまざまなイベントを計画しています。イベントカレンダーをチェックして、ぜひ参加してみてください。

留学生との交流会

県大や近隣地域に住む留学生とコミュニケーションしませんか？これこそ、グローバルキャンパス！

留学体談談を聞く会

海外留学をした先輩たちの生の声を聞く会で、先生も知らない、リアルに現在進行形の情報が聞けるかも！

iCoToBa Supporters Club (ISC)

ISCとは、iCoToBaのイベントの企画・運営をする学生中心の団体です。様々な企画でiCoToBaを活性化あふれる空間にしていきたい！

文化講座

海外の食文化に触れるパーティ、ミニコンサートや外国の文化を体験するワークショップなど、大学の枠を超えたイベントを企画します。リクエストがあれば、iCoToBaスタッフまで！

映画鑑賞会

ネイティブの先生のおすすめの映画や海外の連続ドラマと一緒に見て、感想を話し合いませんか！

22 iCoToBa本

manabaについて

iCoToBaでは、インターネット・ポートフォリオシステム「manaba（まなば）」を利用してみなさんの学習をサポートします。

先生やクラスメートへの相談

manabaを利用している授業では、授業外の時間でも、先生やクラスメートにアドバイスを求めたり、意見をやりとりすることができます。

留学している県大生とのプロジェクトワーク

海外にいる県大生と、manabaを使ってやりとりし、アンケート調査やインタビューを通して、プロジェクトワークをします。これこそ、バーチャルなグローバルキャンパス！

共通の趣味・目標を持つ仲間とのネットワークづくり

manabaでは、サークルや共通の趣味を持った仲間とグループをつくり、交流することができます。自分たちの活動を発信して、仲間の輪を広げましょう。

manabaを使ってできること

ポートフォリオ (portfolio) ってなあに？

ポートフォリオとは、学習記録を蓄積したものを指します。学習内容を記録することで、自身の成長をふりかえり、次の課題を見つけたら助けになります。これを続けることで、自律学習能力を身につけることができます。

23 iCoToBa

iCoToBa利用のアドバイス

iCoToBaは、語学力アップの授業プログラムに出席するだけでなく、さまざまな目的での利用が可能です。授業の空き時間やアルバイトまでの時間、ちょっとした待ち時間をiCoToBaで生きた時間にしましょう。

「余暇や情報収集」に

「外国」とゆっくりと向き合う時間も大切です

1年生からざっしりの外国語学部のカリキュラム、「外国」とゆっくり向き合う時間も大切です。iCoToBaでは、専攻語を含む多言語のカルチャー雑語や旅行ガイド、DVD視聴しそえ、学生の皆さんがそれぞれのアンテナで「面白い」と感じられるようなトピックを提供していきます。新しいくつろぎの場(Ba)=iCoToBaへ、どうぞ立ち寄り下さい。



「異文化体験」も

自ら表現し、発信する力を育てます

iCoToBaの語学プログラムでは、外国の料理をつくって食べたり、歌を歌ったり、県大にいなから異文化体験ができるイベントも計画。知識を身につけるだけでなく、自ら発信する時代。日本の文化や社会について自分が学んでいる言語で表現、発信できるように、語学力と表現力を鍛えるプログラムが満載です。留学先で自分の出身地域をアピールしたり、就活でのプレゼンにも役に立ちます。

24 iCoToBa

iCoToBa Q&A

Q 「留学する予定がありません」

A iCoToBaでは、いろいろな授業やアクティビティを通じて、少しでも留学を身近に感じてほしいと思っています。でも、どうしても留学が難しい場合、iCoToBaでの活動を組み合わせることで、県大内の模擬留学も可能です！毎日の授業をたくさん取ったり、夏休みの語学合宿に参加することによって、ぜひ県大内留学を味わってみてください。

Q 「語学の勉強は面倒だけど、何か楽しいことがしたい」

A そんなあなたにはiCoToBaで定期的に催されるイベントがおすす。昼休みに気軽に会話をするランチョン・チャットや、コーヒー片手におしゃべりできるコーヒー・アワー、また外国語のDVDを解説付きでみんなで見ると見るDVD鑑賞会はどうですか？日本人選手が多いセリエA、ブンデスリーガ、プレミアリーグを現地解説付きで見るサッカー観戦も企画しています。イベントに参加しているうちに、本格的に勉強したい気持ちになるかも！


Q 「TOEICや語学検定試験用の勉強の仕方がわかりません」

A iCoToBaでは複数のe-Learningプログラムのほかに、コーディネーターの先生によるTOEIC、TOEFL講座を予定しています。また各専攻言語の検定試験対策が盛り込まれたプログラムも用意されています。まずは講座に参加して、独習の仕方を学んでみては？

25 iCoToBa

iCoToBaの基本ルール

- 1、iCoToBaを利用するときは受付カウンターで学生証を提示してください。
- 2、iLoungeには食べ物持ち込みOKですがカップ麺など汁物はNGです。
- 3、iLounge以外では、飲食禁止です。
- 4、外国語ONLY時間は、日本語使用を禁止します。



How to join the iCoToBa program?

プログラムの参加方法

STEP1. 専攻にあったクラスをiCoToBaで相談する
STEP2. クラスの募集状況をHPや掲示でチェックする
STEP3. iCoToBaで参加したいプログラムを予約する

※クラスによっては、予約が不要なものもあります。くれぐれは、iCoToBaのWebサイトや掲示版で確認してください。

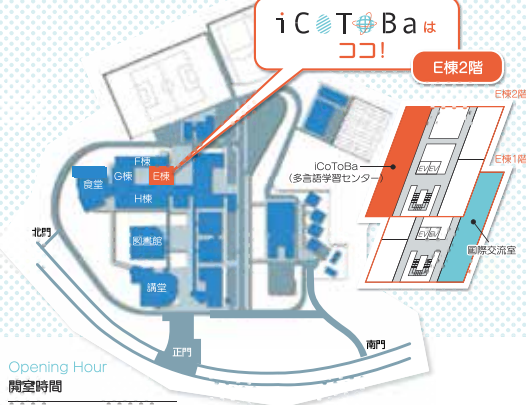
Borrowing Rule

機材等貸し出しのルール

iCoToBaでは、iPad、PC、DVDなどをカウンターで貸し出しています。カウンターで申込み、学生証を預けてください。返却は当日のiCoToBa開室時間内にしてください。

26 iCoToBa

iCoToBaはココ!



Opening Hour
開室時間

Mon-Fri 月曜-金曜 8:50-18:30
Sat, Sun, Holiday 土日・祝日 随室

※長期休業期間中のスケジュールはiCoToBaのWebサイトや掲示版で確認ください。

iCoToBa (多言語学習センター) / E棟2階

愛知県立大学

iCoToBa (多言語学習センター)

〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ瀬 1522番3

TEL: 0561-76-8834 FAX: 0561-64-1107

icotoba@for.aichi-pu.ac.jp

<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

iCoToBa

パンフレット

(英語版)



01 iCoToBa 本

iCoToBa 本

CONTENTS	
Let's Meet at iCoToBa	02
iCoToBa Layout	03
Message from iCoToBa Staff	05
Things You Can Do at iCoToBa	07
iCoToBa Program Introduction	08
Counseling & Advising	15
e-Learning Program	17
Taking Full Advantage of iCoToBa	19
iCoToBa Events	21
About manaba	22
Advice for Utilizing iCoToBa	23
iCoToBa Q&A	24
iCoToBa Basic Rules	25

02 iCoToBa 本

Let's Meet at iCoToBa

Welcome to iCoToBa (aikotoba)! iCoToBa, opened in April 2013, is an area which assists students in learning of foreign languages. Teachers who are native speakers of English, French, Spanish, German or Chinese, and language learning advisors and study abroad advisers support students in their effort to learn a foreign language.

Where Does the Name iCoToBa Come From?

iCoToBa was named with the following wish and hope in mind.

i Stands for the "Ai" in Aichi Prefectural University, the "I" meaning yourself and the "I" for independent.

Co Communication, cooperation and community

To Together, to (toward your goals) and together with your friends

Ba "Ba" in basho or "place" and a place for people to gather

Use iCoToBa as a place to learn with others, grow closer to them and in turn connect with the world!

iCoToBa is not only a place to learn a language in a classroom setting, but a place where you can take part in a number of foreign culture events, such as enjoying lunch time in a foreign language or viewing a foreign movie.

We are looking forward to meeting everyone at iCoToBa!

03 iCoToBa 本

iCoToBa Layout

How about watching foreign TV shows and movies on DVD with your friends?

Foreign language teachers, a study abroad advisor and a language learning advisor are here to fully support your language studies!

Events
Many events are held such as foreign movie sessions and chances to mingle with foreign exchange students to learn more about the cultures and customs of various countries! Be sure to check the event calendar!

Visual-Study Space

Advising Corner

e-Learning System

Foreign Language Lessons

Self Study Space

Activity Space

Reception Desk

i Lounge

Magazine Browsing Corner

Language Learning Reference Materials Corner

iCoToBa Website

Lunch Time / Coffee Hour

Have fun eating lunch with native foreign language teachers or a nice chat over coffee every week!

04 iCoToBa 本

Communication

Events

Self Study Space

Activity Space

i Lounge

Self Study Space

Activity Space

05 iCoToBa

Message from iCoToBa Staff

The English translation of their messages is located in the program introduction for each language (pages 9 - 14)!



Fern Edebohls English Language Teacher

Hi, I'm Fern. I am from Australia. My hobby is playing the flute, and I am currently a member of Nagoya Directors' Band. I love cooking and reading, and spend far too much money on cookbooks and novels! I also enjoy travelling, and recently visited India. I look forward to meeting you.



Brett Hack English Language Teacher

Hi! My name is Brett. I'm from California in the USA. I've been in Japan for about 5 years now. I love stories of all kinds - novels, movies, comics, you name it! I belong to an English writers' group in Nagoya. I also love hiking in the mountains. I've been to Italy, Switzerland, Taiwan, and Hong Kong. Let's have a great time learning together!



Morgan Dalin French Language Teacher

Bonjour ! Que vous soyez débutant ou que vous souhaitiez vous perfectionner en français, j'aurai le plaisir de vous accompagner tout au long de cette année universitaire. Si vous souhaitez progresser dans une ambiance chaleureuse, n'hésitez pas à venir à ma rencontre. À bientôt !



Morio Ohyama Study Abroad Adviser

Studying at an American high school in 1967-68 opened up my eyes to the world. In my last year at Kendai, I traveled across Siberia and around Western Europe for 4 months, and studied for another year in Granada, Spain. I have been enjoying a unique and fulfilling life since then. I'm very happy to have the chance to work with those of you who are interested in exciting new experiences.

06 iCoToBa



Sergio Neri Spanish Language Teacher

El español es la lengua oficial de 21 países en América, Europa y África. También es ampliamente hablado muchos otros países, incluyendo USA donde hay casi 40 millones de hispanohablantes. Es uno de los 6 idiomas oficiales de las Naciones Unidas. En todo el mundo hay cerca de 500 millones de hablantes, por lo tanto es la lengua más hablada en el hemisferio occidental y una de las que tiene más estudiantes en el mundo. ¿Quieres ser uno de estos estudiantes? ¡Únete a nosotros y disfruta los beneficios alrededor del mundo!



Morten Hunke German Language Teacher

Lernen soll Spaß machen! Lernen sollte praktisch sein! Hier bei iCoToBa helfen wir euch dabei euch praktisch und mit Spaß sprachlich zu verbessern. Wir suchen mit euch eine Chance im deutschsprachigen Ausland weiter zu lernen. Bitte, sprecht mich an. Willkommen in der globalen Welt der unbegrenzten Möglichkeiten!



顾令儀 (Lingyi Gu) Chinese Language Teacher

大家好。我是顾令仪。我来自丝绸之路的起点——西安（长安）。我非常喜欢历史、小说、美食、旅游。还有日本的漫画。我觉得想学好一门外语，不光是听说读写，还需要了解那个国家的历史文化和风土人情。欢迎大家来iCoToBa找我，我很期待能和大家成为朋友，共同度过一段美好的时光。



Kimie Terazawa Language Learning Advisor

Welcome to iCoToBa! Enjoy collaborative learning with us and appreciate diversity in iCoToBa. Learning other languages enables you to widen your mind and deepen your thoughts. Join us to improve your language skills and discover something in yourself in this multi-lingual environment. I'll see you here in iCoToBa.

07 iCoToBa

Things You Can Do at iCoToBa

iCoToBa is a place (Ba) for multicultural experiences

Talking and exchanging experiences with foreign language teachers from other countries and exchange students is a good opportunity to see how people from a different culture view the world in ways that are different from your own.

Being able to think about things from a different perspective is a vital skill for those of you who want to live and work in a global world.

iCoToBa is the perfect place (Ba) to experience multiculturalism and will do a great deal to broaden your horizon of other cultures.

Don't be afraid to make mistakes

The road to improving your proficiency in a foreign language involves clarifying your learning goals, knowing the resources necessary and learning methods to achieve them and to continue with your learning while receiving appropriate advice.

The next important point is actually communicating on your own.

iCoToBa will support you in both of these endeavors.

Another important point for you to remember is never to be afraid to make mistakes.

This is the most important rule at iCoToBa.

08 iCoToBa

iCoToBa Program Introduction

At iCoToBa, students are able to take a wide variety of classes in five different languages and cultures.

When you read this you may be thinking, "I will have more classes after I get done with my regular ones?"

If this is what you are thinking, be sure to start reading the next page!

"Oh, these classes seem quite different than normal classes."

That's right. iCoToBa has a number of classes that are both practical and fun.

Select the best program that matches your goals, whether you want to study abroad, speak a language better or do something fun.







English
ENGLISH
p.09-10



French
Français
p.11



Spanish
Español
p.12



German
Deutsch
p.13



Chinese
中文
p.14

09 iCoToBa

iCoToBa Program Introduction

English ENGLISH

■Survival English
Survival English is learning what to say in certain situations.
Learn vital phrases necessary for living your daily life using English.


■J-Ambassador
Project to promote and advertise Japan in English - Find what makes Japan attractive to you!
Communicate in English what makes Japan a great place to people around the world. How much do you know about the population of Japan, its politics and sub-culture? Can you talk about it?

■Pronunciation Profiles
Practicing pronunciation
Just the mere act of pronouncing English can be difficult, but learning a few tricks will make your English much easier for native speakers to understand.

■Today's Top News
Talking about today's news
Talk about the latest new developments after watching the TV news in English on channels such as CNN and BBC. You are bound to become more knowledgeable in current affairs.

■Note Taking & Academic Listening
Taking notes while listening to a class in English
Learn to understand classes in English. It is important to write down notes, rather than just listening to the class.

■Debate
Debating in English
Recently, debating has become a basic skill for English learners. Learn how to effectively convey your own opinion. We look forward to students who have experience debating in your own language as well!



A Message from Fern-Sensei

Hi, I'm Fern. I am from Australia. My hobby is playing the flute, and I am currently a member of Nagoya Directors' Band. I love cooking and reading, and spend far too much money on cookbooks and novels! I also enjoy travelling, and recently visited India. I look forward to meeting you.

10 iCoToBa

■TOEIC Intensive TOEIC Course
Improve your vocabulary, shadowing and problem analysis using a variety of approaches to tackle the examination!

■Report Writing
Learn how to write research papers and reports in English!
This is the most important skill for those students considering studying abroad. Why not take the plunge and challenge yourself?

■One-minute Speech
Practice one minute speeches!
Even if you are not the best speaker, you should be able to do a one minute speech. Learn to do extemporaneous speeches in English!

■Group Discussion Become better at speaking in group discussions!
Learn the rules of discussions and interviews and how to effectively convey your opinion. These skills might be helpful when taking a job interview.

■Strategic TOEFL/Successful IELTS TOEFL / IELTS Course
This course prepares students for studying in an undergraduate program abroad at an English-speaking university. Achieve your target score by sharing this phrase with the class: Answer the question!

■The English-Speaking World
Learn about the English-speaking world!
What does it mean that English is the international language? How is English in India different from other locations? Learn about the different varieties of English.

■Project Work
Perform project presentations!
Decide on a topic and then work in groups to make the project a success. Your originality and ability to take action may be tested!



A Message from Brett-Sensei

Hi! My name is Brett. I'm from California in the USA. I've been in Japan for about 5 years now. I love stories of all kinds - novels, movies, comics, you name it! I belong to an English writers' group in Nagoya. I also love hiking in the mountains. I've been to Italy, Switzerland, Taiwan, and Hong Kong. Let's have a great time learning together!

11 iCoToBa

French Français

■ **Petite conversation en français**
Quick conversations in French
Have fun gathering around your native French language teacher and talking a little in French.

■ **Prononcez bien le français**
French pronunciation
Learning to pronounce French words correct is vital! Completely master the correct pronunciation of French words at the start of your studies.

■ **Écoutez bien le français**
French listening comprehension
Aim to improve your listening comprehension and at least become familiar with the French sounds!

■ **Dictez bien le français**
Writing comprehension
Practice writing (dictée) to become proficient at not only listening but also writing as well!

■ **La Francophonie aujourd'hui**
French-speaking world
Learn about current events in the French speaking world that continues to grow larger.
Become an expert of Francophonie

■ **Le Japon aujourd'hui**
Presentations on Japan
Make presentations on Japan in French. It is sure to be helpful when studying abroad!



A Message from Morgan Sensei (See page 5 for the French text!)

Hi, everyone! My name is Morgan Dallin. I am from Nîmes in southern France, the city where the term "denim" came from. There are many opportunities to see French used even in Japan in stores and sweet pastry names and other products. French is not a difficult language at all. Let's have fun studying French together!

12 iCoToBa

Spanish Español

■ **Pronunciación y entonación**
Pronunciation and intonation
It is easy for Japanese speakers to pronounce Spanish words! On the other hand, sounds that are not in the Japanese language are actually difficult to pronounce. If you get the important points of pronunciation down you too can become an expert!

■ **Taller de español**
Having fun in Spanish
First to fourth year students all study Spanish together and have fun singing, dancing, acting, cooking and many other things!

■ **Vocabulario**
Spanish vocabulary
Have you ever thought you lacked an ample amount of vocabulary? If you think you know too few words, we can help you!

■ **Español general**
Practicing everything in Spanish
You just started studying Spanish. So the most important thing is to get used to Spanish and to use it often.

■ **Español práctico**
Survival Spanish
This is Spanish that will come in handy when you are having problems and would be better to know before studying abroad. This is vital Spanish for maintaining relationships and making sure you don't lose them when speaking at a help desk at school, a bank or with your landlord.

■ **Lectura y escritura**
Reading and writing in Spanish
Reading and writing are the most troublesome skills to learn. But you must master them as a university student.

■ **Oratoria**
Presentations in Spanish
In this day you must be able to promote yourself in your own words. Wouldn't it be cool if you could talk about your interests, your hometown, Aichi Prefecture or Aichi Prefectural University in Spanish?

■ **Comprensión intercultural**
Intercultural Comprehension
Learn and think about Spanish culture in Spanish before going abroad, or even if you are not planning on going abroad.



A Message from Sergio Sensei (See page 6 for the Spanish text!)

Spanish is the official language of 21 countries in America, Europe and Africa. It is also widely spoken in many other countries, including the USA where there are nearly 40 million Spanish speakers. It's one of the 6 official languages of the United Nations. Worldwide there are almost 500 million speakers therefore it's the most spoken language in the Western Hemisphere and one of the languages with most students in the world! Do you want to be one of these students? Join us and enjoy the benefits around the world!

13 iCoToBa

German Deutsch

■ **Deutsche Alltagssprache**
German you can utilize in your daily life (Basic grammar)
"So that is how you use this grammar!" This is what you will be saying in class as you learn how vocabulary and grammar work so it is no longer scary.

■ **Hörverständnisübung**
German you can utilize in your daily life (Listening)
What do you call all of the things you have brought around you in German?

■ **Fokus - hören und lesen**
Reading and listening comprehension connecting to your words
You will learn how to use the keywords you see and hear into your own words.

■ **Praktische Schreibübungen**
Learn about the diversity of expression while writing
The way you use an expression used frequently will change depending on the person you are talking to or the situation. Your goal is to use German seamlessly!

■ **Deutsche Landeskunde - Ein Blick hinter die Kulissen**
Learn about (surprising) current events in Germany
We will gather and talk about topics that you have a hard time talking about.

■ **Vorbereitungskurs für das Zertifikat**
Studying for examinations
Brush up on the vocabulary you will need to work or study abroad overseas at the campus.

■ **Meine Heimat und ich:**
Anlässe zu interkultureller Kommunikation
Know a little bit more about yourself (and your city)
Overseas you will often be asked about yourself and where you are from in my lesson we will role play how to explain this to others.

■ **Subkulturen* in Japan und Deutschland**
Subculture in Japan and Germany
Join in a debate about how Germany and Japan are viewed starting with their subcultures.

■ **Interkulturelle Kommunikation - Arbeitsleben**
Cross-cultural communication and work life
Living abroad gives you the opportunity to notice a wealth of different things about others. Let's discuss things with your classmates looking ahead to your future.

■ **Survivaltips für das Leben in Deutschland**
Surviving school life
We will help you overcome all kinds of difficult situations you will experience while studying abroad through simulations!



A Message From Hunke Sensei (See page 6 for the German text!)

Let's have fun practicing German together! iCoToBa supports all students who are planning to study abroad in Austria, Switzerland and of course Germany. Feel free to come and talk to me anytime. I am looking forward to all of my students expanding their horizons in this global world with its endless possibilities!

14 iCoToBa

Chinese 中文

■ **学发音**
Special pronunciation training
When speaking Chinese, half of them is well if your pronunciation is good and I carefully and thoughtfully instruct my students on the correct pronunciation. This is the place to overcome the difficulty of pronunciation.

■ **生活汉语 A1班**
Chinese helpful for daily life
Learn different conversational expressions that are used in a wide variety of situations.

■ **生活汉语 A2班**
Chinese helpful for daily life
Students work hard to be able to converse about a wide variety of topics with native speakers.

■ **学习惯用语和谚语**
Learn about Chinese culture through common phrases and proverbs
Expand your ability to use different expressions in conversation using common phrases and proverbs. You will become an advanced speaker of Chinese if you can use them in your conversations!

■ **汉语考试补习班**
Special classes for examination practice
Passing the examination will give you an advantage when going abroad or searching for a job. Work toward passing the test while overcoming the problems that are most difficult for you.

■ **了解日本、介绍日本**
Learn about and introduce Japan in Chinese
It is rather difficult to answer questions about Japan when you are overseas. Students will work on searching for information and being able to convey it properly in Chinese.

■ **了解中国亚文化**
Subculture in China and Japan
Subculture is sure to be a topic you will talk about with your Chinese friends. We will have fun talk about the subculture that is familiar with you.

■ **了解中国生活和文化**
Life and culture of the Chinese
Learn about the vast diversity of people living in Chinese speaking areas, starting from the topics such as how they think, their living habits, things they use every day, etc.



A Message from Gu Sensei (See page 6 for the Chinese text!)

Hi, everyone. I'm Lingyi Gu, your Chinese teacher. I'm from Xian (formerly Changan), a city that has close ties with Japan. I will be supporting both your Chinese language studies, and your study-abroad preparations. As we enjoy practicing Chinese together, we will explore many aspects of Chinese culture, from historical traditions through to modern society. Feel free to join a class or drop by iCoToBa anytime.

15 iCoToBa

Counseling & Advising

iCoToBa has advisors with a wealth of experience who are ready to support you in your foreign language learning and studying abroad. For a more detailed schedule, see the iCoToBa website or check the iCoToBa bulletin board.

Comment from the Language Learning Advisor



I offer advice that is specific to each student's situation.

I am responsible for counseling students as they learn a foreign language. I am happy to answer any questions or discuss topics ranging from foreign language learning, preparations before studying abroad, how to continue your studies after returning from abroad, and TOEFL, TOEIC and IELTS examination preparations. I will offer advice that is specific to each student's situation so that you can move forward with your studies in the most efficient and effective way. Feel free to come by anytime.

Language Learning Advisor
Kimle Terazawa

Comment from the Study Abroad Adviser



I support all students before, during and after you study abroad.


I offer advice and answer questions to students who are studying abroad or who are considering it. I have been involved in overseas studies for many years and I myself studied in an American high school and a Spanish university. Students can also get advice from foreign teachers at iCoToBa when needed. We offer orientations for students before they study abroad and we use manaba to support students while they are abroad. Students can go abroad without any worries. Bon Voyage!

Study Abroad Adviser
Morio Chiyama

16 iCoToBa


Advises from Foreign Language Teachers

How do you become proficient in a foreign language?



English Teacher
Fern Edebohl

What do you need to become proficient in a foreign language? ① Resources & opportunities. ② The desire to use them. iCoToBa will take care of ①, ② is up to you! If you really want to communicate, **don't** be afraid of mistakes, and **do** keep on trying. I guarantee that you will succeed!



French Teacher
Morgan Dallin

When you learn a foreign language, the horizon of the world around you expands. There are people from all different countries at Aichi Prefectural University and people using all different kinds of languages. It is important to continue to have the deep desire to speak a foreign language as you learn it. Speak your mind without being self-conscious. Broaden your horizons by having fun learning a foreign language.

Prenez du plaisir à communiquer et exprimez-vous spontanément sans avoir peur de vous tromper! Sur le campus, vous aurez bien des occasions de nouer des contacts et de communiquer dans une ambiance chaleureuse. Vous verrez vite qu'apprendre une langue, ce n'est pas aussi difficile qu'on peut l'imaginer.

17
iCoToBa

e-Learning Program

The beauty of the e-Learning program is that you can learn when you want, and where you want at the pace and level you desire. Be sure to use this great asset effectively.

ALC NetAcademy 2

Rosetta Stone

Workout French Proficiency Test

AVE (Spanish Online Course)

Two different courses have been introduced, the Standard Course and the TOEIC® Test Practice 2000 Course. First take the "Level Diagnostic Test" in the Standard Course and learn speed reading and listening in English among other comprehensive skills. Next, try the TOEIC Course drills that will help raise your TOEIC score.

Using Rosetta Stone to fully listen and repeat phrases will recreate an environment similar to living abroad where you naturally learn the language without translating into your native language, or memorizing vocabulary of grammar. Using the Speech Analysis Function you can check whether your pronunciation will be understood by native speakers. The most impressive thing is that you can study 30 different languages!

Students can brush up their listening and writing skills in French just like playing a game. Since the classes are given according to the French Proficiency Test levels, it is possible to focus on the level you would like to reach. This is the perfect way to study for the test! The French Proficiency Tests are held twice a year in the spring and fall (June and November).

The Spanish e-Learning Course AVE is an abbreviation for Aula Virtual de Español. Just as the name suggests, students can practice their reading, listening, writing and speaking skills. The conversations you hear in the videos may sound fast, but once you are able to listen to them it means you have improved your skills. The levels are based on the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) and are the perfect way to prepare for DELE. You can also chat with other people that are studying with AVE.

18
iCoToBa

Workout German Proficiency Test

Chinese Proficiency Test Past Questions on the Web


Questions appear on the screen according to your current level and the patterns change little by little so that even beginners are able to practice listening and writing in German without any problems. The German Proficiency Tests are held twice a year in the spring and fall (June and November). The test is a great opportunity for you to test your German ability and the knowledge you learned while at school!

The Society for Testing Chinese Proficiency Japan has a website where students can review past tests and answers on the Test of Chinese Proficiency held in March, June and November each year. The website has numerous questions and answers from Pre-Fourth Grade to First Grade. Check what kind of tests they are by going through each listening and writing section one by one. Doing this will set you on the path to success!

How to Utilize the e-Learning Method

Ask Questions If You Are Unsure

The great part about e-Learning is that you can study at your home or outside of school when you want and at your own pace and level. At Aichi Prefectural University we have many materials students can use to prepare for examinations for not only English, but Chinese, French, German and Spanish, and there are also other materials to study many other languages. Either you want to study each day little by little or to set a block of time to really focus on your studies, feel free to use the materials to suit your own study style. However, be sure to ask the iCoToBa teachers if you have any questions or concerns while you are studying because they are always there to help solve them!



19
iCoToBa

Taking Full Advantage of iCoToBa

a Utilize Computers and iPads



Make the Perfect Presentation

Come by and check out the iCoToBa computer area if you have time.

There is also a place where the wireless LAN is available. It is also possible to hold classes with presentations in various languages. It is also convenient to look for teaching materials in the library and at iCoToBa using the computers.



Convenient for Self-Learning and Searching the Website

Use various e-Learning programs for self-learning, watch a number of different foreign films with the native subtitles on, or enter the iCoToBa website and find secret bookmark information from overseas sites. It is up to you to discover new bookmarks.



b Relax and Enjoy a Foreign Movie Between Classes

Sprawl Out on the Sofa While Watching a Movie on the Big Screen

Students can watch foreign DVD or Blu-ray movies on the big screen while relaxing in a sofa chair. Also be sure to check out the TV programs in English, French, Spanish, German, Chinese, Russian and other languages!

c Magazine, Book and DVD Rental Service

Magazines You Know in a Variety of Languages

ELLE, Cosmopolitan and many other magazines you know are available in different languages. There are also guidebooks on Japan written in different languages which are convenient for introducing Japan at your overseas study location. Also be sure to use the iPad and notebook computer rental service.

Take Out an iPad to Access These Services from the School!!

iCoToBa has a service to lend iPads to students. Use it to take pictures or video for a presentation or create something while discussing it with your peers.

20
iCoToBa



a Utilize Computers and iPads

Make the Perfect Presentation

Come by and check out the iCoToBa computer area if you have time.

There is also a place where the wireless LAN is available. It is also possible to hold classes with presentations in various languages. It is also convenient to look for teaching materials in the library and at iCoToBa using the computers.



Convenient for Self-Learning and Searching the Website

Use various e-Learning programs for self-learning, watch a number of different foreign films with the native subtitles on, or enter the iCoToBa website and find secret bookmark information from overseas sites. It is up to you to discover new bookmarks.



b Relax and Enjoy a Foreign Movie Between Classes

Sprawl Out on the Sofa While Watching a Movie on the Big Screen

Students can watch foreign DVD or Blu-ray movies on the big screen while relaxing in a sofa chair. Also be sure to check out the TV programs in English, French, Spanish, German, Chinese, Russian and other languages!

c Magazine, Book and DVD Rental Service

Magazines You Know in a Variety of Languages

ELLE, Cosmopolitan and many other magazines you know are available in different languages. There are also guidebooks on Japan written in different languages which are convenient for introducing Japan at your overseas study location. Also be sure to use the iPad and notebook computer rental service.

Take Out an iPad to Access These Services from the School!!

iCoToBa has a service to lend iPads to students. Use it to take pictures or video for a presentation or create something while discussing it with your peers.

21
iCoToBa

iCoToBa Events

iCoToBa has many different events planned other than your usual foreign language classes. Check the event calendar and join the events you like.

Gatherings with Exchange Students

Would you like to talk with foreign exchange students studying at Aichi Prefectural University or those living in the area? This is truly a global campus!

Sessions to Talk with Students Returning from Abroad

There are opportunities to talk with senior students who studied overseas. You can get the latest information about a place that even the teachers don't know about!

iCoToBa Supporters Club (ISC)

ISC is a group of students that plans and runs iCoToBa events. This group is here to make iCoToBa fun and lively place!

Cultural Lectures

Events which exceed the boundaries of the university are planned such as parties to experience food from overseas, mini concerts and workshops for students to experience foreign culture. Let the iCoToBa staff know if you have any requests!

Movie Viewing Club

Watch movies and overseas drama recommended by teachers from that location and talk about your impressions!



22
iCoToBa

About manaba

iCoToBa assists everyone's learning using the manaba internet portfolio system.

Consult with Teachers or Classmates

In classes that utilize manaba, students can ask teachers or classmates for advice and exchange ideas, even outside a classroom.

Projects with Students Studying Abroad

Use manaba to exchange ideas with students overseas, and complete projects using questionnaires and interviews. This is a truly global virtual campus!

Create Networks of People with the Same Interests and Goals

With manaba, you can create groups of people that share the same interests or circles to exchange ideas. Let people know what you are doing so that you can increase your circle of friends.

What You Can Do with manaba

What is a portfolio?

A portfolio is a list of your records of learning. Keeping the record of what you have learned makes it possible to look back at your own growth and helps you find your next goals. This helps students increase their ability to study on their own.


23 iCoToBa

Advice for Utilizing iCoToBa

You can use iCoToBa for different purposes rather than just attending classes to increase your language ability. Use iCoToBa when you have some spare time, such as when you are waiting for a class or your part-time job to start.

Use iCoToBa as a Place for Having Fun and Gathering Information
Take a look at foreign countries

Even though the curriculum for new students in the School of Foreign Studies is tight, it is important to learn about the countries and the languages you are studying. At iCoToBa we have a large number of cultural magazines, travel guides and DVDs in multiple languages including the language you are majoring in and provide information that you find it interesting. Please come over to the this exciting place (Ba) to hang out, iCoToBa.



Cross-Cultural Experience
Develop your ability to express yourself

In the iCoToBa language programs we have events planned where students can make and eat food from different countries, sing songs and experience different cultures while being at Aichi Prefectural University. Today you must not only obtain knowledge, but also be able to promote yourself. iCoToBa has many programs to improve your vocabulary and ability to express yourself so that you can express and promote yourself in the language you are learning regarding Japanese culture and society. This knowledge is helpful in explaining where you came from when you are overseas, or when you give a presentation at a job interview.

24 iCoToBa

iCoToBa Q&A

Q "I don't plan on studying abroad."

A At iCoToBa we hope that students feel as though they are studying abroad through our different classes and activities. If it is difficult for you to actually study abroad, it is possible to experience something similar to studying abroad at Aichi Prefectural University by combining the activities iCoToBa has to offer! Taking many different classes in the target language and participating in the summer language camp can be a substitute.

Q "It will be troublesome to study a language, but I want to do something fun."

A We recommend students such as yourself to take part in the events that are held periodically at iCoToBa. How about participating in the luncheon chat during the lunch break, drinking hot coffee with other students during coffee hour, or watching a foreign DVD? We are also planning to watch a soccer game in Serie A, Bundesliga or the Premier League which has many Japanese players and includes a live play-by-play at the site. Maybe you might feel like really putting your mind to studying a language after participating in those events!


Q "I don't know how to prepare for TOEIC or other language proficiency tests."

A In addition to the multiple e-Learning programs, iCoToBa also has TOEIC and TOEFL classes. We also have programs to give you tips for how to study for the examination you are taking. Participate in the lecture then you will learn the methods of studying on your own.

25 iCoToBa

iCoToBa Basic Rules

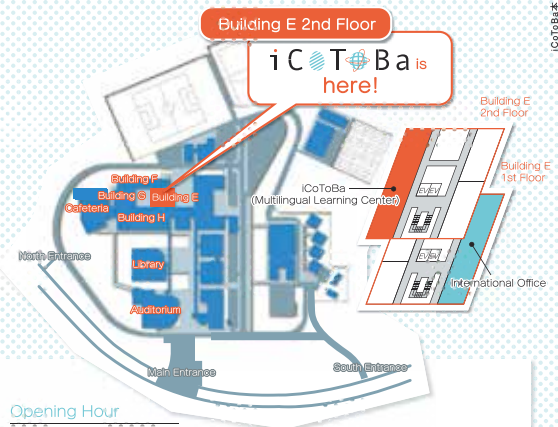
1. Please present your student ID card at the reception counter when using iCoToBa.
2. Bringing in food to the iLounge is fine, but please don't bring cup noodles or other types of soups.
3. Do not eat in any place other than iLounge.
4. Do not use Japanese during certain periods when only other languages can be used.



How to join the iCoToBa program?
Step 1 : Consult the advisors/teachers as to which class is right for you.
Step 2 : Check the website or bulletin board to see whether the class is available.
Step 3 : Register classes you would like to participate in at iCoToBa.
Note: Registration is not required for some classes. Please see the iCoToBa website or bulletin board for further information.

Rules for Borrowing Items
iCoToBa lends out iPads, computers, DVDs and other items. Check in at the reception with your student ID card. Please return the item before iCoToBa closes that day.

26 iCoToBa



Opening Hour
Mon - Fri: 8:50AM - 7:30PM
Closed Sat, Sun and Holidays
Note: See the iCoToBa website or bulletin board for hours during long holiday breaks.

iCoToBa (Multilingual Learning Center) / Building E 2nd Floor

Aichi Prefectural University
iCoToBa (Multilingual Learning Center)
1522-3 Ibaragabasama, Nagakute-shi, Aichi, 480-1198, Japan
TEL: 0561-76-8834 FAX: 0561-64-1107
icotoba@for.aichi-pu.ac.jp
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

むすびにかえて

高橋 慶治(国際関係学科)

筆者は、今アラビア語を勉強している。本当はヒンディー語を勉強しなければならないので、e-Learning を経験するためにと割り振られたロゼッタストーンのアカウントを使ってヒンディー語もやってはいる。アラビア語は、ロゼッタストーンでもできるのだが、実際には NHK のラジオ講座で勉強している。

考えてみれば、今やいろいろな方法で外国語を学ぶことができるようになった。筆者が学生時代を過ぎた 30 年余前には考えられなかったことである。いい時代になったと思う反面、これをじゅうぶんに活用できないでいる学生も多いのではないかと思う。

今は、英語ができるようになりさえすればグローバル化したことになって、他の言語を学ぶのは、たんに趣味や興味に過ぎず、実践的には役に立たないと考えている輩が多くなってしまったように思う。政府の諮問委員などになっている有識者と呼ばれる人たちにそんな傾向が強いように思うのは筆者だけだろうか。ノーベル物理学賞を受賞した益川さんが、自分は英語ができないからと受賞スピーチを日本語で行ったことは有名だが、以前インタビューで「英語は、できるに越したことはない。でも、できなくたって生きていく道はある。つまり、英語「も」大事なんです。」と言っている(朝日新聞朝刊 2014 年 11 月 26 日 耕論)。英語も大事だが、他のものも大事だという姿勢である。むろん、益川さんが言っている他のものは語学以外の勉強であって、英語以外の語学という意味ではない。しかし、益川さんのことばを敷衍して考えれば、他の語学も大事である。彼にとって語学は苦手分野らしいので、英語以外の語学は目に入っていないのかもしれないが。

語学は、必要に迫られてすることが多い。フランス語が必要ならフランス語を、スペイン語が必要ならスペイン語を、などなど。必要性は人によって違う。ドイツ語の小説を読みたいとか、中国人の恋人がいるとか。日本のアニメを見たり、アニソンを聞いたりして、日本語を知っている外国人がかなりの数に上ると思われる。日本のアニメが面白いのだからそれでいいのだ。

愛知県立大学で iCoToBa(多言語学習センター)が始まって 2 年余りがたった。本報告書をご覧になればわかるように、さまざまな授業、プログラム、イベントが用意されている。学生の皆さんが自分の興味あるものに参加することから始めて、これを大いに活用していくことを期待したい。

今年度は、学部長としてグローバル人材推進事業に申請、推進してこられた堀先生と、スペイン学科(現ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)で長くスペイン語の研究と教育に携わってこられた堀田先生が定年で退職される。4 年目の推進事業は、事業費の給付期間終了が見え始

め、今後この事業をどのように展開するのかを検討する時期に入ると言える。年々変化する中で、しかし、浮ついた変化に流されることなく真に重要なものは何かを追い求め、グローバルに通用する学生が育つことを願う。

iCoToBa 年報 第2号

2015（平成27）年3月発行

発行：愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）
〒480－1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522－3 外国語学部棟 2 階
Tel: 0561-76-8833 Fax: 0561-64-1107
e-mail icotoba@for.aichi-pu.ac.jp
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

印刷 株式会社 あるむ

iCoToBa Annual Report
Aichi Prefectural University